

大阪府立大学看護学部年報

2012年度



2013年
第8卷

はじめに

看護学部は、質の高い看護職の育成という、現在医療界の喫緊の課題を果たすべく地域保健学域・看護学類に移行し、平成 24 年度入学生から看護学類の新カリキュラムの教育を開始いたしました。

平成 24 年度当初に看護学部（看護学類）・看護学研究科の課題として取り上げたものは以下の通りです。

- ・看護学部（看護学類）
 - ①保健師助産師看護師学校等指定規則改正に伴う新カリキュラム教育の実施
 - ②入試広報活動推進
 - ③府立病院機構との連携推進
 - ④ピア授業参観実施

- ・看護学研究科
 - ①専門看護師教育課程（CNS）38 単位への移行
 - ②「がんプロフェッショナル育成プロジェクト」（平成 24 年度～28 年度）の推進
 - ③国際交流（タイ王国 マヒドン大学 Exchange Program）の評価・推進

これらの課題は、各委員会・ワーキンググループ等の活動により達成できたもの、また時期的に実現が難しかったもの等、達成度は様々です。

大学全体の組織が大きく変化する中で「府大看護学研究科」として教育・研究を通して社会に貢献し続けるためには、自己点検・評価に基づき P D C A サイクルを丁寧に回し、更に質の高い教育・研究を提供できる様に改善していくことが求められています。

年報作成にあたっては看護学研究科の歩みをふり返り、データに基づき客観的にまとめる努力をいたしました。労の多い編集作業を担った看護学部（看護学類）評価・企画実施委員会委員等担当者に心から感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月 31 日

大阪府立大学 看護学部（看護学類）
学部長・研究科長 高見沢 恵美子

目 次

はじめに

第1章	目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2章	教育研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第3章	教育研究組織の実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第4章	学生の受け入れ・・・・・・・・・・・・・・・・	30
第5章	教育内容及び方法・・・・・・・・・・・・・・・・	35
第6章	学生支援・・・・・・・・・・・・・・・・	44
第7章	教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム・・・・・・・・	48
第8章	研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・	51
第9章	社会貢献と国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・	55
資料	大阪府立大学看護学部教員業績一覧・・・・・・・・	62

編集後記

第1章 目的

1. 学士課程

看護学部(看護学類)の教育目的は、「生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成する。」であり、教育目標として以下の5つを掲げている。①人間の痛み、苦しみを分かち合え、幅広い教養を身につけ、生命の尊厳について深く理解し、行動できる豊かな人間性を養う。②看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と問題解決能力とあわせ、社会の変化や医療技術の発展に対応できる能力を養う。③保健・医療・福祉・教育・地域においてヒューマンサービスを提供する人々と連携し、看護の実践と調整的な機能を果たす能力を養う。④変化する社会の中で看護の役割を展望し、発展させ、地域的・国際的な視野で貢献できる能力を養う。⑤看護学への関心を深め、総合的な視野と看護研究の基礎能力を養う。

以上の目的は、大阪府立大学看護学部規程に「教育目的」として定められている(規程第54号第2条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000931.html)。更に教育目標は、履修要項およびホームページと看護学類案内に示し、学内外に広く周知されている。

特に看護学類の新入生を対象としたガイダンスにおいては、教務委員長より教育目的、教育目標について説明を行うとともに、履修要項や学類案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。

更に新たに就職した教員には、看護学部長(学類長)からのオリエンテーションの際に、本学部(学類)の教育目的、教育目標について説明を受ける機会が設けられている。また、受験希望者には学類案内を送付すると共に、オープンキャンパスや入試ガイダンスの参加者に説明を行い、広く社会に公表している。

2. 大学院課程

看護学研究科の教育理念は、「生命と人権の尊重を基盤とし、保健・医療・福祉及び社会の諸変化に対してクオリティ・オブ・ライフ(QOL)を志向した創造的・実践的な対応ができる専門的知識と技術をもった人材を育成し、看護学の発展と人々の健康に寄与する。」である。

博士前期課程では、「人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な看護実践能力を有する人材を育成する。」を目的とし、「①専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する。②専攻する専門領域の看護実践の質の向上を目指して、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進する。③高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を判断し調整する。④看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用する。⑤看護教育並びに看護実践の向上のために、相談・教育・調整機能を高める。⑥専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める。⑦看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献する。」ことを目標にしている。

博士後期課程では、「豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を極め、自立して研究活動を行うことのできる能力を有する人材を育成する。」を目的とし、「①看護実践の改革を目指し、専門性の高い看護ケアを開発する。②理論や看護援助方法の妥当性を科学的に検証する。③優れた看護実践、関連領域の知識・研究を用いて、研究活動を行い、看護学の発展に寄与する。④教育、医療、研究、行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮する。⑤都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画する。⑥学際的、国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献する。」ことを目標

にしている。

看護学研究科の目的は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程に示されている（規程第 61 号第 2 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001001.html）。さらに、「教育理念」および「博士前期課程教育目的・教育目標」、「博士後期課程教育目的・教育目標」は履修要項およびホームページと看護学研究科案内など学内外に広く周知されている。

特に研究科の新入生を対象としたガイダンスにおいては、看護学研究科長より教育目的、教育目標について説明を行うと共に、履修要項や研究科案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。

また、受験希望者には研究科案内を送付すると共に、受験前の指導教授との面談において説明を行うなど、看護学研究科の目的は、広く社会に公表している。

第2章 教育研究組織

1. 領域・分野と教員組織

1) 学士課程の教員組織

看護学部（看護学類）の教育目的に基づき、学士課程は学則に則って遂行され（規程第 47 号第 1～42 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000031.html）、教員は大学設置基準第 12～13 条に基づき確保している。平成 24 年 10 月 1 日現在、専任教員数 59 名（教授 17 名、准教授 15 名、講師 5 名、助教 22 名）で教育課程を遂行している。教員数、教員配置については、ホームページ上で公表している。

教員組織は看護学部（看護学類）の教育目的に則り、教育課程として共通教育科目（教養科目・基盤科目）、専門支持科目、専門科目という3区分からなる。教員組織は、健康科学、基礎（人・環境支援）看護学、家族支援看護学、生活支援看護学、療養支援看護学の5領域となっている。健康科学領域は共通教育科目（教養科目・基盤科目）、専門支持科目の一部を担当し、他の4領域は主として専門科目に対応するよう編成されている。これに基づき、各領域に教授、准教授、講師及び助教を配置している。教員間の組織的な連携体制は、各領域に主任教授がおかれ、領域内および領域間の調整が行われる。教育に係わる責任者は、授業科目毎の担当者が教務委員会、教授会を経て毎年度決定され、シラバスに明示している。

上記のように教員組織は5領域で構成され、教育研究を推進している。各領域の教育課程上の担当分野は次の通りである。「健康科学領域」では、教養教育と専門支持教育を担当している。「基礎（人・環境支援）看護学領域」では、看護・看護学とは何かについて看護の対象となる「人」、その人をめぐる「環境」、看護の目的である「健康」から理解するとともに、基礎的な看護技術を習得し、統合された存在である人に対して、看護独自の機能を発揮するための基本となる知識と技術を習得する。「家族支援看護学領域」では、親子、家族関係、家族のライフスタイルおよび家族発達に応じた、家族の健康の維持・増進・疾病予防に向けた支援と健康問題への援助に必要な基本的知識と技術を学ぶ。「生活支援看護学領域」では、地域で生活する高齢者や精神に障がいをもつ人々など、すべての年齢層を対象に健康の維持増進から在宅療養の支援まで、看護に必要な基本的知識と技術を学ぶ。「療養支援看護学領域」では、健康上の問題を有する成人期の人々へのケアについて、看護理論を基盤に、クオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上を目指した健康回復、健康維持あるいは安らかな死への援助を行う知識と技術を習得する。

看護学部（看護学類）の教員は、専門性に基づき各領域に配置されて教育にあたっており、各々が研究から培った能力を発揮するように構成されている。したがって、学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

2) 大学院課程の教員組織

看護学研究科においては、大学院設置基準第 9 条および大阪府立大学学位規程（規程第 63 号第 8 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001501.html）に基づき、博士前期課程は 32 名、博士後期課程は 32 名の研究指導教員をそれぞれ確保している。なお大学院担当教員は、大学院看護学研究科 2012 年度学生必携で公表している。

看護学研究科では、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を創造的・実践的に発展させ、国際社会及び地域社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる看護分野の高度な実践者、管理者、研究者、教育者を育成するという大学院設置の趣旨・目的に基づいて、幅広い看護の領域をカバーできるように専攻を構成している。教育課程は基盤教育と専門教育で

構成されている。

博士前期課程では、「人・環境支援看護学領域」は看護技術学・看護情報学・看護管理学・看護教育学の4分野、「家族支援看護学領域」は母性看護学・小児看護学・家族看護学の3分野、「生活支援看護学領域」は地域看護学・在宅看護学・老年看護学・精神看護学の4分野、「療養支援看護学領域」は急性看護学・慢性看護学・がん看護学・感染看護学の4分野の合計15分野から構成されている。上記の15分野にはそれぞれ修士論文コースがあり、そのうち11分野は専門看護師（CNS）コースを開設している。

博士後期課程は、「生活支援看護学領域」と「療養支援看護学領域」の2領域で構成している。「生活支援看護学領域」は看護技術・情報学分野、看護管理・教育学分野、地域・精神看護学分野、在宅・老年看護学分野、母子健康看護学分野、家族健康看護学分野の6分野で構成している。また、「療養支援看護学領域」は急性療養看護学分野、慢性療養看護学分野、がん療養看護学分野、感染療養看護学分野の4分野で構成している。

3) 教員の採用

大学の設置目的及び教育理念に基づき、教員の任期制、公募制及び外国人の兼任教員の確保が導入されており、教員組織の活動をより活性化するために、多様で透明性を確保した教員採用の措置をとっている。

看護学部（看護学類）教員の性別構成、年齢構成は、資料2-1-3に示すとおりである。看護学部（看護学類）では、外国人教員を兼任教員（外国語）として確保し、採用している。教員の採用に関しては任期制及び公募制を導入している。本学教員の任期に関する規程に基づき、任期制は助教の採用に適用し、任期は5年としている（規程第14号第2条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000411.html）。

公募制は、本学教員人事規程に基づき、全教員の採用に適用している（規程第15号第3条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000381.html）。公募方法は資格、経験年数等の条件を明示し、本学ホームページ、研究者・人材データベース JRECIN を活用している。

資料2-1-3 平成24年度看護学部（看護学類）教員 性別・年齢構成

平成24年10月1日現在

講座		健康科学	基礎看護学	家族支援看護学	生活支援看護学	療養支援看護学	合計
構成							
教員数		2	12	12	16	17	59
性別 (名)	女性	0	11	11	16	14	52
	男性	2	1	1	0	3	7
平均年齢 (歳)	教授	56.5	58.0	53.3	55.3	53.0	55.2
	准教授	—	42.5	47.0	48.3	50.4	47.9
	講師	—	46.0	43.0	37.3	—	40.2
	助教	—	32.2	35.8	37.8	41.0	37.3

教員の採用に関する事項は、本学教授会規程に基づき、教授会で審議し（規程第62号第3条4項 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000111.html）、本学人事委員会規程に基づき（規程第99号第1条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000151.html）人事委員会で審議する。教育研究上の指導能力について審査を行い、本学教員選考基準により教員を選考している。具体的には、履歴書、教育研究業績書、主要な著書または論文、および採用後の専門分野の研究と教育に対する方針等の書類審査、面接・プレゼンテーションにより評価する。平成24年度は准教授1名を選考した。また、任期

制による任期満了助教の任期満了に伴う更新審査を行い、任期更新を希望した助教4名を審査し任期を更新した。

4) 教育支援者

大阪府立大学羽曳野キャンパスでは、看護学部（看護学類）、看護学研究科と総合リハビリテーション学部（総合リハビリテーション学類）、総合リハビリテーション学研究科を設置し、専任教員を看護学部（看護学類）、看護学研究科に59人、総合リハビリテーション学部（総合リハビリテーション学類）、総合リハビリテーション学研究科に39人配置している。これら2学部、2研究科の事務をつかさどるために、総務・会計・入試・学生・教務・図書業務等を担当する事務職員13人、契約職員16人、非常勤職員若干名を配置している。

なお、平成17年度からの3大学統合、再編、法人化に伴い分離している羽曳野キャンパスの事務のうち一元的に処理することが適当な業務については、法人本部に集約して事務の効率化を図っている。

ティーチングアシスタント（TA）については研究科会議の承認を得て、適宜活用を図っている。平成24年度のTA採用人数は延べ23名、総時間は408時間であった。

また、平成21年度より教員支援者として看護学部教員を支援する非常勤事務職員1名が配置された。教材用資料複写、書類作成等の補助業務を行っている。

2. 付属組織・センター

看護学研究科は、療養学習支援センターを有するが、これは療養学習支援に関する研究・教育・実践を推進するとともに、その成果を地域に還元し看護の質の向上に寄与するという趣旨に基づき、平成17年から附置された。療養学習支援センターの設置趣旨および業務等は、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター規程（規程第21号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001711.html）に明示している。療養学習支援センターは、円滑な運営を図るため、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会を設置している。運営委員会は大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会規程（規程第22号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001721.html）に基づき、5名の運営委員で組織されている。センターの主な事業は、地域住民および医療機関の利用者を対象に各種の療養学習支援活動および健康相談活動、療養学習支援に関する研究活動、療養学習支援に関する学術交流活動である。

第3章 教育研究組織の実施体制

1. 運営組織

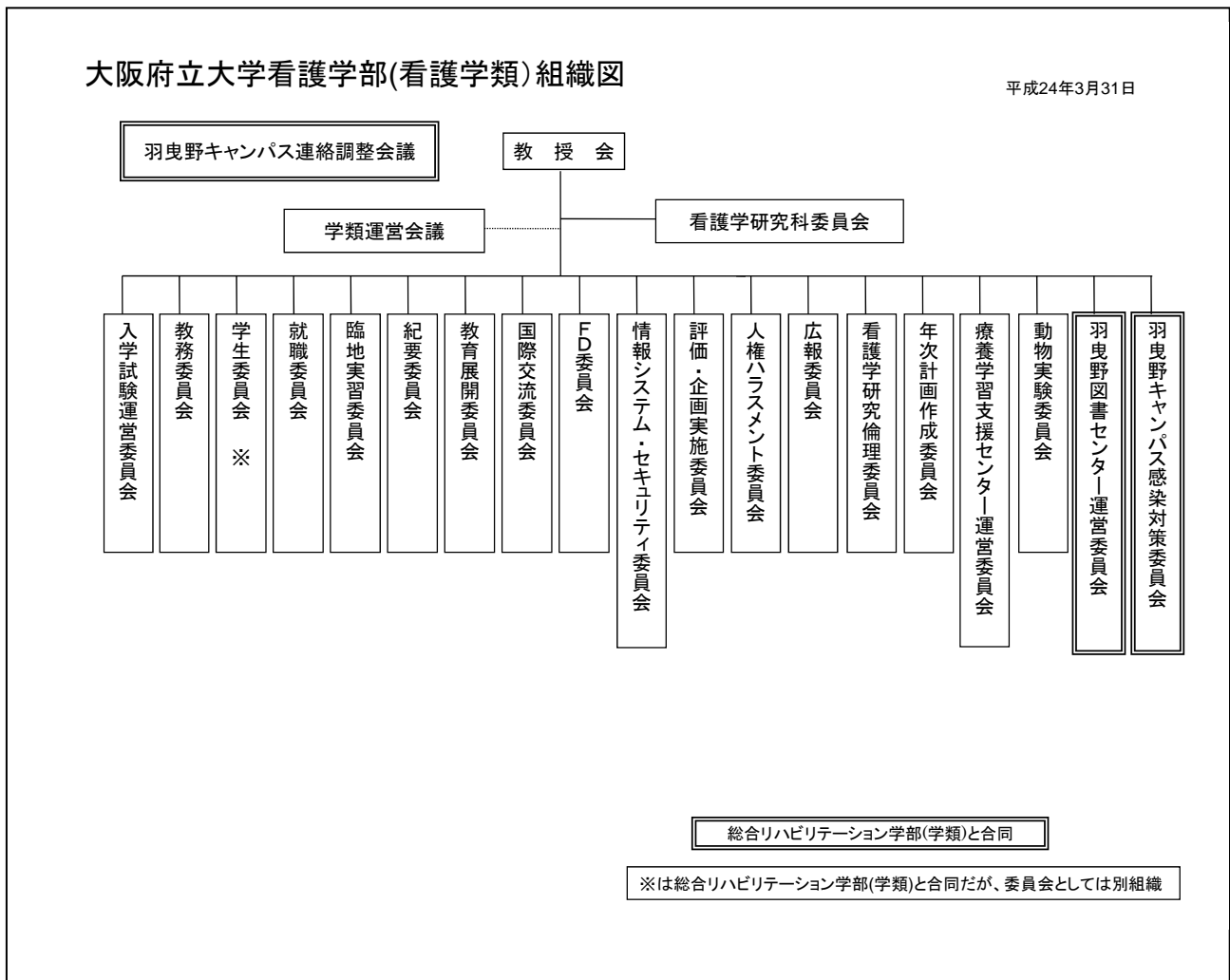
教育活動に係る重要事項を審議するために、教授会を最高意思決定機関と位置づけ、その下に教育活動に係る重要事項を審議するための委員会を設置している。各委員会は定期的に会議を開催し、それぞれの分掌事項を効率的に検討し、円滑に審議を進めている。

本学教授会は、教育課程の編成に関する事項、学生の入学、卒業又は課程の修了、その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項、学生の支援及びその身分に関する事項、教授会を置く組織の長から付議された教員人事に関する事項、その他教授会を置く組織の長から付議された教育又は研究に関する重要事項について審議する。教授会の下に教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等を設け、教育活動が円滑に行われるための必要な活動を行っている。資料3-1は看護学部（看護学類）の運営組織図である。

教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等は毎月1回の定例の会議を開催している。特に、教務委員会では、教育課程に関すること、履修に関する規程の制定及び改廃に関すること、教育の実施及び運営に関することなどについて検討し、臨地実習委員会では、教育の中の臨地実習の運営に関する事項を中心に検討し、その検討結果は教授会で報告し、重要事項については更に教授会で審議し、決定している。

看護学研究科における重要事項については、研究科委員会で審議し、教授会で最終決定となる。

資料3-1 看護学部（看護学類）組織図



2. 委員会活動

委員会名	入学試験運営委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 入学試験に関する企画に関すること</p> <p>(2) 入学試験の適正かつ円滑な実施に関すること</p> <p>(3) 入学試験のあり方に関すること</p> <p>(4) 入学試験の出題及び採点に関すること</p>
構成員	高見沢学部長(委員長)、階堂教授(副委員長)、上野教授、高辻教授、籾持教授、町浦教授、和泉准教授、岡本准教授、木村准教授、藪下准教授、撫養講師、入矢事務所長(羽曳野キャンパス)
活動概要	<p>1. 委員会の開催</p> <p>1) 看護学類入学試験運営委員会(定例11回、臨時4回)</p> <p>2) 入学試験運営委員会(全学)6回</p> <p>2. 入試の実施状況</p> <p>1) 看護学研究科</p> <p>(1) 博士前期課程(8/18)</p> <p>(2) 博士後期課程(8/19、第2次募集:2013/2/2)</p> <p>2) 看護学類</p> <p>(1) 特別選抜:2年次編入学試験(8/19)、推薦入学試験(11/17)</p> <p>外国人留学生特別選抜(2013/2/25)</p> <p>(2) 一般選抜:前期日程試験(2013/2/25)、後期日程試験(2013/3/12)</p> <p>3) その他</p> <p>(1) 大学入試センター試験(2013/1/19、1/20)</p> <p>3. オープンキャンパス(8/4、8/5:参加者1405名)</p> <p>4. 入試ガイダンス(10/27、総計61名)</p> <p>5. 入試説明会等</p> <p>1) 来校した高校への説明会(大学体験):1件</p> <p>2) 高校訪問:10件</p> <p>3) 大学説明会等:12件</p>
来年度の課題	<p>1. 入学試験全般について</p> <p>1) 入試運営の整備・見直し</p> <p>2) 入試実施要領の整備・統一</p> <p>3) 学類教員の業務平準化に向けての努力</p> <p>2. 入学生の確保について</p> <p>広報、高校訪問、オープンキャンパスなどの継続と改善(オープンキャンパスは広報委員会の応援を得て実施する)、大学院進学のための説明会開催を検討</p> <p>3. その他</p> <p>事務体制の強化要望</p>

委員会名	教務委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教育課程に関すること</p> <p>(2) 履修に関する規程の制定及び改廃に関すること</p> <p>(3) 教育の実施及び運営に関すること</p>
構成員	上野教授（委員長）、杉本教授、高辻教授、楢木野教授、簗持教授、中嶋准教授、細田准教授、松田准教授
活動概要	<p>平成24年度は11回の定例教務委員会及び3回の臨時の持ち回り委員会を開催した。下記の内容について重点的に活動した。</p> <p>1. 新入生履修説明会、個別指導 平成24年度入学生は地域保健学域看護学類への入学であり、教職（養護教諭I種）、保健師選択制が導入されるため、新入生に対して全体での履修説明に加え個別指導を実施した。</p> <p>2. 在校生履修説明会 1年生の新カリキュラム、2～4年生の旧カリキュラムを同時並行で実施しているため、2～4年生科目の単位未修得者への個別指導をアドバイザー教員とともに実施した。</p> <p>3. 履修要項・授業科目概要の作成 新カリキュラム、旧カリキュラムに対応した履修要項等を作成した。</p> <p>4. 時間割作成 新カリキュラム、旧カリキュラムに対応した時間割を作成した。</p> <p>5. 助産科目選考試験 助産学担当教員とともに選考試験を実施した。</p> <p>6. 既修得単位認定（1年次生、2年次編入生） 2年次編入生の既修得単位認定は合格発表後、後期に実施した。</p> <p>7. 博士論文、修士論文・課題研究発表会 博士論文5名、修士論文・課題研究27名の発表会を実施した。</p> <p>8. 単位未修得学生への指導（アドバイザー支援） 前期・後期の全学生の単位修得状況を確認し、必要な履修指導内容を明示した書類をアドバイザー教員に配布し、個別指導を依頼した。</p>

	<p>9. 学域共通科目開講準備 平成 24 年度入学生への学域共通科目で、平成 25 年度開講の人間支援科学論、コラボレーション論について、総合リハビリテーション学類、教育福祉学類の教員と検討した。</p> <p>10. 全学教務関係委員会（教育運営委員会、教育運営会議）への出席 大阪府立大学全体の教務内容と学部（学類）教務委員会が連動して運営できるようにした。</p> <p>11. 教職カリキュラム部会の立ち上げ 教務委員会メンバーを中心に、教職カリキュラム部会で教職受講学生へのサポート体制を作った。</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単位未修得者への新カリキュラムでの単位読み替えが円滑に進むように、アドバイザーを支援する。 ・府市統合に向けた、学部、大学院のカリキュラム作成。
その他 人員構成等	<ul style="list-style-type: none"> ・府市統合に向けた、学部、大学院のカリキュラム作成のためにワーキングの立ち上げが必要である。

委員会名	学生委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること</p> <p>(2) 学生の表彰及び処分に関すること</p> <p>(3) 学生の生活指導に関すること</p> <p>(4) 学生の福利厚生に関すること</p> <p>(5) 学生相談に関すること</p> <p>(6) その他学生の生活に関すること</p>
構成員	青山教授（委員長）、中山教授、石田准教授、木村准教授、中岡准教授、角野助教
活動概要	<p>1. 委員会の開催</p> <p>1) 羽曳野キャンパス学生委員会（羽曳野キャンパス共通・看護学部（看護学類）9回）</p> <p>2) 全学学生委員会 2回</p> <p>3) 全学留学生委員会 2回</p> <p>4) 障がい学生支援センター運営委員会 0回</p> <p>5) 全学アドバイザー説明会 1回</p> <p>2. 活動状況</p> <p>1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること</p> <p>〈休学〉24年度休学者：学部 6名 大学院 6名</p> <p>〈退学〉24年度退学者：学部 2名 大学院 0名</p> <p>〈復学〉24年度復学者：学部 1名 大学院 0名</p> <p>〈除籍〉24年度除籍者：学部 0名 大学院 0名</p> <p>2) 学生の表彰及び処分に関すること</p> <p>〈表彰〉 前期：（杏樹賞）学部4名 （学長顕彰）該当者なし</p> <p>後期：（杏樹賞）学部7名、学部団体2グループ、大学院3名 （学長顕彰）学部団体3グループ、大学院1名</p> <p>3) 学生の生活指導・相談に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前の学生の状況把握 ・アドバイザー活動報告のまとめ ・心理的問題をかかえた学生への相談（学生相談室カウンセラー、健康管理センター分室看護師との連携） ・学生相談室の利用の活発化をめざして開設日の増加（月4回から6回へ） <p>4) 学生の福利厚生に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生意見箱への対応 ・大学院自習室の環境整備（パソコン、プリンター設備更新） <p>5) 学生の生活に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月学生アドバイザーミーティング、新入生歓迎会の実施

	<ul style="list-style-type: none"> ・4月履修説明会の実施、準備 ・学生生活の手引きの修正 ・「私の健康手帳」の作成、説明 ・杏樹祭における学生の運営状況の見回り、監督 ・学位記授与式における準備、当日の進行 <p>6)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院授業料減免対象者の評価 ・大学院奨学金返還に関する評価 ・友好祭物品貸し出しの相談 ・謝恩会の相談
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談室の利用の活発化 ・心理的問題を抱えた学生の相談にアドバイザー教員の時間を要する。このような学生への対応についての研修 ・学生委員会と実習、実習施設との連絡調整が重なる教員が多く、委員会運営に若干の支障があった ・大学院に質の高い学生を今後も確保するために、院生自習室の環境整備が必要（冷暖房が入らない期間があるため、網戸を設置するなど） ・学生のスマートフォン、携帯電話を充電できる場所の検討
その他 人員構成等	<ul style="list-style-type: none"> ・学生委員会の活動に表彰及び処分があるので、教授2名（委員長を含め）は必要である。 ・昨年より1名減の委員で今年度は実施。新入生歓迎会・ガイダンス等、杏樹祭、学位記授与式など学生に関連する行事の時はマンパワーを必要とするので、現状配置が必要である。 ・大学院自習室の備品、消耗品の予算は今年度から委員会予算に含めないことになったが、来年度もこの方針でよいか検討が必要である。

委員会名	就職委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 就職業務方針に関すること</p> <p>(2) 就職の相談及び指導に関すること</p> <p>(3) 求職、求人に関すること</p> <p>(4) 就職についての調査に関すること</p> <p>(5) その他就職に関すること</p>
構成員	星教授（委員長）、田嶋教授、佐保准教授、大川講師、古山講師、石橋助教、齋野助教、隅田助教
活動概要	<p>1. 就職ガイダンス</p> <p><4年生対象>：年3回</p> <p>第3回（7月）：「就職活動について」～卒業生新卒者を迎えて～ 「ワンポイント就職セミナー」講師：マイナビ間瀬氏</p> <p>第4回（10月）：「国家試験の準備と手続きについて」</p> <p>第5回（2月）：「就職と国家試験について」「国家試験受験票配付」 「私の記録」USB配付</p> <p><3年生対象>：年2回</p> <p>第1回（8月）：「実習施設・府立5病院の紹介」 府立病院機構の教育担当者等による病院の概要・実習指導体制</p> <p>第2回（2月）：「卒業生の就職状況」「就職活動の方法」 「卒業後の進路」「就職試験における心得・注意事項」 「病院機構説明会」「模擬面接の告知(4月)」 「セミナー・履歴書の書き方」（キャリアカウンセラーに依頼）</p> <p>2. 学生への就職支援</p> <p>1) 模擬面接：平成24年6月から7月に実施 36名（前年67名）</p> <p>2) 病院就職説明会開催： 大阪府立病院機構：7月2日 大阪府立病院機構：8月8日（実習施設としての紹介）</p> <p>3) 学生の個別相談 公務員試験（保健師就職）に関する相談：随時 内定取り消し等の相談：随時</p> <p>3. 求人施設への対応</p> <p>・求人施設の大学訪問：随時（委員長、事務が対応）</p>

	<p>4. 就職に関する事務関係（事務）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職情報、就職支援室の管理、就職状況の把握（進路報告のWeb化） <p>5. 国家試験に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験準備や受験手続について：就職ガイダンスにて説明 ・模擬試験に関する相談：模擬試験担当者の選出と指導 ・合格発表時の対応 <p>6. 看護学部新卒者ホームカミングデーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：平成24年6月9日（土）13:00～15:00 ・共催：大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会） ・参加者：卒業生15名、教員14名 ・内容・目的：新人看護職者としてストレスの高い2～3カ月頃に卒業生が母校に集まる場を設定し、互いの情報交換および先輩・教員から助言を得る。学生時代の慣れ親しんだ環境で気分転換を図ることで、日々のストレスの軽減と看護職を続けることに前向きな気持ちを持ち続ける一助になる（早期退職予防）。 <p>7. 卒業生を対象としたアンケート調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既卒者による本学の教育に関する意見の聴取（平成24年度は学部卒業生5名、大学院卒業生2名に調査を行った。）
来年度の課題	<p>1. 今年度の活動の継続</p> <p>2. 新たな内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的な就職活動の早期化に伴い、今年度は7月に行った4年次生対象の第3回就職ガイダンスを4月に、模擬面接を4月と7月に行う。中百舌鳥キャリアカウンセラーと教員とのペアで実施する予定。
その他 人員構成等	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度と同様の人員希望 ・看護学部新卒者ホームカミングデー（平成25年6月15日開催）へ各教員の参加

委員会名	臨地実習委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること</p> <p>(2) 臨地実習の運営に関すること</p> <p>(3) 臨地実習の指導体制の整備に関すること</p> <p>(4) 臨地実習に関する規程の制定及び改廃に関すること</p> <p>(5) その他臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと</p>
構成員	杉本教授（委員長）、中村教授、榎木野教授、石田准教授、佐保准教授、藪下准教授、大川講師、別宮講師、山内講師、山口助教
活動概要	<p>今年度の運営報告</p> <p>1. 主な委員会活動の回数</p> <p>委員会 9 回、総合実習学生配置、3 年生への実習オリエンテーション、府立 5 医療センター臨地実習連絡会 1 回</p> <p>2. 所管事項については、「実習運営担当」「府立 5 医療センター担当」「実習関連情報管理担当」と分担して、実施した。</p> <p>1) 実習進度表および学生配置表等の作成</p> <p>2) 実習要項の印刷（総合実習、各科目の実習）</p> <p>3) 総合実習の学生配置のスムーズな決定</p> <p>4) 3 年次生実習オリエンテーションの実施</p> <p>5) 府立 5 医療センターの平成 25、26 年度の実習計画の作成ならびに各施設担当教員と連携した施設との実習調整</p> <p>6) 府立 5 医療センター臨地実習連絡会の企画・実施</p> <p>7) 平成 24 年度臨地実習における事故報告のまとめと報告</p> <p>8) 学生による臨地実習評価のアンケート実施およびデータの分析、報告書の作成</p> <p>9) 総合実習の学生実習配置数ならびに学生の選択方法・時期の検討</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習評価表の集計の簡便化 ・医療施設内での教員連絡用の PHS や、学外実習での施設と教員、学生と教員間で使用する連絡ツールをどうするかを検討
その他 人員構成等	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭養成課程担当の教員を委員に加える

委員会名	紀要委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 紀要に関すること</p>
構成員	堀井教授(委員長)、田嶋教授、高橋准教授、林田准教授、隅田助教
活動概要	<p>1. 委員会開催数 10回</p> <p>2. 紀要第19巻第1号(研究報告7編、資料6編)の発行：(2013年3月)</p> <p>羽曳野キャンパス教員、看護学研究科院生、近隣施設および全国約220施設に配布</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も掲載論文数を確保する。

委員会名	教育展開委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 公開講座の企画立案及び実施に関すること</p> <p>(2) 地域交流に関して必要なこと</p>
構成員	町浦教授（委員長）、杉本教授、松田准教授、岩崎助教、齋野助教、古谷助教
活動概要	<p>1. 委員会開催 看護学部委員会1回、総リハ学部との合同会議2回を開催した。</p> <p>2. 羽曳野キャンパス公開講座の運営 平成24年度は総合リハビリテーション学部が主担当でこのうち1回を担当した。テーマは「快適な人生（QOL）をめざして～今から始めよう・生き生きライフ～」、受講者は104名、述べ359名であった。昨年度と比較して公開講座の定員を満了し、大幅に参加者が増加した。近隣の老人クラブへの依頼、住宅への配布、申込方法をファックス、ハガキ、メールにしたことが寄与していると考えられる。アンケートに回答した86名中、66名（77%）が「とてもよかった」「よかった」と回答し、75名（87%）が役立つ知識が得られたと回答した。</p> <p>3. はびきの市民大学府大担当枠の講師推薦と調整 平成24年11月14日～平成25年1月25日の水曜日計8回開催のうち、2回分を看護学部が担当し、講師推薦と調整を行った。</p> <p>4. 平成24年度はびきの健康フォーラムに関する会議出席 平成25年2月10日にLICはびきので「医食同源 ～健やかなカラダは食事から～」のテーマで講演会が開催された。当日の受付、会場係を看護学部より2名派遣した。平成23年度開催分の反省会と平成24年度の企画について2回の会議に出席した。</p> <p>5. 全学での活動</p> <p>1) 府大講座担当講師依頼 「こころ×からだの健康づくり」をテーマに8月30日より9月20日まで計5日間、1日に2回の講座が開催され、看護学部は9月20日の第2講座を担当した。 講師；堀井 理司教授「小児期ウイルス感染症に対する健康管理～看護学の視点から～」</p> <p>2) 全学委員会への出席 第1回7月開催、総合リハビリテーション学部 谷口教授に依頼</p> <p>3) 府大公開講座 消費者力育成セミナー 9月24日より12月3日まで6回開催され、11月19日の第5回目を看護学部で担当した。 講師；町浦 美智子教授「女性のライフサイクルと課題」</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座のメインテーマについて魅力あるものに変更していく。 ・平成24年度と同様の広報の仕方、申込方法を継続する。

委員会名	国際交流委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 国際交流に関する企画立案及び実施に関すること</p> <p>(2) その他、国際交流に関して必要なこと</p>
構成員	<p>垣本教授（委員長）、高橋准教授、細田准教授、池内助教、井上助教、椿助教、根来助教、南村助教、山地助教</p>
活動概要	<p>1. マヒドン大学大学院との学術交流事業</p> <p>マヒドン大学大学院看護学研究科に本学大学院生2名を派遣した。帰国後、報告会を実施した。</p> <p>期間：平成24年8月26日～9月9日</p> <p>2. 外国人招へい教員事業</p> <p>国際交流推進機構が実施する外国人招へい教員事業に教員を招へいした。</p> <p>期間：平成24年10月28日～11月18日</p> <p>招へい教員：タイ王国・マヒドン大学タッサネー准教授</p> <p>授業、セミナーなど計7講義を英語で実施</p> <p>3. 国際看護セミナーの開催</p> <p>日時：平成25年2月4日</p> <p>講師：広島文化学園大学教授 岩本 由美氏</p> <p>名城病院助産師、琉球大学大学院保健学研究科修士課程 高橋 紘美氏</p> <p>JICA 国際協力人材部健康管理課海外班看護師 笹山 桐子氏</p> <p>演題：看護職の国際協力とキャリアパス</p> <p>4. オレゴン州立保健大学との学術交流協定を検討中</p> <p>5. その他、委員長は全学の国際交流会議に出席</p>
来年度の課題	<p>1. マヒドン大学大学院との学術交流事業</p> <p>平成25年4月までの期限となっている学術交流協定を更新する。</p> <p>本学に大学院学生を受け入れるが、受入体制の検討が必要である。</p> <p>2. 外国人招へい教員事業</p> <p>マヒドン大学より招へいを検討中。受入れ体制などは未定である。</p> <p>3. 国際看護セミナー</p> <p>目的を明確にし、開催方法を工夫する必要がある。</p>
その他	<p>今後も国際交流事業がより活発となれるよう、更なる推進を行っていく。</p>

委員会名	ファカルティ・ディベロップメント委員会
目的	<p>委員会は、教員および学生を対象として次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教員の教育内容・授業方法の改善に関すること</p> <p>(2) 教員の教育・研究能力の向上に関すること</p> <p>(3) 教育・研究活動の評価の実施に関すること</p>
構成員	長畑教授（委員長）、中山教授、中岡准教授、中嶋准教授、林田准教授、日下部助教、
活動概要	<p>委員会開催は①4/23、②6/1、③8/2、④2/1、⑤3/8の5回であった。</p> <p>1. FDセミナー（担当：長畑、中山、中岡、中嶋） FDセミナーを2回企画した。第1回セミナー(8/24)は細田准教授の在外研究報告会を行い、34名(教員30名、大学院生4名)が参加した。第2回セミナー(3/8)は「CNS教育の新たな展望—本学修了生の役割開発に学ぶ—」というテーマで実施し、71名が参加した。</p> <p>2. ピア授業評価・参観（担当：林田、日下部） 今年度から、就任2年目の教員を対象としたピア授業評価を廃止し、全教員を対象としたピア授業参観に一本化した。年4回の参観提供科目募集と情報提供を行い、メールで各教員への周知を図り、参観科目提供と参観実施を全教員に義務付けた。</p> <p>3. 授業アンケート（担当：長畑） 高等教育開発センターと連携し、授業アンケートについての啓発を行ない、学生への参加を呼び掛けた。</p>
来年度の課題	<p>1. 実習期間の延長に伴い、全教員が参加できる時期にFDセミナーを2回開催した。今年度は在外研究報告と大学院教育(CNS)に関する内容となり、学部(学類)教育の質向上に資する内容が実施できなかったため、来年度の課題としたい。セミナーの回数については、現状では年2回が妥当であると思われる。</p> <p>2. ピア授業評価を廃止し、今年度より全教員対象のピア授業参観に一本化した。その結果、平成23年度までの施行に比べて提供授業コマ数は増加している。今後は参観実施の実績についても増やしていけるよう、周知徹底を図り、充実させていく必要がある。</p>
その他 人員構成等	平成22年度8名であった委員は、平成23年度7名、平成24年度6名と年々削減されている(規程では4名)が、大きな支障はなかった。

委員会名	情報システム・セキュリティ委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 情報システムに関すること</p> <p>(2) Webページのコンテンツの管理運用に関すること</p> <p>(3) 公立大学法人大阪府立大学情報セキュリティポリシー（以下「情報セキュリティポリシー」という。）の運営に関すること</p> <p>(4) 情報セキュリティポリシーに基づく個別対策の把握と必要な措置に関すること</p> <p>(5) 前4号に掲げるもののほか、看護学類における情報システムの運営及び情報セキュリティの確保に関すること</p>
構成員	<p>階堂教授（委員長・学術情報センター情報システム委員会委員）、 撫養講師（システム管理担当者）、江口助教（システム管理担当者）、 岡崎助教（システム管理担当者）、松本助教（システム管理担当者）</p>
活動概要	<p>1. 学術情報センター情報システム委員会開催後に、必要に応じてメールによる連絡や委員会会議を開催している。</p> <p>1) 第1回委員会（7月26日開催）</p> <p>(1) 委員会の職務について</p> <p>(2) 委員会の役割について</p> <p>(3) 第1回学術情報センター情報システム委員会（6月21日開催）報告 情報システム委員会専門部会の設置について、情報セキュリティ委員会資料について、セキュリティポリシー、セキュリティ委員会規程の改正について、ヘルプデスク問い合わせ状況について、他</p> <p>2) キャンパスネットワーク無線LANの整備に関する調査（11月26日） 第2回学術情報センター情報システム委員会の審議を受けて実習室や実験室を対象とした無線LAN整備の希望調査を領域選出の委員を通して実施</p> <p>3) 第3回学術情報センター情報システム委員会（12月4日開催）報告 メールにて関係委員に報告</p> <p>4) 第2回委員会（平成25年3月19日開催）</p> <p>(1) 退職予定者を対象とした退職時に保有する非公開情報に関するリストについて</p> <p>(2) 新任教員へのオリエンテーションについて</p> <p>(3) 第4回学術情報センター情報システム委員会（平成25年3月13日開催）報告</p> <p>2. 情報セキュリティ研修会 平成25年1月18日（金）12:55-14:25 羽曳野キャンパス B201 教室（遠隔中継） 講演：「最近のセキュリティをめぐる状況・WEBサーバ等サーバに対する脅威と対策」 講師：大阪府警察本部 生活安全部生活安全総務課 サイバー犯罪対策室 担当者</p>
来年度の課題	<p>・情報セキュリティポリシーを周知徹底させる</p>

委員会名	評価・企画実施委員会
目的	委員会は、公立大学法人大阪府立大学計画・評価会議規程第2条1項第2号から第7号までに掲げる職務のうち、学類において必要な評価の企画及び実施を行うものとする。
構成員	高見沢学部長、中山教授(委員長)、青山教授、簗持教授、石田准教授、木村准教授、細田准教授、深山助教
活動概要	<p>1. 部局における活動</p> <p>1) 委員会の開催：4回</p> <p>議題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度年報の作成に関すること ・自己点検評価報告書及び年報の公表に関すること（ホームページ上に公開） ・看護学部における改善を要する事項に対する取り組みに関すること ・平成24年度年報の作成に関すること <p>2) 平成23年度年報</p> <p>平成24年7月末に完成し、ホームページ上に公開した。</p> <p>3) 平成24年度年報に関すること</p> <p>年報の校正の検討、執筆の依頼を行い、原稿の校正を行っている。</p> <p>2. 大学全体における活動</p> <p>1) 委員会の開催：1回</p> <p>2) 教員業績評価の実施</p> <p>3) 大学評価の時期の検討</p> <p>法人評価・自己点検評価・認証評価スケジュールから時期の検討を行った。</p> <p>平成23、24、25年度の自己点検評価報告書の作成を平成26年度に行う予定。</p> <p>4) 看護学部(看護学類)における改善を要する事項に対する取り組み</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度の年報の完成および評価 ・平成25年度の年報構成

委員会名	人権・ハラスメント委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 人権及びハラスメント問題の啓発に関すること</p> <p>(2) 人権及びハラスメント問題に関する講演会及び研修に関すること</p> <p>(3) ハラスメントに関する相談に関すること</p> <p>(4) 前各号が掲げるもののほか、委員会が必要と認める人権問題及びハラスメント防止に関すること</p>
構成員	田嶋教授（委員長）、上野教授、階堂教授、入矢事務所長(羽曳野キャンパス)
活動概要	<p>今年度は学部(学類)として審議が必要な人権・ハラスメントに関する問題は生じなかった。人権・ハラスメント問題に対する啓発を目的に、教職員の認識、感受性を高める内容の講演会および相談員の相談能力向上を目的とした講演会などを企画立案し、参加の促進を図った。全学人権・ハラスメント委員会から要請のあった参加目標人数（3名）を目安に参加を要請し、1回目は教員4名、2回目は教員3名、3回目は教員5名が参加した。</p> <p>1. 人権問題講演会 テーマ「教育現場における留学生の人権」 1) 日時 平成24年10月23日（火）12:55～14:25 2) 場所 羽曳野キャンパス L305 会議室（遠隔中継） 3) 講師 大阪府立大学人間社会学部教授 大平圭一氏</p> <p>2. ハラスメント防止に関する講演会 テーマ「ハラスメントのない大学を目指して」 1) 日時 平成24年12月26日（水）13:00～14:25 2) 場所 羽曳野キャンパス L305 会議室（遠隔中継） 3) 講師 大阪大学大学院医学系研究科教授 大阪大学総長補佐 ハラスメント相談室長 大和谷厚氏</p> <p>3. ハラスメント相談員のための研修会 テーマ「ハラスメント相談の心構え」 1) 日時 平成25年1月21日（月）13:00～14:30 2) 場所 羽曳野キャンパス L305 会議室（遠隔中継） 3) 講師 大阪大学アカデミック・パワー等ハラスメント相談室 専門相談員 上原秀子氏</p>
来年度の課題	<p>・講演会への参加教員目標数を満たすことができたが、人権・ハラスメント問題への啓発に向け、講演会や研修会のアナウンス時期や方法の工夫などの検討が課題と思われる。</p>

委員会名	広報委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) パンフレット等の作成に関すること</p> <p>(2) ホームページ等の広報に関すること</p> <p>(3) その他広報に関すること</p>
構成員	田中教授（委員長）、町浦教授（副委員長）、星教授、北川准教授、山内講師、池内助教、羽畑助教、古谷助教、新子看護学部支援スタッフ（事務）
活動概要	<p>広報委員会では、原則として月1回の会議開催をおこない、必要時臨時会議およびメール会議を行った。主な活動内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護学類紹介パンフレットの内容更新 看護学類パンフレットを更新し、7月上旬に発刊した。 大学院紹介パンフレットの作成 CNSコース38単位教育課程の開始に伴う内容修正およびデザインの大幅な変更を行い、5月下旬に発刊した。 地域保健学域紹介パンフレットの内容更新 地域保健学域のパンフレットの内容を更新した。 キャンパスガイド2013の内容更新 地域保健学域および看護学類、看護学研究科に関する記載内容を更新した。 Webページ（学部・学類・大学院）およびモバイルサイトの内容更新 ホームページ（Webページ・モバイルサイト）において、オープンキャンパス・入試ガイダンスをはじめとする学内行事・イベントの広報活動を行った（随時/月）。 教員個人ページの更新 看護学部の教員紹介ページの内容更新および新任教員のページを新規開設した。 地域保健学域Webページの更新 なかもたず広報課と協力して、看護学類関連のWebページ内容について更新した。 入試広報活動への参加協力 入学試験運営委員会が企画したオープンキャンパス・入試ガイダンス活動に広報委員として参加協力を行った。 看護学類紹介用パワーポイント作成 入試広報に活用できることを目的として、看護学類を紹介するパワーポイントを新たに制作中である。 府立急性期・総合医療センターの「ふれあい病院探検隊」への参加協力 同企画への学生ボランティアの招集および教員による企画参加を行った。 地域住民に向けて広報活動 「南河内」大学展へのパネル参加を行った。 Webサイトアクセスレポートの分析 看護学部ホームページ訪問者数の動向を知るために、月ごとのWebサイトアクセス状況について年間の動向を分析した。

<p>来年度の課題</p>	<p>従来の活動をふまえた広報活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学院紹介パンフレットについては、5月中旬完成を目指す。 ○看護学類紹介パンフレットについては、6月完成を目指す。 ○なかもず広報課と協力の下に、地域保健学域紹介パンフレットおよびキャンパスガイド2014の内容更新を行う。 ○Webページについては、看護学部ページと看護学類ページの並行運用を続行する。それに伴い双方のページについて定期的な更新を継続する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教員個人ページの更新を4月当初に行う。 ・適切な内容が適切な時期にアップできるように、学内からの情報提供を募っていくことを継続する。 ・地域保健学域のページについては、なかもず広報課と協力して内容の更新を行う。 ○モバイルサイトの更新についても、Webサイトの更新と併せて行う。 ○オープンキャンパス・入試ガイダンス、地域に向けての広報活動に協力・参加する。
<p>その他 人員構成等</p>	<p>質的な面では、各領域の委員がいること、入試、学生委員を兼ねた教員が広報委員であることが望ましい。入試広報部会に出席する委員は、入試委員会の委員を兼ねた方が情報の伝達がスムーズにいく。看護学部支援スタッフの存在は、活動の活発化に繋がっている。</p>

委員会名	看護学研究倫理委員会
目的	委員会は、教職員及び看護学研究科学生が行う人間を対象とする研究の倫理審査に関する事項を審議する。
構成員	高見沢研究科長、榎木野教授（委員長）、長畑教授（副委員長）、青山教授、垣本教授、佐藤准教授、佐保准教授、 入矢事務所長（羽曳野キャンパス） 川瀬委員（学外委員）、伊藤委員（学外委員）、小山委員（学外委員）
活動概要	<p>1. 研究倫理審査に関するオリエンテーション： 平成24年4月16日に、院生、教員を対象に本年度の審査に関する説明会を開催した。</p> <p>2. 委員会開催： 1) 倫理審査に関する委員会を6回開催した。70件の倫理審査申請書を審議した。 博士前期課程：26件（予備研究1件を含む） 博士後期課程：本研究5件、予備研究3件、研究の追加・修正に伴う申請4件 教員：36件 2) 臨時委員会を2回開催した。総合研究に関する倫理審査のあり方、院生から申請のあった研究に関する倫理審査結果に対する検討を行った。</p> <p>3. 総合研究に対する倫理審査のあり方： 臨時委員会での検討を経て、学類運営会議に提案した。</p>
来年度の課題	<p>1. 研究倫理審査申請書の件数の大幅な増加は見られないが、1回あたりに要する時間が長く、効率化する必要がある。</p> <p>2. 研究倫理審査に関する提出書類に不備が目立ったため、オリエンテーションによる周知徹底を図る必要がある。</p>

委員会名	年次計画作成委員会 (公立大学法人大阪府立大学計画作成ワーキンググループ)
目的	公立大学法人大阪府立大学の中期計画及び年度計画の作成・管理について検討を行う。 (部局・学部において検討)
構成員	高見沢学部長、中村教授(委員長)、田中教授、岡本准教授、和泉准教授、中岡准教授、伊藤助教、角野助教
活動概要	<p>1. 平成24年4月～5月</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度部局別年度計画実施状況調査票の作成 平成24年度計画の作成 <p>2. 平成24年12月～平成25年1月</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度部局別年度計画実施状況調査票の作成 平成25年度計画の作成 <p>大学の中期計画に基づいて、委員を3班に分け、それぞれ担当ごとに実施状況調査のための情報収集を行い、実施状況と部局別平成24年度計画を計画作成ワーキングに報告した。</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 大学より実施状況調査の依頼が出されてから報告までの期間が短く、教員の実習中に情報収集を行うことが困難なため、実施時期が重ならないように委員の分担を再検討する必要がある。
その他 人員構成等	<ul style="list-style-type: none"> 委員の構成について、助教が担当する場合、看護学研究科や看護学類の運営に関して情報不足があり、役割を担うことに限界がある。

委員会名	大学院看護学研究科附置研究所 療養学習支援センター運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 事業計画に関すること (2) 予算に関すること (3) その他、療養学習支援センターの管理運営に関すること
構成員	高見沢学部長（センター長）、中村教授（主任）、中山教授（副主任）、杉本教授、堀井教授
活動概要	1. 療養学習支援センタープロジェクト活動・研究助成 ・研究3件、活動4件、助成なしの活動3件 ・活動報告会の開催 平成25年3月7日（木） 2. 療養学習支援センターの広報活動 ・パンフレットを作成（1500部）し、関係機関へ配布 ・ホームページの更新 ・プロジェクト活動などを羽曳野市市報へ掲載 3. 健康フェアの開催 ・平成24年10月28日（日）に開催、地域住民など53名が参加 ・身体測定、健康相談、健康体操を実施（新規の脳年齢計は好評であった。） 4 闘病記文庫の寄託 ・学術情報センターと調整を行い、重複本の引き取りを実施 5. 平成24年度療養学習支援センター年報の作成 ・冊子体の印刷及びホームページに掲載 平成25年3月発刊
来年度の課題	・療養学習支援センタープロジェクト活動・研究助成に関して、新規の取り組みを促す。

委員会名	学類運営会議
目的	<p>運営会議は、次の各号に掲げる事項を協議・調整するものとする。</p> <p>(1) 教員の教育、研究、社会貢献、学類運営における活動に関すること</p> <p>(2) 予算の管理に関すること</p> <p>(3) 各領域間の調整に関すること</p> <p>(4) その他領域の運営に関すること</p>
構成員	高見沢学類長（学部長）、上野教授、杉本教授、高辻教授、田中教授、町浦教授
活動概要	<p>1. 開催状況</p> <p>定例会議は毎月1回（8月度は除く）とし10回、臨時会議は9回開催した。</p> <p>2. 検討事項</p> <p>(1) 学類運営会議規定に基づき、教授会、研究科会議の検討事項のうち、事前検討の調整が必要なものについて検討した。</p> <p>〈役割の担当〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人事：高見沢、上野、田中 ・ 予算：町浦、杉本 ・ 施設・設備：高辻、上野 ・ 学生関連：高辻、上野 <p>(2) 平成24年度は通常の人事管理、予算管理以外に、助教の内部昇任、大阪府市新大学構想会議の「新大学構想〈提言〉(案)」についての看護学類としての意見の取りまとめ、看護学研究科博士前期・後期の教育課程、看護学研究科の臨床実習指導教授等の称号付与、看護学部臨床実習指導講師等の称号付与、教員業績評価の評価指標などを検討し、実施した。</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 府立大学全体の方針に基づきながら、看護学類の教育課程、運用上の問題を解決する。 ・ 看護学研究科における高度実践看護師教育を充実する。 ・ 大学統合検討部会および新大学推進会議等に対し、看護学類および看護学研究科の案を検討し、提案する。

委員会名	羽曳野図書センター運営委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 図書センターの運営に関すること</p> <p>(2) その他、図書センターの重要な事項に関すること</p>
構成員	<p>簗持教授（委員長）、長畑教授、伊藤助教、山田助教</p> <p>総合リハビリテーション学部（学類）教員 4名</p>
活動概要	<p>1. 月に1度の運営委員会開催</p> <p>○学術情報センター図書委員会における審議事項等の報告及び羽曳野図書センターとして対応すべき検討事項の審議</p> <p>○羽曳野図書センターの運営に係る事項の検討</p> <p>2. 主な活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 図書カレンダー 開館時間、休館日の承認 2) 貸し出し冊数、期間の検討 3) 電子ジャーナルの検討 4) 図書館、ライブラリーラウンジ等の利用に関する事項の検討 5) 選書会議/店頭選書 6) 学生選書委員の選出 7) 購入雑誌の中止、廃棄雑誌、AV資料の検討 8) オープンキャンパスにおける厚生棟ツアーの企画 9) 学外文献複写サービスの内容、運営の検討 10) 「新入生に推薦する100冊」の選書 11) グループ学習室の整備 12) 委員会諸規定の見直し 13) その他
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、学術情報センター図書館の専門図書室として羽曳野図書センターが、その管理運営組織として羽曳野図書センター運営委員会が設置された。来年度も羽曳野図書センターの特徴を考慮した効率的な予算の運用が課題となる。 ・図書センター内の蔵書等が増え、狭隘化が問題となっており、引き続き図書等の整理が必要となる。 ・図書厚生棟のスペースの効率的な活用のための環境整備が必要である。 ・カウンター業務委託の作業に伴う状況に関して、引き続き情報収集し、必要時検討する。

委員会名	羽曳野キャンパス感染対策委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生及び教職員の感染予防対策に関すること (2) 感染予防対策実施の監視と指導に関すること (3) 感染症発生後の適切な事後処理に関すること (4) 感染症発病者の人権擁護に関すること (5) 学外実習施設等との連絡調整に関すること (6) 前各号に掲げるもののほか、感染予防に関し必要と認められる事項に関すること
構成員	<p>垣本教授（委員長）、堀井教授、佐藤准教授、古山講師 総合リハビリテーション学部（学類）教員4名 萩原看護師（健康管理センター分室）</p>
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1. 健康管理センターからの報告受けと指示、学部長報告 2. 健康管理センターの啓発活動への技術的支援 <p>その他、特に感染流行など問題はなかった。</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1. インフルエンザを含む新興・再興感染症の流行状況の情報収集 2. 学生・教職員への感染予防啓発（健康管理センター分室との連携）

第4章 学生の受け入れ

1. 学士課程

1) 入学者受け入れの方針

(1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を平成16年度に制定したが、学域・学類入試への変更に伴い、具体的に3項目の選抜方針を追加した「看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を平成23年度に制定した（資料4-1-1-1）。

資料4-1-1-1 看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

少子化、高齢化、国際化など社会構造の変化と国民のニーズの多様化、医療の高度化、専門化を背景に、わが国の看護・医療は大きく変わりつつあります。その中で看護職の占める役割はますます重要になってきています。看護学類では生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし豊かな人間性を形成するとともに、看護の専門的知識・技術をもって社会ニーズに応じて、幅広い分野で活躍できる看護専門職者を育成し、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。したがって、看護学類では次のような学生を求めています。

- ①人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人
- ②幅広い学問分野に支えられた専門的な看護に必要な知識・技術を主体的、積極的に修得できる高い基礎学力をもった人
- ③保健・医療・福祉などの場において他のヒューマンサービスを提供する人々と連携することのできる柔軟性を有しリーダーシップのとれる人

以上にに基づき、看護学類の教育理念・目的にふさわしい学生を受け入れるため、次の1～3の能力や適性をもつ学生を選抜します。

- 1 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、高い基礎学力を有していること
- 2 他者理解とコミュニケーションの基礎となる国語能力を有していること
- 3 英文を読んで理解し、英文で表現するための基礎的な能力を有していること

看護学類の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、選抜要項や募集要項に掲載したほか、Webページや携帯サイト上にも掲載して公表に努めた。

- ① 平成25年度入学者選抜要項（p. 6）
- ② 平成25年度学生募集要項（一般入試）（pp. 6-7）
- ③ 平成25年度学生募集要項（2年次編入学試験）（p. 1）
- ④ 平成25年度（2013年度）推薦入学学生募集要項（p. 1）
- ⑤ 平成25年度（2013年度）外国人留学生特別選抜学生募集要項（p. 4）
- ⑥ Webページ（URL：http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/kango_gakurui/policy.html）
- ⑦ 携帯サイト（URL：<http://osakafu-u.ac.jp/osakafu-u/>）

「平成25年度学生募集要項（2年次編入学試験）」は156の大学・学部へ送付し、「平成25年度（2013年度）推薦入学学生募集要項」は、大阪府内の高等学校267校へ送付した（出願の多い学校へは3部送付）。平成24年8月4日・5日に開催したオープンキャンパス（高校生他の学生1,036名、保護者他373名参加）、平成24年10月27日に開催した入試ガイダンス（高校生他の学生28名、保護者他33名参加）では、学類説明の中でアドミッション・ポリシーについて説明し、募集要項等の資料の配布を通して周知の機会とした。

（2）一般選抜入試

大学入試センター試験については、前期日程、後期日程ともに、平成17年度より5教科6科目としてセンター試験の配点を800点とした。アドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、センター試験では外国語（英語）のリスニングテストを課している。

個別学力検査については、同じくアドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、平成20年度入学者選抜より前期日程試験において新たに外国語（英語）を加え、試験時間60分、配点100点とした。前期日程の小論文試験では試験時間を90分、配点200点とし、アドミッション・ポリシーの「幅広い学問分野に支えられた（中略）高い基礎学力を持った人」の選抜に努めた。後期日程の小論文試験では試験時間120分、配点300点とし、「人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人」を選抜するために、人間理解に絞った問題とした。

前期日程試験はセンター試験800点、小論文200点、外国語（英語）100点の計1100点で、また後期日程試験はセンター試験800点、小論文300点の計1100点で判定を行った。

（3）特別選抜入試

①外国人留学生特別選抜

平成17年度から新たにTOEFLを課した。選抜方法は小論文試験、面接試験、日本留学試験の成績、成績証明書、TOEFLで総合的に判定する。募集人員は若干名である。また、平成19年度から出願資格に次の3点を付加している。

- 1) 日本留学試験の「日本語」の得点が250点以上（平成24年度に220点から250点へ変更）
- 2) 日本留学試験の「理科」と「数学（コース1またはコース2）」の合計得点が200点以上
- 3) TOEFLの得点がPBT：450点、iBT：45点以上であること。

②2年次編入学試験

看護師・保健師・助産師を志す多様な人材を受け入れるために2年次編入学試験を実施している。出願資格としては、学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成25年3月に卒業見込みの者等を条件としている。小論文試験と面接試験については、アドミッション・ポリシーを反映した内容としている。入学者の選抜は、筆記試験、面接試験の結果及び出願書類を総合的に判定して行っている。

③推薦入学試験

出願できるのは、「調査書の全体の評定平均値4.0（5点満点）以上である者」「看護学に関する知識と技術の修得に熱意をもち、学力、人物ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦する者」等の条件に該当する者である。1高等学校等で推薦できる人数は、大阪府内の高等学校等は3名以内、その他の高等学校等は1名としている。入学者の選抜は、小論文試験（英文資料の読解を含む）、面接試験の成績、調査書及び推薦書等を総合的に判定して行っている。

2) 入学者選抜の実施体制

入学試験に関する企画と適性かつ円滑な実施を図ることを目的として、入学試験運営委員会が設けられている。委員会は学類長を委員長とし、教授会議が選出した教授5名、教授会議が選出した教員5名、羽曳野キャンパス事務所長、その他委員会が必要と認める者から構成され、平成24年度は12名で運営された。さらに、入学試験に関して、大学全体の全学入試運営委員会、入学試験あり方部会、出題採点部会、入試広報部会にも学類の入試委員が参加することで、大学全体との調整を図った。

試験実施は入試委員を中心とする教員が試験監督、面接試験委員を務め、事務担当者が試験会場の設営、入試事務に関する業務を行った。試験当日の実施について、担当者に対しては必ず実施に関するオリエンテーションを行い、担当業務が責任を持って正確に行われるよう確認した。試験実施に関して、受験生からの試験に関するクレーム等は全くなかった。合格者の決定については、試験の種類により決められた選抜基準に基づき、入学試験運営委員会において合否判定資料案を作成した後、学類教授会議の審議により合格者を決定した。

3) 入学者受け入れの現状

平成25年4月入学者の現状を次に示す。ほぼ募集人員通りである。

資料 4-1-3 平成25年 看護学類入学者

	選抜方法等	募集人員 (名)	入学者数 (名)
一般選抜	前期日程	50	50
	後期日程	15	14
特別選抜	外国人留学生特別選抜	若干名	1
	2年次編入学	10	10
	推薦入学	55	55

2. 大学院課程

1) 入学者受け入れの方針

(1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」（資料4-2-1-1）を平成16年度に制定した。

資料4-2-1-1 看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科は、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会および国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成することを目指しています。

●前期課程

博士前期課程では、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目指しています。このような目標を達成するため、博士前期課程では入学者に次の3点を求めます。

- ①看護倫理に基づく看護・看護学へのコミットメントを有していること
- ②論理的思考力や課題探求力と併せて、専攻する学問分野の専門的基礎および応用能力と国際的関心を有していること
- ③高度専門職業人として、看護実践ならびに看護学の発展に貢献する意欲を有していること

●後期課程

博士後期課程では、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進してその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目指しています。このような目標を達成するため、博士後期課程では入学者に次の3点を求めます。

- ①探究心旺盛で創造的に看護の視点から自立して研究に取り組む姿勢を有していること
- ②専門分野について深い基礎および応用能力を有し、多様な学問分野への高い関心と国際的な視野を備えていること
- ③豊かな人間性ととも、看護の社会的認知を高め看護学ならびに看護実践・教育の発展に貢献する熱意を有していること

看護学研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、募集要項に掲載したほか、Webページ上にも掲載して公表に努めた。看護学研究科の学生募集要項は、看護系の大学(106件)や病院(223件)に対して送付している。

- ① 大阪府立大学大学院看護学研究科学生募集要項 (p.1)
- ② Webページ (URL: http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra_top.html)

(2) 入学試験

博士前期課程では外国語（英語）、専攻科目、面接試験を実施し、専攻科目試験はきめ細かく適性を判断するために各領域・分野ごとの出題としている。博士後期課程では外国語（英語）、専門科目（全分野共通）、口述試験を行っている。いずれもアドミッション・ポリシーに見合う専攻科目・専門科目と面接試験・口述試験を実施している。

2) 入学者選抜の実施体制

看護学研究科の入学試験についても、入学試験運営委員会において企画とその実施が適性かつ円滑に行われるような体制が整っている。平成24年度は後期課程で第2次募集が行われたが、入学試験は問題なく実施された。

3) 入学者受け入れの現状

平成25年4月入学者の現状を次に示す。ほぼ募集人員通りである。

資料4-2-3 平成25年 看護学研究科入学者

看護学研究科		募集人員 (名)	入学者数 (名)
	博士前期課程	26	27
	博士後期課程	5	4

3. 科目等履修生制度、研究生の受け入れについて

看護学部（看護学類）では、高等学校を卒業した者またはそれと同等以上の学力があると認められた者が看護学部（看護学類）の授業科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計2回募集している。平成24年度は科目等履修生の受け入れはなかった。

看護学研究科では、看護系大学院修士課程又は博士前期課程を修了した者が、看護学研究科の講義科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計2回募集している。また大学卒業見込み又はこれと同等以上の学力があると認められた者が研究について指導を受けることのできる大学院研究生を毎年度、前期・後期の計2回募集している。平成24年度の科目等履修生と大学院研究生の受け入れはなかった。

第5章 教育内容及び方法

1. 教育課程の編成・授業科目の内容

1) 学士課程

看護学部（看護学類）では、生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成することを教育目的とし、これを達成するために教育課程が編成されている。その編成は、幅広い教養を身につける「教養科目・基盤科目」、看護学の基盤教育としての「専門支持科目」（平成24年度入学生からは「専門基礎科目」）、看護学の「専門科目」からなる。教養教育は、大阪府立大学全体の教養教育と基礎教育を担う総合教育研究機構が実施している。看護学の「専門科目」は、平成24年度入学生は「学域共通科目」「基礎看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「看護の統合と実践」から構成しており、平成21～23年度入学生は「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「看護の統合と実践」、平成20年度以前の入学生は「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「総合」から構成している。

「教養科目・基盤科目」「学域共通科目」「専門支持科目（専門基礎科目）」「専門科目」は、学習の順序性を考えて体系的に配置している（資料5-1-1-1,2）。「教養科目・基盤科目」は、主に1年次に配置し、国際的な視野で貢献できる能力を養う実用英語習得のための英語教育は1年次、2年次に配置している。教養科目は、羽曳野キャンパス開講科目に加え、週1回（平成24年度入学生からは週2回）中百舌鳥キャンパスにおいて開講されている54科目の中から選択することができる。学生は、羽曳野キャンパスおよび中百舌鳥キャンパスにおいて、多くの科目から教養科目・基盤科目を選択することができるようになった。なお、中百舌鳥キャンパスとの交通にはキャンパス間のバスを授業開始時間にあわせて運行している。

「専門支持科目（専門基礎科目）」は、主に1年次、2年次に配置し、からだの構造や機能、病態や疾病、チーム医療に関連する知識や能力等を理解するための科目等を開設している。「専門科目」は、1年次から4年次に配置し、「人・環境支援（基礎）看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」の専門領域別の科目では、看護に必要な知識と技術および科学的根拠に基づく問題解決能力を養う内容が含まれている。さらに、専門領域別の実習を1年次から4年次に配置し、保健・医療・福祉などの分野において、看護の実践能力および調整的能力を養う内容となっている。「看護の統合と実践」（平成20年度以前の入学生は「総合」）では、看護学への関心を深め、総合的な視野と看護学研究の基礎能力を養うための科目等を開設している。

また、平成18年度より転学部（学類）制度を導入し、南大阪地域の大学と南大阪コンソーシアムとして協定を結び、互換可能な開講科目について単位認定を可能にしている。

資料5-1-1-1 看護学類 卒業要件 授業科目一覧 (1年次生用)

卒業要件単位	科 目			
	必修	選択	計	
	18	10	28	
	21	0	21	
	73	2	75	
4	0	4		
	計	116	12	128

区分	授 業 科 目					卒業 必 要 単 位	羽 曳 野 キ ャ ン パ ス で 開 講	卒業 必 要 単 位	中 百 舌 鳥 キ ャ ン パ ス で 水 曜 日 と 木 曜 日 に 開 講 さ れ る 科 目	区 分	授 業 科 目					卒業 必 要 単 位			
	授 業 科 目 名	必修	選択	講義	演習						実習	授 業 科 目 名	必修	選択	講義		演習	実習	
共 通 科 目	基礎科目						28	28 単 位 以 上 (必 修 科 目 18 単 位 + 選 択 科 目 10 単 位 以 上)		専 門 基 礎 科 目	解剖生理学A	2		30			21 単 位		
	・外国語科目(英語)												解剖生理学B	2		60			
	Academic English I A	2			30								生化学A	1		15			
	Academic English I B	2			30								病理学	1				30	
	Academic English II A	2			30								疾病・治療論A	1				30	
	Academic English II B	2			30								疾病・治療論B	1				30	
	Academic English III	2			30								疾病・治療論C	1				30	
	Academic English IV	2			30								疾病・治療論D	1				30	
	教養科目												医療遺伝学	1		15			
	統計学入門		2		30								微生物学概論	1				30	
憲法		2		30					薬理学	1			30						
(1年次中百舌鳥開講科目・水曜日、木曜日分)									公衆衛生学A	1		15							
導入科目									栄養学概論	1		15							
初年次ゼミナール		2			30				疫学	2		30							
基礎科目									保健統計学	2		30							
・健康・スポーツ科学科目									医療と社会福祉学	1		15							
健康・スポーツ科学概論		2		30					カウンセリング論	1		15							
健康・スポーツ科学演習Ⅰ		2			30				生命倫理学	2		30							
健康・スポーツ科学演習Ⅱ		2			30				人間支援科学論	1		15							
・外国語科目(初修外国語)									コラボレーション論	2		30							
ドイツ語入門Ⅰ		2			30				コミュニケーション論	1		15							
ドイツ語入門Ⅱ		2			30				ケアリング論	2	2	30							
フランス語入門Ⅰ		2			30				看護学概論	2		30							
フランス語入門Ⅱ		2			30				基礎看護技術学Ⅰ	1		15							
中国語入門Ⅰ		2			30				基礎看護技術学Ⅱ	2			60						
中国語入門Ⅱ		2			30				基礎看護技術学Ⅲ	2			60						
朝鮮語入門Ⅰ		2			30				看護過程展開論	1			30						
朝鮮語入門Ⅱ		2			30				看護管理学	1		15							
・情報基礎科目									看護教育学	1		15							
情報基礎(情報社会と情報倫理を含む)		2			30				基礎看護学実習Ⅰ	1				45					
教養科目									基礎看護学実習Ⅱ	2				90					
哲学と思考		2		30					療養支援看護学概論	2		30							
生物と人間		2		30					病態看護論	2			60						
科学の歴史		2		30					療養支援論：急性Ⅰ	1		15							
臨床心理学への招待		2		30					療養支援論：急性Ⅱ	1			30						
近代日本の思想と社会		2		30					療養支援論：慢性Ⅰ	1		15							
文学と社会		2		30					療養支援論：慢性Ⅱ	1			30						
自然科学への招待		2		30					療養支援論：がん	1		15							
医療と社会		2		30					療養支援論：感染	1			30						
社会の中の数学		2		30					療養支援看護学実習：急性	3				135					
ヘルスプロモーション		2		30					療養支援看護学実習：慢性	3				135					
世界の文学		2		30					生活支援看護学概論：老年	1		15							
生命環境科学入門		2		30					生活支援看護学概論：在宅	1		15							
心理学への招待		2		30					生活支援看護学概論：精神	1		15							
数学の視点		2		30					生活支援論：老年Ⅰ	1			15						
中国古典文学への招待		2		30					生活支援論：老年Ⅱ	1			30						
ジェンダー論への招待		2		30					生活支援論：在宅Ⅰ	1		15							
バリアフリー論		2		30					生活支援論：在宅Ⅱ	1			30						
大阪府立大学の歴史		2		30					生活支援論：精神Ⅰ	1		15							
物語文学を読む		2		30					生活支援論：精神Ⅱ	1			30						
世界の中のフランス語圏		2		30					生活支援看護学実習：老年	3				135					
障害者と心理		2		30					生活援助実習	1			45						
造形と生活		2		30					生活支援看護学実習：在宅	2			90						
文字情報の伝達と文化		2		30					生活支援看護学実習：精神	2			90						
英語学への招待		2		30					公衆衛生看護学概論	2		30							
憲法		2		30					公衆衛生看護学Ⅰ	2		30							
人権問題論A		2		30					公衆衛生看護学Ⅱ		2		60						
美術史学入門		2		30					公衆衛生看護学Ⅲ	2		60							
科学の歴史		2		30					保健医療福祉行政論	2		30							
国際文化の視点		2		30					公衆衛生看護学実習	5				225					
近代を問う		2		30					家族支援看護学概論：母性	1		15							
現代のドイツ		2		30					家族支援看護学概論：小児	1		15							
コミュニケーションの諸相と文化		2		30					家族看護論	2		30							
比較文化社会論		2		30					家族支援論：母性Ⅰ	1		15							
日本文化学		2		30					家族支援論：母性Ⅱ	1			30						
暮らしと法律		2		30					家族支援論：小児Ⅰ	1		15							
からだとこころの科学		2		30					家族支援論：小児Ⅱ	1			30						
音楽と生活		2		30					家族支援看護学実習：母性	2			90						
世界遺産と文芸		2		30					家族支援看護学実習：小児	2			90						
スポーツと社会		2		30					基礎助産学	1		15							
宗教の諸相		2		30					助産診断技術学Ⅰ	1			30						
社会に生きる科学		2		30					助産診断技術学Ⅱ	4			120						
科学と芸術と人生		2		30					助産管理	1		15							
スポーツの構造		2		30					助産学実習	10				450					
現代日本の政治と経済		2		30					研究方法論	1		15							
経済史概論		2		30					総合研究	2				90					
歴史を学ぶとは		2		30					国際保健	1		15							
変容する社会と社会学		2		30					災害支援看護論	1		15							
人間学入門		2		30					セクシュアリティと看護	1		15							
公共性と自由		2		30					看護援助論	1		15							
地域文化学		2		30					看護援助論	2				90					
問題群としての社会		2		30					総合実習										
環境・生命・倫理		2		30															
環境学と社会科学への招待		2		30															
自然環境学概論		2		30															

※自由選択枠科目：共通教育科目の所要単位を超えて修得した単位並びに他学類及び他学類が開設する専門科目のうち自由選択枠科目として別に定める科目。

資料 5-1-1-2 看護学部 卒業要件 授業科目一覧 (2年次生・3年次生・4年次生用)

卒業要件単位	科 目		
	必修	選択	計
	12	18	30
	23	1	24
72	2	74	
	107	21	128

区分	授 業 科 目					卒業要件単位	卒業要件	区分	領域	授 業 科 目					卒業要件単位	卒業要件
	授 業 科 目 名	必修	選択	講義	演習					実習	授 業 科 目 名	必修	選択	講義		
共通	教養科目	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	専	門	解剖生理学Ⅰ	2			60	24 単位以上 (必修科目 23単位+ 選択科目 1単位以上)	
	生命倫理学									解剖生理学Ⅱ	2			60		
共通	基礎科目						30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	支	持	生化学	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	・健康・スポーツ科学科目									病理学	1	30				
共通	健康・スポーツ科学演習Ⅰ	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	科	目	疾病論Ⅰ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	健康・スポーツ科学演習Ⅱ	2		30						疾病論Ⅱ	1			30		
共通	・外国語科目(英語を除く)						30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	人・環境支援看護学	専	疾病論Ⅲ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	中国語初級AⅠ(基礎)	2		30						疾病論Ⅳ	1			30		
共通	中国語初級AⅡ(基礎)	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	門	医療遺伝学	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	朝鮮語初級AⅠ(基礎)	2		30						微生物学	1			30		
共通	朝鮮語初級AⅡ(基礎)	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	生活支援看護学	科	薬理学	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	・一般情報科目									栄養学総論	1			30		
共通	情報基礎AⅠ	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	生活支援看護学	目	疫学	2			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	情報基礎AⅡ	2		30						保健統計学	1			30		
共通	・外国語科目(英語)						30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	生活支援看護学	目	医療と社会学	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	英語AⅠ	2		30						コミュニケーション論	1			30		
共通	英語AⅡ	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	生活支援看護学	目	医療と法	1	30		30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	英語DⅠ	2		30						チーム医療論	2			30		
共通	英語DⅡ	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	生活支援看護学	目	公衆衛生学	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	(1年次中百舌鳥開講科目・水曜日分)									カウンセリング論	1	15				
共通	教養科目						30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	生活支援看護学	目	臨床心理学	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	健康・スポーツ科学概論	2		30						家族社会学	1			30		
共通	哲学と思考	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	看護学概論	2		30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)		
	生物と人間	2		30						人・環境支援技術Ⅰ	2				60	
共通	科学と文化	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	人・環境支援技術Ⅱ	2		60	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)		
	哲学と人生	2		30						人・環境支援論	1				30	
共通	科学の歴史	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	人・環境支援論・対人関係技法	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	数理学のトピックス	2		30						人・環境支援論・管理/教育	2		15			
共通	環境学と社会学への招待	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	人・環境支援看護学実習Ⅰ	1			45	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	ゼミナール科学と文化	2		30						人・環境支援看護学実習Ⅱ	2			90		
共通	比較文学の世界	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	療養支援看護学概論	2		30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)		
	文学と社会	2		30						病態看護支援論	2				60	
共通	環境・生命・倫理	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	療養支援論・急性Ⅰ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	自然科学への招待	2		30						療養支援論・急性Ⅱ	1			30		
共通	現代日本の政治と経済	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	療養支援論・慢性Ⅰ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	医療と社会学	2		30						療養支援論・慢性Ⅱ	1			30		
共通	医療と心理学	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	療養支援論・がん	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	自然における右と左の関係	2		30						療養支援論・感染	1			30		
共通	歴史学の現在	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	療養支援看護学実習：急性	3			135	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	世界の文学	2		30						療養支援看護学実習：慢性	3			135		
共通	生命環境科学研究の最前線	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	生活支援看護学概論・老年	1	15			74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	総合教養科目「近代を問う」	2		30						生活支援看護学概論・在宅	1		15			
共通	ジェンダー論への招待	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	生活支援看護学概論・精神	1		15		74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	数学の手法	2		30						生活支援看護学概論・地域	2		30			
共通	現代社会と障害	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	生活支援論・老年Ⅰ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	現代文化論	2		30						生活支援論・老年Ⅱ	1			30		
共通	「大学」を学ぶ-大阪府立大学史への誘い-	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	生活支援論・在宅Ⅰ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	人間学入門	2		30						生活支援論・在宅Ⅱ	1			30		
共通	法と社会	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	生活支援論・精神Ⅰ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	問題群としての社会	2		30						生活支援論・精神Ⅱ	1			30		
共通	文学の基礎	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	生活支援論・地域Ⅰ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	障がい者と心理	2		30						生活支援論・地域Ⅱ	1			30		
共通	造形と生活	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	生活支援論・地域Ⅲ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	ゼミナール日本文学の世界	2		30						生活支援看護学実習：老年	4			180		
共通	ゼミナール現代文化論	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	生活支援看護学実習：在宅	2			90	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	憲法	2		30						生活支援看護学実習：精神	2			90		
共通	暮らしと法律	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	生活支援看護学実習：地域	4			180	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	人権問題論A	2		30						家族支援看護学概論・母性	1	15				
共通	美術史学入門	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	家族支援看護学概論・小児	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	変容する社会と社会学	2		30						家族看護論	2		15			
共通	情報とは何か	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	家族支援論・母性Ⅰ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	国際文化の視点	2		30						家族支援論・母性Ⅱ	1			30		
共通	ゼミナール教養のための読書サロ	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	家族支援論・小児Ⅰ	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	現代のドイツ	2		30						家族支援論・小児Ⅱ	1			30		
共通	暮らしと経済	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	家族支援看護学実習：母性	2			90	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	ゼミナール鑑賞と研究	2		30						家族支援看護学実習：小児	2			90		
共通	コミュニケーションの諸相と文化	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	基礎助産学	1	15			74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	比較文化社会論	2		30						助産科	1		30			
共通	スポーツと臨床心理	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	助産診断技術学Ⅰ	3			90	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	からだの科学	2		30						助産診断技術学Ⅱ	1			15		
共通	音楽と生活	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	助産管理	1			30	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	ゼミナール哲学と思考	2		30						助産学実習	8			360		
共通	ゼミナール現代思想入門	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	療養支援看護学	専	研究方法論	1		30		74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	ゼミナール変容する社会と社会学	2		30						総合研究	2			90		
共通	ゼミナール数理科学	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	看護の統合と実践	専	国際保健	1	15			74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	・外国語科目(英語を除く)									人権と医療	1		15			
共通	ドイツ語初級AⅠ(基礎)	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	看護の統合と実践	専	出産・子育てと文化	1	15			74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	ドイツ語初級AⅡ(基礎)	2		30						災害支援看護論	1		15			
共通	フランス語初級AⅠ(基礎)<B組>	2		30			30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	看護の統合と実践	専	セクシュアリティと看護	1			15	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
	フランス語初級AⅡ(基礎)<B組>	2		30						医療環境と看護	1		15			
共通							30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	看護の統合と実践	専	看護援助論(eラーニング科目)	1			15	74 単位以上 (必修科目 72単位+ 選択科目 2単位以上)	
										総合実習	2			90		

1年次中百舌鳥開講科目・水曜日分以外にも他の科目を修得すれば単位認定できる。(自由選択枠等)

2) 大学院課程

看護学研究科では、大阪府立大学大学院看護学研究科規程（規程第 61 号第 3 条）に基づき、専攻領域及び分野を定めている。

博士前期課程は、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目的とし、「人・環境支援看護学」「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の 4 つの専門領域に修士論文コース、「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の 3 つの専門領域に 11 分野の専門看護師(CNS)コースを設置している。さらに、職業を有している等の事情により、標準修学年限（博士前期課程 2 年）の大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修できる長期履修制度を設置している。教育課程の編成は、教育研究能力を修める「基盤教育科目」と、専門的な実践能力を習得する「専門教育科目」からなる（資料 5-1-2-1）。「基盤教育科目」は、「理論看護学」「看護学研究法」等の必修科目、「調査研究処理法」「医療社会福祉学」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習・実習・研究で構成している。

博士後期課程は、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を極め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目的とし、「生活支援看護学」「療養支援看護学」の 2 つの専門領域を設置している。教育課程の編成は、「基盤教育科目」と「専門教育科目」からなり（資料 5-1-2-2）、「基盤教育科目」は「看護学研究方法論」の必修科目、「生体科学研究方法論」「健康科学研究方法論」「看護理論開発方法論」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習・研究で構成している。

資料 5-1-2-1 看護学研究科 博士前期課程 標準履修課程表

区 分	領域	分野	授 業 科 目	修論コース		CNSコース		授業時間数			学年進行						
				単位数	必修	単位数	必修	講義	演習	実習	1 年次		2 年次				
											前期	後期	前期	後期			
基 盤 教 育			理論看護学	2	2	2	2	30				○					
			看護学研究法	2		2		30				○					
			看護倫理学	2	2	2	2	30				○					
			看護政策学	1	1	1	1	15					○				
			コンサルテーション論	1	1	1	1	15					○				
			病態生理学	2	2	2	2	30					○				
			代謝病態生理学	2	2	2	2	30					○				
			臨床薬理学	2	2	2	2	30					○				
			臨床疾病治療論	2	2	2	2	30					○				
			フィジカルアセスメントⅠ	2	2	2	2	30					○				
			フィジカルアセスメントⅡ	2	2	2	2	30					○				
			調査研究処理法Ⅰ	2	2	2	2	30					○				
			調査研究処理法Ⅱ	2	2	2	2	30					○				
			医療社会福祉学	2	2	2	2	30					○				
			臨床生理心理学	2	2	2	2	30					○				
			生体情報論	2	2	2	2	30					○				
			生体感染防御論	2	2	2	2	30					○				
			臨床遺伝学	2	2	2	2	30					○				
			家族看護学	2	2	2	2	30					○				
			経営管理論	2	2	2	2	30					○				
			*共通特論Ⅰ(腫瘍病態生物学)	2	2	2	2	30					○				
			*共通特論Ⅱ(臨床腫瘍学総論)	2	2	2	2	30					○				
			*共通特論Ⅲ(臨床腫瘍学各論)	2	2	2	2	30					○				
			人・ 環 境 支 援 学			看護技術学特論Ⅰ	2		2		30				○		
						看護技術学特論Ⅱ	2		2		30				○		
						看護技術学演習Ⅰ	2		2		60				○		
						看護技術学演習Ⅱ	2		2		60				○		
						看護技術学特別研究	6				180					○	○
						看護情報学特論Ⅰ	2		2		30				○		
						看護情報学特論Ⅱ	2		2		30				○		
						看護情報学演習Ⅰ	2		2		60				○		
						看護情報学演習Ⅱ	2		2		60				○		
						看護情報学特別研究	6				180					○	○
						看護管理学特論Ⅰ	2	2	2	2	30				○		
						看護管理学特論Ⅱ	2	2	2	2	30				○		
看護管理学演習Ⅰ	2	2				2	2	60				○					
看護管理学演習Ⅱ	2	2				2	2	60				○					
看護管理学特別研究	6	2				2	2	180					○	○			
専 門 教 育			看護教育学特論Ⅰ	2	2	2	2	30				○					
			看護教育学特論Ⅱ	2	2	2	2	30				○					
			看護教育学演習Ⅰ	2	2	2	2	60				○					
			看護教育学演習Ⅱ	2	2	2	2	60				○					
			看護教育学特別研究	6	2	2	2	180					○	○			
家 族 支 援 学			母性看護学特論	2	2	2	2	30				○					
			母性看護学援助特論	2	2	2	2	30				○					
			母性看護学演習ⅠA	2		2		60				○					
			母性看護学演習ⅠB	2		2		60				○					
			母性看護学演習ⅡA	2		2		60				○					
			母性看護学演習ⅡB	2		2		60				○					
			周産期看護演習ⅠA	2		2		60				○					
			周産期看護演習ⅠB	2		2		60				○					
			周産期看護演習ⅡA	2		2		60				○					
			周産期看護演習ⅡB	2		2		60				○					
			母性看護学実習		6			270					○	○			
			母性看護学実習Ⅱ		6			270					○	○			
			母性看護学課題研究		6			60					○	○			
			母性看護学特別研究	6				180					○	○			
			支 援 学			家族看護学特論	2	2	2	2	30				○		
家族看護学援助特論Ⅰ	2	2				2	2	30				○					
家族看護学援助特論Ⅱ	2	2				2	2	30				○					
家族看護学演習ⅠA	2					2		60				○					
家族看護学演習ⅠB	2					2		60				○					
家族看護学演習ⅡA	2					2		60				○					
家族看護学演習ⅡB	2					2		60				○					
家族看護学実習		6						270					○	○			
家族看護学実習Ⅱ		6						270					○	○			
家族看護学課題研究		6						60					○	○			
家族看護学特別研究	6							180					○	○			
小 児 看 護 学						小児看護学特論	2	2	2	2	30				○		
						小児看護学援助特論Ⅰ	2	2	2	2	30				○		
						小児看護学援助特論Ⅱ	2	2	2	2	30				○		
						小児看護学援助特論Ⅲ	2	2	2	2	30				○		
			小児看護学演習ⅠA	2		2		60				○					
			小児看護学演習ⅠB	2		2		60				○					
			小児看護学演習ⅡA	2		2		60				○					
			小児看護学演習ⅡB	2		2		60				○					
			小児看護学実習Ⅰ		2			90					○	○			
			小児看護学実習Ⅱ		8			360					○	○			
			小児看護学課題研究		2			60					○	○			
			小児看護学特別研究	6				180					○	○			

「*」付き科目については、がんプロフェッショナル養成プランがん専門看護師養成コース開講科目のため、がん看護分野CNSコース以外の者は受講を申請することができない。

区 分	領域	分野	授 業 科 目	修論コース		CNSコース		授業時間数			学年進行									
				単位数	必修	単位数	必修	講義	演習	実習	1 年次		2 年次							
											前期	後期	前期	後期						
基 盤 教 育			地域看護学特論	2	2	2	2	30				○								
			地域看護学援助特論	2	2	2	2	30				○								
			地域看護学演習ⅠA	2		2		60				○								
			地域看護学演習ⅠB	2		2		60				○								
			地域看護学演習ⅡA	2		2		60				○								
			地域看護学演習ⅡB	2		2		60				○								
			地域看護学実習		6			270					○	○						
			地域看護学課題研究		6			60					○	○						
			地域看護学特別研究	6				180					○	○						
			精 神 活 動 支 援 学			精神看護学特論Ⅰ	2	2	2	2	30				○					
						精神看護学特論Ⅱ	2	2	2	2	30				○					
						精神看護学援助特論Ⅰ	2	2	2	2	30				○					
						精神看護学援助特論Ⅱ	2	2	2	2	30				○					
						精神看護学演習ⅠA	2		2		60				○					
						精神看護学演習ⅠB	2		2		60				○					
						精神看護学演習ⅡA	2		2		60				○					
						精神看護学演習ⅡB	2		2		60				○					
						精神看護学実習		6			270					○	○			
						精神看護学課題研究		6			60					○	○			
						精神看護学特別研究	6				180					○	○			
						在 宅 看 護 学			在宅看護学特論	2	2	2	2	30				○		
									在宅看護学援助特論Ⅰ	2	2	2	2	30				○		
									在宅看護学援助特論Ⅱ	2	2	2	2	30				○		
									在宅看護学援助特論Ⅲ	2	2	2	2	30				○		
			在宅看護学演習ⅠA	2					2		60				○					
			在宅看護学演習ⅠB	2					2		60				○					
			在宅看護学演習ⅡA	2					2		60				○					
			在宅看護学演習ⅡB	2					2		60				○					
			在宅看護学実習		6						270					○	○			
			在宅看護学課題研究		6						60					○	○			
			在宅看護学特別研究	6							180					○	○			
			老 年 看 護 学						老年看護学特論	2	2	2	2	30				○		
									老年看護学援助特論	2	2	2	2	30				○		
									老年看護学演習ⅠA	2		2		60				○		
									老年看護学演習ⅠB	2		2		60				○		
老年看護学演習ⅡA	2					2		60				○								
老年看護学演習ⅡB	2					2		60				○								
老年看護学実習		6						405					○	○						
老年看護学課題研究		6						60					○	○						
老年看護学特別研究	6							180					○	○						
急 性 看 護 学						急性看護学特論	2	2	2	2	30				○					
						急性看護学援助特論Ⅰ	2	2	2	2	30				○					
						急性看護学援助特論Ⅱ	2	2	2	2	30				○					
						急性看護学演習ⅠA	2		2		60				○					
						急性看護学演習ⅠB	2		2		60				○					
						急性看護学演習ⅡA	2		2		60				○					
			急性看護学演習ⅡB	2		2		60				○								
			急性看護学実習Ⅰ		6			270					○	○						
			急性看護学実習Ⅱ		4			180					○	○						
			急性看護学課題研究		6			60		</										

資料 5-1-2-2 看護学研究科 博士後期課程 標準履修課程表

区分	領域	授業科目	単位数		授業時間数		1年次		2年次		3年次	
			必修	選択	講義	演習	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基盤教育		看護学研究方法論	2		30		○					
		看護学研究方法論演習		1	30		○					
		生体科学研究方法論		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅰ		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅱ		1	15		○					
		看護理論開発方法論		1	15			○				
専門教育	生活支援看護学	看護技術・情報学特論		2	30		○					
		看護技術・情報学演習		2	60		○					
		看護管理・教育学特論		2	30		○					
		看護管理・教育学演習		2	60		○					
		母子健康看護学特論		2	30		○					
		母子健康看護学演習		2	60		○					
		家族健康看護学特論		2	30		○					
		家族健康看護学演習		2	60		○					
	地域・精神看護学特論		2	30		○						
	地域・精神看護学演習		2	60		○						
	在宅・老年看護学特論		2	30		○						
	在宅・老年看護学演習		2	60		○						
		生活支援看護学特別研究		6		270			○	○	○	
	療養支援看護学	急性療養看護学特論		2	30		○					
		急性療養看護学演習		2	60		○					
慢性療養看護学特論			2	30		○						
慢性療養看護学演習			2	60		○						
がん療養看護学特論			2	30		○						
がん療養看護学演習			2	60		○						
療養支援看護学特別研究			6		270			○	○	○		

2. 教育方法

1) 学士課程

授業形態は、学習効果を上げるために、「教養科目・基盤科目」「専門支持科目」（平成 24 年度入学生からは「専門基礎科目」）は講義・演習、「専門科目」は講義・演習・実習で構成している。具体的な授業形態および指導形態の例として、「情報基礎」ではコンピュータを使用して情報処理の演習を行い、「解剖生理学Ⅰ、Ⅱ」（平成 20 年度以前の入学生は「形態機能学Ⅰ、Ⅱ」）ではビジュランを活用して授業を行っている。各領域の「支援論」などにおいては、少人数による対話・討論型授業を行っている。臨地実習では、病院、老人保健施設、保健所、市町村保健センターなどの様々なフィールド型実習を行っている。さらに、平成 17 年度に採択された文部科学省による現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム「看護実践能力の獲得を支援する e-ラーニング」の教材を授業や実習に活用し、学習指導法を工夫している。

教育の目的に応じた成績評価基準は、大阪府立大学履修規程（規程第 78 号第 12 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001481.html）、各科目の成績評価基準は、学生必携の授業科目概要に記載している。授業科目および臨地実習の成績評価および単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施している。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から学生グループ学部教務担当または当該科目担当教員に、口頭もしくは書面で行われている。卒業要件基準は、大阪府立大学看護学部規程に則り（規程第 54 号第 8 条）、平成 24 年度入学生は卒業要件 128 単位、必修単位 116 単位、平成 21～23 年度入学生は卒業要件 128 単位、必修単位 107 単位、平成 20 年度以前の入学生は卒業要件 128 単位、必修単位 93 単位としている。これは、平成 21～23 年度に入学した学士課程の卒業者に、看護師および保健師の国家試験受験資格を与えるためである。平成 24 年度入学生に対しては助産師に加え保健師も選択制となり、助産師国家試験受験資格の取得を希望する学生に対しては、14 単位（平成 24 年度入学生からは 17 単位）の助産科目を、保健師国家試験受験資格の取得を希望する学生に対しては、11 単位の保健師科目を開設している。また、平成 24 年度入学生から、養護教諭一種免許状取得のための科目を開設している。入学前の既修得単位の認定は、大阪府立大学学則（規程第 47 号第 36 条）に則り、新入学者に対しては、本学入学前に他大学等で修得した科目は個別に審査し、卒業要件単位に認定している。2 年次編入の教養科目は生命倫理学以外の教養科目 28 単位を上限として個別に審査し、卒業要件単位に認定している。卒業認定は、卒業要件に照らし合わせて教授会でやっている。

2) 大学院課程

博士前期課程の授業形態および指導形態は、修士論文コースでは講義・演習、専門看護師（CNS）コースでは講義・演習・実習で構成され、少人数教育を基本としている。講義では質疑応答を含めた対話・討論型授業、演習では情報機器の活用や実験、演習及び実習ではフィールド型授業などを行っている。さらに、学部（学類）の授業におけるティーチングアシスタント（TA）としての活動を通して、教育能力を高められるようにしている。

研究指導は、博士前期課程、博士後期課程ともに複数指導教員体制のもとで行い、主指導教員はテーマの選定及び研究方法の検討から論文作成までのすべてのプロセスを直接指導している。副指導教員は主指導教員と緊密な連携を取りつつ、指導に当たっている。論文審査のプロセスとして、博士前期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。修士論文・課題研究論文の審査は、研究科会議で選出された主査 1 名と副査 2 名以上で行い、研究科会議で最終承認を行う。博士後期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。2 年次には中間報告を行い、教員および他の大学院生の意見を広く求め、研究能力を育成する場としている。博士論文の審査は、研究科会議の全教員で行う予備審査、研究科会議で選出された主

査1名と副査2名以上で行う本審査を経て、研究科会議で最終承認を行う。

修了要件及び成績評価基準は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程(規程第61号第10条、第15条)に則り、成績評価及び単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施し、修了認定は、研究科会議の議を経て学長が行っている。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から当該科目担当教員または学生グループ教務担当に、口頭もしくは書面で行われている。

また、「看護学研究科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)」(資料5-2-2)を平成24年度に制定した。

資料5-2-2 看護学研究科学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

看護学研究科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

●博士前期課程

1. 看護専門領域に関する理論への精通および研究の批判的吟味により、質の高い看護ケアが実践できる能力を修得している。
2. 看護専門領域に関する研究に取り組み、看護研究能力を修得している。
3. 高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を判断し、調整できる能力を修得している。
4. 看護実践・研究・教育を通して国際社会に貢献できる能力を修得している。

●博士後期課程

1. 看護実践の改革を目指し、専門性の高い看護ケアを開発できる能力を修得している。
2. エビデンスに基づく看護実践、関連領域の知識・研究を用いて、研究活動、看護活動を行い、看護学の発展に寄与できる能力を修得している。
3. 保健・医療・福祉及び社会の諸変化に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮できる能力を修得している。
4. 学際的・国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献できる能力を修得している。

3. その他

7 大学連携先端的がん教育基盤創造プラン

大阪府立大学大学院看護学研究科は、近畿大学、大阪市立大学、神戸大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学、関西医科大学の看護・医学・薬学系大学院研究科とともに、平成23年度に文部科学省に「7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン」を共同申請し、採択された。本プロジェクトは平成24年度から平成28年度にかけての5年間で、高度ながん医療と研究を実践できる人材育成の基盤整備をするための取り組みであり、がん教育拠点の構築のために、教育改革部門、地域連携部門、研究者養成部門の3部門を設置し、組織での連携教育を行っている。

本学研究科では、高度ながん看護を実践できるがん看護専門看護師を育成する基盤整備を行っている。高度な看護実践で経験する多様な病態・状況に対応できる能力の育成を目的として、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメントの基盤教育科目を研究科として新たに設置した。また、専門教育科目としてがん緩和ケア論、

がん薬物療法看護論を新たに設け、疾患・治療に伴う症状や、心理・社会・霊的側面をアセスメントする能力の向上と患者のセルフケア能力向上のための方略についての教育内容を強化した。これらの知識を基盤としてがん患者を包括的にアセスメントすること、エビデンスに基づいたケアを対象の状況に合わせて提供することができるようになることを目指している。

また本学研究科における企画として、事例検討会と研究抄読会を開催している。事例検討会の開催は月1回程度、1回約2時間で、専門的な看護実践について事例を用いて討議を行うとともに、専門看護師としての専門的な看護実践の遂行および役割開発についての講義を行い、実践の場ではがん看護専門看護師として役割遂行するための能力の発展を目指している。研究抄読会の開催は隔月、1回約3時間程度で、研究発表や文献クリティーク等を行い、研究の活用や研究を遂行する能力の発展を目指している。これらの企画の参加者は教員（教授、准教授、助教）や大学院後期課程学生、大学院前期課程がん看護専門看護師コース修了生および在學生である。

第6章 学生支援

1. 学習支援

1) 学士課程

看護学部（看護学類）では、「教養科目・基盤科目」、「専門支持科目」（平成24年度入学生からは「専門基礎科目」、「専門科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果を上げることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、卒業認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。また、選考に基づき助産科目又は保健師科目（平成24年度入学生から）を履修することができ、その説明を入学時と3年次に実施している。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目ごとに、教員のオフィスアワーおよびメールアドレスを記載している。国家試験対策としては、教員のアドバイスのもと4年次の学生の代表が中心となって、国家試験の模擬試験を年4回（保健師1回、助産師0回、看護師3回）実施している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室、自習室（ラーニングコモンズ）等の施設整備に加え、携帯型のマルチメディア端末を用いたデジタル教材などを整備している。羽曳野図書センターの開館時間は、平日8時30分～21時、土曜日10時30分～19時で、AVブース・AV機器を備えたグループ学習室等を使用することができる。さらに、看護に関する蔵書は日本でもトップクラスであり、他大学図書館との相互利用サービス、データベース・サービス等も充実している。図書館のガイダンスは、新入生および新採用教員へ年度当初に行うとともに、利用についても案内・周知している。情報科学演習室・視聴覚室は、基本的には授業時間を除く平日9時～20時に開放し、パソコンは情報科学演習室50台、視聴覚室34台を整備している。看護技術習得のためには、学内での各専門分野に応じた実習室を整備している。

学生相談を含む学生生活全般への支援は、1～3年次生10～12名に1～2名の教員、4年次生には総合研究を担当する教員が、アドバイザーとして履修上・生活上の問題について継続的に支援を行うアドバイザー制度がある。アドバイザーは、交流会・ミーティングの開催、メール配信や電話による状況把握、面接・個人指導の他、単位の実質化を推進するための指導等を行っている（資料6-1-1）。

資料6-1-1 アドバイザーグループ活動の状況

項目	平成22年度 (グループ数：30)	平成23年度 (グループ数：29)	平成24年度 (グループ数：29)
交流会・ミーティングの開催	24G (のべ35回)	21G (のべ31回)	21G (のべ37回)
メール配信による状況把握	28G	27G	26G
電話による状況把握	4G	1G	2G
面接・個人指導	28G	26G	28G
名簿・連絡先等の配布	18G	19G	17G
期末試験結果の把握	23G	23G	26G
家族への連絡・家族との相談	6G	2G	3G
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ写真配布 1G ・バイク通学申請の承認 1G ・学外での娯楽活動 2G ・推薦状の記載 1G ・NZ、東北地震の安否確認 3G ・養護教諭資格取得の集中講義の連絡 3G ・感染症での入院対応 1G ・外国留学の推薦状の作成 1G 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ写真配布 1G ・バイク通学申請の承認 2G ・実習担当教員との情報交換 1G ・提出書類未提出者への緊急連絡 1G ・中百舌鳥の臨床心理士への相談 1G 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイク通学申請の承認 9G ・提出書類未提出者への緊急連絡 2G ・長期休暇前の注意喚起 2G ・学外(天王寺動物園)での交流会 1G ・推薦状の記載 1G
活動なし(4月当初のオリエンテーション期間の活動のみ)	5G	7G	0G

羽曳野キャンパス学内団体・サークルとしては、体育系13、文化系13の計26団体が活動している。学内団体・サークルは、自治会が交付する活動資金により活動し、教員が必ず顧問として関わるほか、教授会がサークルの新規申請を承認する前に、学生委員会で活動内容の妥当性について検討している。平成24年度は、文科系2団体の新規登録が承認された。サークル室は、図書厚生棟3階に整備しており、学内で施設を利用する場合は所定の書式で申請することにより、ほぼ全面的な施設利用が認められている。自治会活動に対する支援としては、集会室を図書厚生棟3階に整備し、活動資金は入学時に徴収される自治会費に加えて、後援会からの交付金に基づいている。

また、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するために、「学生提案箱・BOX21」を学生の目につきやすい事務所入口に設置し、投函された意見は、月1回学生グループ長が開封している。さらに、WEB学生サービスセンター(WEBSC)では、WEBSCサイトに「Web提案箱」を設置し、提案した学生に当日中

に返信するとともに、寄せられた意見・提案および対応内容をWEBSCサイトで紹介している。平成24年度の学生提案箱への意見は4件、Web提案箱への意見は12件あったが、看護学部（看護学類）生からの意見は無かった。その他、随時アドバイザーから、学生委員長、教務委員長、学部長（学類長）等へ、学生のニーズに関する情報を報告している。

2) 大学院課程

看護学研究科では「基盤教育科目」と「専門教育科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果をあげることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、修了認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目ごとに、教員のオフィスアワーおよびメールアドレスを記載している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室のほか、看護学研究科大学院自習室、17台のパソコンを設置した大学院棟内情報処理室を整備している。

なお、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は、看護学部（看護学類）同様である。

2. 生活支援

看護学部（看護学類）および看護学研究科では、学生の生活や就職、経済面での援助に関する支援のほか、特別な配慮が必要な学生への支援やハラスメントに関する支援を行っている。

学生の健康相談は、保健室に配置された看護師1名が常勤で対応している。さらに、外科、産婦人科、精神科・心療内科の3名の学校医、内科の産業医1名との契約を結び、学生の健康管理と受診対応の体制をとっている。心理的問題に対応できる体制として羽曳野キャンパスカウンセリングルームでは、専門のカウンセラーによる対面相談のほか、WEB学生サービスセンター（WEBSC）所属の専門カウンセラーによるテレビ電話を用いた電話相談で対応している。平成24年度の年間相談件数（実数）は、対面相談33件、電話相談0件である。

学士課程の進路相談に関しては、年間5回の就職ガイダンスを計画的に実施している。さらに、大阪府立病院機構説明会の開催、4年次の希望学生を対象にした就職の模擬面接等を実施している。平成24年度の模擬面接の参加者は36名であった。

奨学金制度および授業料減免は、学生ガイダンス、学生生活の手引、掲示板やパンフレットにおいて周知し、より詳細な情報を必要とする学生からの問い合わせや相談は、学生グループにおいて対応している。平成24年度の奨学金の応募は、学部（学類）生20名、大学院生11名の合計31名であり、日本学生支援機構奨学金では、第一種（無利子）、第二種（有利子）合わせて学部（学類）生19名、大学院生11名の合計30名が採用された。

外国人留学生には、奨学金制度や授業料減免制度が外国人留学生枠で設けられている。アドバイザー制度により、外国人留学生寮の紹介・調整、アルバイトや書類手続き時のアドバイスなど、生活の支援体制を整備している。さらに、教員、先輩学生各1名で構成するチューター制度では、外国人留学生に対する学習支援体制も整備している。担当する先輩学生（チューター）は、学生委員会により選出され、一定の費用が支払われる。平成24年度の外国人留学生数は0名である。その他、特別な支援を行うことが必要と考えられる者は、現在のところ在学习していない。

各種ハラスメントに関する支援は、公立大学法人大阪府立大学ハラスメントの防止等に関する規程（規程第29号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000601.html）に則り、相談・助言体制を整備し、機能している。

なお、生活支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は、学習支援と同様であり、学生の実情とニーズを把握したうえで、対処方法を回答している。

第7章 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

1. 評価

1) 学生による評価

(1) 授業評価アンケートによる学生の評価

学生による授業評価および学習環境や履修指導についての意見聴取および同データの公開は、Webによるポータルを用いて年2回定期的に実施している。授業評価や意見聴取した内容は、今後の授業方法の検討に活用されることを意図して担当科目の教員にフィードバックしている。平成21年度に看護学部の授業評価アンケート実施科目のリストを作成し、以降毎年更新している。なお、平成24年度入学生から地域保健学域看護学類の所属となり、学生による実習の目標設定と自己評価を中心とした学習教育・支援サイト（ポートフォリオ）が導入された。半期ごとの目標設定と授業科目単位での学習自己評価（授業振り返り）を入力する本システムを通じて、授業評価アンケートも実施した。

授業評価アンケートの学生への周知については、実施期間中に講義等において、学生に回答を求める呼びかけを行い、アンケートへの回答を促す啓発ポスターを掲示した。その結果、看護学類前期アンケート回答率64.22%、後期アンケート回答率22.78%、看護学部前期アンケート回答率4.34%、後期アンケート回答率0.56%、看護学研究科前期アンケート回答率6.98%、後期アンケート回答率6.25%であった。

学習教育・支援サイトの導入により、看護学類のアンケート回答率は大幅に改善されたが、看護学部および看護学研究科においては、昨年より微増したものの依然として低い状態が続いている。今後も、学生がポータル入りしやすい環境整備を行うとともに、授業評価アンケートの意義について継続した啓発活動が必要であろう。また、授業評価アンケート結果に対する教員コメントの入力についても強化し、Webでの公開を通して教育改善を更に推進していく必要がある。

(2) 学生による臨地実習評価

臨地実習については、実習科目毎に学生による評価を実施しており、その結果を担当教員はもとより、臨地実習連絡会などの機会に実習指導者にもフィードバックすることで、実習内容や実習環境の改善に役立てている。

評価項目毎に評価結果（平均）をみると、「授業で学んだ内容が実習を通してより深く理解できた」と回答した者は98.1%、「対象者への理解を深め、その対象者に合う看護が展開できた」と回答した者は91.5%であった。臨地実習の総合目的である「さまざまな健康レベル・健康障害にある人々に対して、既習の知識・技術・態度を実際の場面に適用し、理論と実践を統合して看護活動が展開できる能力を養う」が概ね達成できていると考えられる。また、「教員は学生の必要に応じたアドバイス、指導、説明を行った」と回答した者は90.7%、「指導者から適切な助言が得られた」と回答した者は96.6%で、学生の学習ニーズに応えられる実習体制であったと考える。

2) 教員相互による評価

平成17年度より実施してきたピア授業評価と並行し、平成22年度よりピア授業参観を試行的に行ってきたが、平成24年度から教員相互による評価をピア授業参観に一本化させた。ピア参観実施要項、ピア授業参観実施手順に基づいて、参観科目提供の呼びかけを年4回（3月末、5月末、7月末、11月末）行い、70件の参観科目が提供され、参観の実施は19件であった。

参観科目の提供数は平成23年度の24件から70件に急増し、実施件数も平成23年度の13件から19件に増加

した。今後も参観科目の情報提供時に参観実施を呼び掛け、活発な評価活動の推進を継続していくことが求められる。

3) 教員による自己点検評価

本学では、平成19年度から教員による教員活動自己点検報告を毎年実施している。本学部(学類)独自の評価項目として、教育活動、研究活動、社会貢献活動、大学運営に関して、「非常に積極的に行った」から「行わなかった」まで4段階で自己評価している。平成24年度在籍の教員59名のうち58名が教員活動自己点検評価を提出した。なお未提出の教員1名は、年度途中で着任したものであり対象外であった。

教育活動の授業活動については、学部(学類)が掲げる教育目的のもと個々の授業目標に従った授業展開を、87%の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。さらに学部(学類)が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を86%の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。学位取得に向けての研究指導活動も83%の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。教育活動全般にわたり、大半の教員が積極的に教育活動を行っていた。研究発表活動においては、43%の教員が非常に積極的または積極的に行い、26%の教員が普通に行っていた。学術論文等による質の高い研究活動は、36%の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。学会等における研究発表活動は、53%の教員が非常に積極的または積極的に行い、21%の教員が普通に行っていた。競争的資金獲得のため代表者として積極的に申請または申請した教員は60%(35人)であり、そのうち競争的資金を獲得した教員は34%(20人)であった。各委員会活動は、97%の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。大半の看護学部(看護学類)教員が委員会活動に携わり、責務を果たし大学運営に尽力している結果が示された。

平成24年度の自己点検評価の教育活動の授業活動、教育改善活動、研究指導活動において、非常に積極的または積極的に活動しているものの比率は昨年度と変わりなく、教員の教育活動は毎年積極的に行われている。研究活動の競争的資金の獲得は、今年度の申請数が減少しているが、昨年度の獲得件数が多いことから、減少したことが考えられる。次年度以降にその成果の公表が期待される。社会貢献活動として地域に密着した学習支援活動において、半数以上の教員が非常に積極的または積極的に活動していた。公立大学の使命としての地域貢献にも積極的に参画している。また、大学運営活動では、積極的に携わっているものが全体の97%であり、ほとんどの教員が大学運営に対して積極的であった。

看護学部(看護学類)教員は、教育、研究、社会貢献活動全てにおいて、積極的に活動しているものが多いと言える。

4) 卒業生による評価

本学部では、本学卒業生を対象としたアンケート調査を実施し、主として卒業学年を対象とした就職ガイダンスには、保健師、助産師、看護師として就職している卒業生から、教育に関する意見を聴取している。

平成24年度は、看護学部から看護学研究科へ進学した修了生から主に意見を聴取した。良かった点として、少人数制の充実した教育やきめ細やかな指導が受けられたこと、看護の多角的な視野と基礎力が習得できたことが挙げられ、要望としては卒業後の定期的な勉強会の開催や実務を取り入れた講義について意見が出された。

2. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

看護学部(看護学類)におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)は、FD委員会を設置し取り組んで

いる。FD委員会の主な活動としては、学生や教員のニーズや、社会の変化に対応した内容を検討して取り上げている。平成24年度の実施日およびテーマ、参加人数等を資料7-2に示した。

FDによるセミナーは、大阪府立大学高度教育開発センターでは5回（報告会、ワークショップを含む）、看護学類独自のものでは2回開催された。その内容は資料7-2に示されているように教育改善に関するものであった。

資料7-2 平成24年度 FDセミナー

<p>平成24年度 高度教育開発センター</p>	<p>新任教員FDセミナー 日時：平成24年4月4日 講師：高等教育推進機構 星野 聡孝氏 他 看護系教員4名参加</p> <p>公開FDセミナー テーマ「学びへの視線の転換－eポートフォリオによる学習・教育改革－」 日時：平成24年5月1日 講師：東京学芸大学 准教授 森本 康彦氏 他</p> <p>初年次ゼミナール報告会 日時：平成24年10月30日 看護系教員4名参加</p> <p>FDワークショップ テーマ「初年次ゼミナールについて 初年度の経験から考える」 日時：平成25年1月18日 看護系教員6名参加</p> <p>公開FDセミナー テーマ「地域・産業牽引型高度人材育成プログラム」総括シンポジウム 日時：平成25年2月28日 講師：東京大学 幹事 有信 睦弘氏 他</p>
<p>平成24年度 看護学類セミナー</p>	<p>第1回看護学類FDセミナー テーマ「在外研究報告会」 日時：平成24年8月24日 講師：細田 泰子准教授 出席人数：34名</p> <p>第2回看護学類FDセミナー テーマ「CNS教育の新たなる展望－本学修了生の役割開発に学ぶ－」 講師：東宝塚さとう病院 山田 聡子氏 市立岸和田市民病院 高見 陽子氏 大阪府立母子保健総合医療センター 浅野 浩子氏 訪問看護ステーションわたぼうし 船越 政江氏 日時：平成25年3月8日 出席人数：71名</p>

8章 研究活動

1. 研究体制及び支援

研究の実施体制は、健康科学と看護学4領域の計5領域から構成されている。同組織への研究支援組織としては、羽曳野キャンパスの場合、総務課を中心とした事務職員および文献等の検索や収集のために羽曳野図書センターの司書などから、総合的・機能的に支援を受けている。

研究推進については、産学官連携機構から研究助成の広報・申請手続き・予算執行等、療養学習支援センターにおける地域社会との連携等が、組織的に行われている。コーディネーターが定期的に羽曳野キャンパスに来学し、研究助成に関する情報提供など支援を行っている。外部研究資金獲得に関して、文部科学省の科学研究費補助金の場合には経営企画課経理グループによる申請方法の説明会を行っているとともに、外部資金獲得に関するセミナーの開催なども実施している。このように研究が推進できるような施策が図られている。

研究資金の配分は、学類運営会議において原案を作成し、教授会および研究科会議で決定する施策が実施されている。その他の支援としては、療養学習支援センターによる研究プロジェクトに対する研究助成(資料8-2-7)、研究者の育成に関する施策(新人教員に0.5~1.5倍の研究費が上乘せ)、実習施設との共同研究助成(資料8-2-8)などがある。

看護学部(看護学類)および看護学研究科における独自の研究成果の発信や刊行のための組織として、広報委員会および紀要委員会があり、各教員の研究成果の概略をホームページなどで公開している。研究活動の状況を把握する取組として、各教員は毎年度末に教員活動情報データベースに自己の研究活動の申告を実施している。教員活動情報データベースは教員の個人情報に関する部分を除いて公開を原則としている。さらに、各教員は、教員活動自己点検・評価報告書を提出し、自己評価を行っている。これらは、評価・企画実施委員会が、看護学部(看護学類)教員全体の評価をまとめて報告している。

看護学部(看護学類)における研究活動の質の向上に関する取組としては、看護学研究倫理委員会および動物実験委員会がある。看護学研究倫理委員会では、教員および大学院生・学部学生の研究のうち、人を対象とした場合には学外の有識者を含む委員会において、研究倫理の審査で承認したものだけが研究を実施できるようになっている。実験動物を用いた研究については、動物実験ガイドラインが定められ、研究計画書を動物実験委員会に提出し、その審査を経たもののみが実施可能となる。このように倫理的に配慮した研究を支援するための研究倫理委員会、動物実験に関する委員会等が整備され機能している。

2. 研究実績

看護学部(看護学類)および看護学研究科の研究活動の実施状況と研究成果は、「資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧」に示した。学術論文の発表は91件、学会発表件数は212件であった。

競争的研究資金の申請・採択状況を資料8-2-1に示した。科学研究費補助金の新規申請は、35件であった。採択件数は新規・継続を合わせ46件(43,861,817円)であり、資料8-2-3に示した。その他に厚生労働科学研究費補助金(資料8-2-2)、財団等の研究助成(資料8-2-4)、企業等による共同研究(資料8-2-5)、その他省庁・自治体による補助金(資料8-2-6)などがある。

資料8-2-1 平成24年度 看護学部（看護学類）の補助金の申請・採択状況

研究活動			新規申請件数	採択件数	継続件数	合計金額(円)
厚生労働科学研究費補助金			—	3	0	2,850,000
日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究（A）	代表	0	0	0	0
	基盤研究（B）	代表	3	2	2	13,910,000
		分担	—	2	0	1,430,000
	基盤研究（C）	代表	13	4	7	12,951,317
		分担	—	4	12	1,410,500
	萌芽的研究	代表	5	1	1	3,380,000
		分担	—	0	0	0
	若手研究（B）	代表	10	1	3	2,600,000
		分担	—	0	0	0
	研究活動スタート支援	代表	4	2	2	5,330,000
財団等の研究助成による研究			—	2	2	1,900,000
企業等による共同研究			—	2	0	575,000
その他省庁・自治体による補助金			—	1	0	950,000
総 合 計						47,286,817

資料8-2-2 平成24年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	助成額（円）
地球規模保健課題推進研究	垣本 和宏	国連ミレニアム開発目標の達成に関する研究	600,000
地球規模保健課題推進研究	垣本 和宏	サハラ以南アフリカにおけるエイズ・結核研究ネットワーク構築に関する研究	500,000
エイズ対策研究	佐保 美奈子	H I V感染症及びその合併症の課題を克服する研究	1,750,000
合 計			2,850,000

資料 8-2-3 平成 24 年度日本学術振興会科学研究費助成事業一覧

(研究代表者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	中山 美由紀	4,160,000	NICUから住宅への移行を支える看護実践能力育成プログラムの開発
基盤研究(B)	上野 昌江	1,950,000	「社会的不利」な状況にある親に対する虐待発生子防のための支援プログラムの開発
基盤研究(B)	中村 裕美子	5,330,000	看護職のための再就職支援研修プログラムにおけるメンター機能システムの開発と評価
基盤研究(B)	高見沢 恵美子	2,470,000	急性心筋梗塞患者が必要とする周手術期医療情報と情報提供への看護介入
基盤研究(C)	榑木野 裕美	910,000	親の主體的な医療参画をめざした親・医療者協働プレパレーションシステムの開発と実践
基盤研究(C)	長畑 多代	1,820,000	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りにおける看護・介護連携モデルの構築
基盤研究(C)	簗持 知恵子	2,860,000	高血圧患者の塩分摂取測定を活用したセルフモニタリングの効果
基盤研究(C)	階堂 武郎	780,000	呼吸器疾患患者の増悪およびQOL低下に関連する気象要因
基盤研究(C)	佐保 美奈子	1,170,000	身体的障がいを持つ子どもと家族へのセクシュアリティ支援に関する研究
基盤研究(C)	和泉 京子	260,000	健康格差をふまえた国民健康保険加入者の壮年期から高齢期の継続的な支援方略の開発
基盤研究(C)	木村 洋子	780,000	リワーク(復職)につなげるうつ病者とうつ病者家族の支援プログラムの構築と評価
基盤研究(C)	松田 千登勢	1,170,000	特別養護老人ホームにおける看護師が実践する感染症リスクマネジメント指標の開発
基盤研究(C)	細田 泰子	1,300,000	実践的風土を創造する臨床学習環境デザイナー育成プログラムの構築
基盤研究(C)	石橋 千夏	601,317	クローン病患者のセルフマネジメントの実態に基づく患者教育プログラムの検討
基盤研究(C)	松本 智晴	1,300,000	DPCに対応した日本版Nursing Minimum Data Setの開発
若手研究(B)	大川 聡子	650,000	10代で出産した母親のライフプラン構築を支援する包括的プログラムの開発と評価
若手研究(B)	山内 加絵	650,000	施設入所高齢者の健康管理のためのアセスメント指標の開発
若手研究(B)	根来 佐由美	650,000	水中運動実施者の皮膚機能・性状の実態と弱酸性水による予防的ケアの効果
若手研究(B)	深山 華織	650,000	要介護高齢者を支える同居家族の日中留守にすることによる心情
研究活動スタート支援	撫養 真紀子	1,040,000	一般病院に勤務する中堅看護師の職務満足を促進する教育プログラムの開発
研究活動スタート支援	角野 雅春	1,430,000	慢性心不全患者のヘルスリテラシーに基づく症状マネージメント支援プログラムの開発
研究活動スタート支援	南村 二美代	1,430,000	糖尿病の開示・非開示の意思決定に関する研究～意思決定支援プログラムの開発にむけて
研究活動スタート支援	山口 舞子	1,430,000	人工膝関節全置換術後患者の下肢の疼痛を緩和する温電法の効果
挑戦的萌芽研究	町浦 美智子	1,170,000	分娩介助技術としてのハンズオフ手法の実態と根拠に基づく会陰保護の再検討
挑戦的萌芽研究	藪下 八重	2,210,000	炎症性腸疾患とともに生きる患者が「無理はしない」療養法を獲得するプロセス
合計		38,171,317	

(研究分担者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	杉本 吉恵	130,000	障害高齢者の自立支援に向けた「看護・介護のシーティング・ガイドライン」の開発
基盤研究(B)	和泉 京子	1,300,000	在宅虚弱高齢者に対する学際的予防訪問プログラムの効果と標準化の確立
基盤研究(C)	中山 美由紀	390,000	母娘の世代間妊孕性に関するリスク因子の探求と妊孕性支援教育プログラムの構築
基盤研究(C)	榑木野 裕美	130,000	不妊治療後の母親のペアレンティング・プログラムの開発と普及
基盤研究(C)	榑木野 裕美	91,000	検査・処置を受ける幼児後期の子供の調整能力の発揮への支援プログラム開発と効果測定
基盤研究(C)	榑木野 裕美	39,000	すべての看護職が使える子どもの虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果判定
基盤研究(C)	町浦 美智子	130,000	更年期女性の健康増進に向けた行動変容を促す健康貯金ノートを用いた介入プログラム
基盤研究(C)	町浦 美智子	65,000	母親の子育てを支援する祖母のいきいきライフを促進する教育プログラムの実践
基盤研究(C)	町浦 美智子	39,000	月経前症候群のある女性のQOL向上を目指した呼吸法の有用性
基盤研究(C)	上野 昌江	39,000	すべての看護職が使える子どもの虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果判定
基盤研究(C)	上野 昌江	65,000	自動虐待による一時保護児童と家族の親子再統合に向けての子育て支援プログラム
基盤研究(C)	高見沢 恵美子	39,000	クリティカルケア領域における特徴的な皮膚障害の発生要因およびケア内容の検証
基盤研究(C)	星 和美	39,000	潜在看護師復職教育プログラムの構築
基盤研究(C)	星 和美	65,000	新人看護師教育指導担当者の教育育成プログラムの開発
基盤研究(C)	中岡 亜希子	130,000	看護プロフェッショナリズムの育成をコアとする卒後教育システム試案の開発
基盤研究(C)	細田 泰子	45,500	看護学生のコミュニケーション能力の向上を目指した継続的教育方法の検討
基盤研究(C)	細田 泰子	39,000	潜在看護師復職教育プログラムの構築
基盤研究(C)	細田 泰子	65,000	新人看護師教育指導担当者の教育育成プログラムの開発
合計		2,840,500	

資料8-2-4 平成24年度財団等の研究助成による研究一覧

事業名	研究代表者	研究課題名
大阪ガスグループ 福祉財団事業	和泉 京子	社会経済格差による健康格差をふまえた国民健康保険加入者の壮年期から高齢期までの画期的な支援方略の開発
三菱財団福祉事業	植木野 裕美	被虐待児に対する環境療法的アプローチによるケアモデルの構築
三菱財団福祉事業	上野 昌江	子ども虐待による死亡を予防するための保健師への研修プログラムの開発と評価
日本死の臨床研究会 2012年度研究助成	池内 香織	緩和ケアのエキスパートナースによる終末期がん患者の倦怠感に関するアセスメントとケアの実態

資料8-2-5 平成24年度企業等による共同研究一覧

契約会社名	研究代表者	研究課題名
株式会社アイン	杉本 吉恵	ナノミストヘッドスパおよびナノミストフットスパの基礎研究
シャープ株式会社	中村 裕美子	看護教育での臨地実習における学習支援用タブレット端末の開発と評価

資料8-2-6 平成24年度その他省庁・自治体による補助金一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	補助金額 (円)
国際医療研究開発事業	垣本 和宏	カンボジアにおける母子感染予防サービス	950,000

看護学部(看護学類)が独自に実施している研究助成として、療養学習支援センター研究・活動助成(資料8-2-7)、実習施設との共同研究補助金(資料8-2-8)がある。特に療養学習支援センターでの研究活動状況は、療養学習支援センター年報第9巻に記述し、公表している。

資料8-2-7 療養学習支援センター研究・活動助成一覧

区分	研究代表者	研究課題・活動名	助成額 (円)
研究助成	中村 裕美子	在宅高齢者のための認知機能低下予防教室への経年参加による変化	650,000
	木村 洋子	うつ病患者家族の心理プログラムによるうつ病者とうつ病家族の変化	140,000
	山田 加奈子	出張性教育に参加する勤務看護職の意義と活動継続の要因に関する研究	176,000
活動助成	藪下 八重	病気を管理しながら元気に生きる方を応援する「ホット&ハートの会」	190,000
	岡本 双美子	家族への看護を考える会 ーリソースナースとの取り組み	302,000
	田嶋 長子	心の健康啓蒙活動	183,000
	齋野 貴史	地域住民への感染予防対策の普及	34,000
合 計			1,675,000

資料8-2-8 実習施設との共同研究補助金一覧

研究代表者	研究課題名	助成額 (円)
藪下 八重	慢性疾患看護専門看護師による倫理的看護実践支援の試み	325,000

第9章 社会貢献と国際交流

1. 地域社会への貢献

1) 公開講座

大阪府立大学羽曳野キャンパス公開講座は、看護学部（看護学類）と総合リハビリテーション学部（学類）の合同で開催している。また羽曳野市の事業である「はびきの市民大学」と連携することで、より地域社会に密着したサービスを展開している。平成24年度は総合リハビリテーション学部（学類）が主担当であり、その概要は資料9-1-1-1の通りであった。募集人員100名（内50名は「はびきの市民大学」と同時に募集）に対し、申込者114名、受講者104名で、延べ参加者は359名であった。受講者86名からのアンケートの結果、男女比率は4:6、年代は70歳代45.3%、60歳代37.2%でほとんどが60歳以上であった。また「市の広報誌で知った」受講者が一番多く（39.5%）、受講者の69.8%が羽曳野市民であった。全体の印象として77.0%が「とてもよかった・よかった」とし、「役立つ知識が得られた」87.0%、「来年もまた参加したい」と74.4%が回答していた。

資料9-1-1-1 平成24年度 公開講座

テーマ 「快適な人生（QOL）をめざして～今から始めよう・生き生きライフ～」

第1日目：10月17日（水）13：00～14：30

《開講式》 あいさつ 看護学類長 高見沢 恵美子

《題目》 ライフストーリーから健康を考えてみよう

・講義 看護学類 准教授 中岡 亜希子

第2日目：10月24日（水）13：00～14：30

《題目》 試してみよう！ 脳の働き

・講義 総合リハビリテーション学類 作業療法学科 助教 田中 宏明

第3日目：10月31日（水）13：00～14：30

《題目》 歩きから始める介護予防

・講義 総合リハビリテーション学類 理学療法学科 准教授 樋口 由美

第4日目：11月7日（水）13：00～14：30

《題目》 脳の老化：脳を老け込ませないために

・講義 総合リハビリテーション学類 作業療法学科 准教授 大西 久男

《閉講式》 あいさつ 総合リハビリテーション学類 作業療法学科 教授 谷口 英治

府大講座は府立大学全学部の分担により平成24年度は8月30日から9月20日の日程で開催した。看護学部（看護学類）は9月20日の第2講座を担当し、担当講師は堀井理司教授、講義題名は「小児期ウイルス感染症に対する健康管理～看護学の視点から～」であった。

出前講義は「教員データベース」に出前可能項目を記載することで公表され、地域社会からのニーズに対応している。平成24年度において看護学部（看護学類）からは2名の教員が対応した。その概要は資料9-1-1-2に示した。

資料 9-1-1-2 平成 24 年度 出前講義

担当教員名	実施日	申込者	講義タイトル
簗持知恵子教授	平成 24 年 10 月 26 日	(株)庭樹園	成人期にある人の生活習慣病の予防と管理
佐保美奈子准教授	平成 25 年 1 月 10 日 2 月 7 日	大阪商業大学附属高等学校	おつきあいのマナーとおしゃれ障害の予防

2) 地域サービス：療養学習支援センター活動

療養学習支援センターは、大学院看護学研究科の附置研究所として位置付けられ、療養学習支援に関する研究・教育、実践、情報提供、学术交流を図ることを目的としている。地域貢献活動として、プロジェクト活動、闘病記文庫の充実、健康フェアの開催を行った。

プロジェクト活動では、電話や来所相談として「家族の心の相談」「手術についての悩み相談」を行っている。療養学習支援センターに来所する教室として「脳いきいき教室」「うつ病の家族教室」「こころの健康教室」を開催した。また、当事者や家族の集まりとして「肺がん患者さんのご家族のためのサロン」「ホット&ハートの会」を開催した。1回の参加人数は、プロジェクトにより数名から 40 名と差がみられるが、年間通じてのべ 500 名程度の参加があり、地域での活動が定着し、拡大してきている。

健康フェアは、杏樹祭（羽曳野キャンパス祭）時に、健康に関する身体測定（体組成、骨密度、動脈硬化度、脳年齢測定等）、体操、健康相談を内容として開催したところ、53 名の市民参加があり、地域の健康づくりに貢献することができている。

闘病記文庫は、羽曳野図書センター内に開架し、学生や市民に利用されている。新刊図書を購入し、活動の充実に努めている。

療養学習支援センターの活動に関する報告は年報として刊行し、学内関係者に配布、更に Web 上にも公開している。以上のことから、療養学習支援センターにおける地域への教育サービス活動の成果は上がっている。

3) 高大連携

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高大連携推進委員会や療養学習支援センターのプロジェクト活動によって実施されている。平成 24 年度は、高大連携推進委員会を通して、高校生が受講できる科目として看護学部（看護学類）で開講している授業科目「セクシュアリティと看護」（1 単位 15 時間）を提供した。講義日程等は資料 9-1-3 に示した。受講者は 10 名であり、受講終了後に修了証が交付された。

資料 9-1-3 「セクシュアリティと看護」の講義日程

1. 開講日時	平成24年11月27日 ～ 平成25年1月22日（火曜日 5限目 全8回） 羽曳野キャンパス L棟402号室
2. 対象	高校2年生（看護学類1年次生、看護学部2年次編入生と一緒に講義を受ける）
3. 講義内容	ヒューマンセクシュアリティについて理解を深め、人間の性、生き方を洞察しながら自己のセクシュアリティ観を育むことを目指しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマン・セクシュアリティの概念を学ぶ ・自己のセクシュアリティについて考える ・現代社会におけるセクシュアリティの問題・課題を認識できる

また、高大連携推進委員会や療養学習支援センターのプロジェクト活動の一環である「学校などにおける出張セクシュアリティ教育」を通して出張講義を行っている。平成24年度は大阪府立及びその他の市立・私立高等学校16校において総計2,552名の高校生に、看護について、デートバイオレンス予防や避妊・性感染症予防について、命の大切さ、自分探しなどをテーマに出張講義を行った。

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高校生と看護学部（看護学類）生が一緒に受講できる科目の開講や高校生を対象とした出張講義を実施しており、適切に行われている。

4) 教員の社会貢献

看護学部（看護学類）に所属する教員は、保健、医療、福祉などの分野と関連を保ち、専門看護や専門基盤についての研究・教育に携わりながら、審議会等に積極的な参画が行われている。参画する審議会等の公的団体としては、厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、地方独立行政法人大阪府立病院機構、大阪府または府下市町村、看護協会、各教員が所属する学会等である。社会貢献は「資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧」に示すとおりである。

2. 国際交流

1) マヒドン大学との学術交流

(1) マヒドン大学大学院への本学大学院生の派遣

平成20年4月に結ばれたタイ王国・マヒドン大学看護学部並びに同大学医学部看護学科との学術交流協定に基づき、大学院生の学生交換プログラムを実施した。マヒドン大学とは大学院生の受入れと派遣を隔年に実施してきており、本年度は、平成24年8月から9月に看護学研究科の学生2名がマヒドン大学において2週間の研修を行った（資料 9-2-1-1）。学生はバンコク市内の保健医療施設の見学や学生実習への参加、研究検討会などを通じて、国際的な保健医療課題を学ぶだけでなく日本の医療を振り返る機会となった。また、マヒドン大学生との交流を通じてタイの文化への理解を深めた。本プログラムでマヒドン大学を訪れた大学院生の研修報告会を11月に実施した。報告会は、マヒドン大学教員であるタッサネー・プラソプキッチクン准教授が本学に招へいされていた期間に実施し、参加していただき、報告会後にはコメントをいただいた。

来年度はマヒドン大学との5年間の学術交流協定が終了する年度になるため、新たに協定を更新する計画で、協定更新後はマヒドン大学大学院より学生4名の2週間の受入れを予定している。



地域看護学の実習



手術室での実習

資料9-2-1-1 平成24年度マヒドン大学大学院への本学大学院生研修概要

日	曜日	活動
8月26日	日	関西空港発 バンコク着
8月27日	月	歓迎式典 ブリーフィング 看護学部内案内
8月28日	火	タイ看護助産師協会訪問 タイ保健医療についての講義
8月29日	水	Bangrak 性行為感染症センター訪問 タイ赤十字 エイズクリニック シリラート病院救急棟・手術棟など見学
8月30日	木	ヘルスプロモーション実習 シリラート病院救急棟・手術棟など見学
8月31日	金	シリラート医学博物館 ワートポーにて伝統医療見学
9月1日	土	文化交流
9月2日	日	文化交流
9月3日	月	講義参加 研究討議
9月4日	火	ヘルスプロモーション実習 シリラート病院救急棟・手術棟など見学
9月5日	水	ヘルスプロモーション実習 シリラート病院救急棟・手術棟など見学
9月6日	木	ヘルスプロモーション実習 シリラート病院救急棟・手術棟など見学
9月7日	金	グループ発表・最終振り返り 送別会昼食
9月8日	土	文化交流
9月9日	日	タイ発 関西空港着

(2) マヒドン大学より教員の招へい

平成24年10月にタイ王国・マヒドン大学シリラート校看護学部よりタッサナー・プラソプキッチクン准教授が看護学研究科に派遣された。本事業は、看護学部国際交流委員会が中心となって看護学研究科として全学の外国人招へい事業の一つに同教員を招いたものである。3週間の滞在中、本学の看護学部および大学院看護学研究科の学生に対して、授業や演習の中で英語のみで講義を行い、タイの保健医療事情や研究方法論などにつ

いて教鞭を取り、学生にとって貴重な体験となった（資料9-2-1-2）。また、講義や講演のみならず地域の保健施設などにも学生らと訪問した。



資料9-2-1-2 マヒドン大学 教員招へい（タッサネー准教授）授業概要等

	科目名等	日時	内 容
看護学 研究科 の 授 業	臨床遺伝学	10月30日	講義「小児発達の調査」 小児の発達段階を調査する際のツールやその方法について講義を行った。特に母親などの保護者に対する尋ね方など、心理学的な見地からも意見が伺えた。また、ツールについても国際的に最新と言われるツールの弱点なども説明があった。（出席学生数：2名）
	地域看護学	11月10日	講義「タイの小児保健と対策」 羽曳野市内の子育てサロンなどを訪問後、地域看護に関する考え方や、タイの小児保健状況、更には国際保健学的な見地から世界の保健課題について、様々な統計を示しながら講義を行った。（出席学生数：11名）
	家族看護学	11月12日	講義「小児ケアと家族看護」 小児ケアに関しての行動変容について、海外の心理学的見地からの講義が行われた。また、個々の学生の研究内容についても簡単な討議が行われた。（出席学生数：5名）
	急性看護学	11月14日	講義「システマティックレビュー」 研究手法の講義であった。特に、海外文献についてのシステマティックレビューの方法について、文献の検索方法から分析まで、基礎的な方法論が説明された。（出席学生数：8名）

看護学部の授業	チーム医療論	11月8日	講義「タイの公衆衛生」 一般的な保健システム全般や保健ケアシステムについての講義があり、その後タイの公衆衛生事情全般について説明された。また、マヒドン大学の看護学生の実習などについても説明があった。写真が多く、ゆっくりと話をしていたため、分かりやすい内容となった。 (出席学生数：130名)
その他	ディスカッション	11月15日	勉強会「タイにおける保健事情」 国際保健サークルの活動として講義をいただいた。タイの一般的な保健システムや小児保健の課題についての講義があった。また、タイの看護師育成制度についても説明があった。日本の状況を尋ねながら学生には日本との比較をしてもらい、さらには学生に英語で話をってもらう機会を多く設けてもらった。(出席学生数：40名)
	ディスカッション	11月13日	エクステンジプログラムの報告会 マヒドン大学との大学院生エクステンジプログラムでマヒドン大学を訪れた大学院生の報告会に参加していただいた。学生の報告は日本語だったがスライドはすべて英語で準備された。報告会后に招へい教員よりコメントをいただいた。

2) 国際看護セミナー開催

第17回国際看護セミナーを開催した(資料9-2-2)。看護の国際的な活動に長期に関わるための多彩なキャリアパスや、そのために必要な視点やスキル、課題などを学び、参加者自身のキャリアパスについて考察する機会を提供することを目的として、「看護職の国際協力とキャリアパス」と題し、講演およびパネルディスカッションを開催した。3名の講師より20分ずつ国際的なキャリア体験を語っていただき、看護職の様々な国際的なキャリアのモデルとして理解を深めることができた。特に、米国の看護大学の経験、青年海外協力隊の経験、NGOの活動の経験、海外で活躍する日本人の健康管理の経験等、とても幅広い経験談の中でのキャリアパスについて興味を持った参加者が多かった。セミナー後も参加者から積極的に個別質問等がなされ、盛会となった。

資料9-2-2 平成24年度国際看護セミナー

平成24年度 第17回国際看護セミナー 平成25年2月4日	講演者： 広島文化学園大学教授 岩本 由美氏 名城病院助産師・琉球大学大学院保健学研究科修士課程 高橋 紘美氏 JICA 国際協力人材部健康管理課海外班看護師 笹山 桐子氏 演 題： 看護職の国際協力とキャリアパス
-------------------------------------	--

3) 研究者の派遣

延べ15名の研究者が海外に派遣された(資料9-2-3)。

資料9-2-3 平成24年度国際交流研究者の派遣

氏名	旅行日(発)	旅行日(着)	派遣国	用務詳細
細田 泰子	2012/4/19	2012/4/23	アメリカ合衆国	学会出席
松本 智晴	2012/6/23	2012/6/28	カナダ	学会出席
井上 奈々	2012/6/23	2012/6/28	カナダ	学会出席
町浦 美智子	2012/7/2	2012/7/10	オランダ	資料収集
山田 加奈子	2012/7/2	2012/7/10	オランダ	資料収集
垣本 和宏	2012/8/28	2012/9/1	カンボジア王国	研究打合せ
上野 昌江	2012/9/8	2012/9/16	アメリカ合衆国	資料収集
中村 裕美子	2012/9/19	2012/9/24	アメリカ合衆国	学会出席
深山 華織	2012/9/19	2012/9/24	アメリカ合衆国	学会出席
木村 洋子	2012/10/2	2012/10/7	オーストラリア連邦	学会出席
香川 由美子	2013/1/31	2013/2/10	アメリカ合衆国	施設視察
中村 裕美子	2013/2/9	2013/2/15	スペイン	国際会議
中山 美由紀	2013/2/19	2013/2/23	タイ王国	学会出席
徳岡 良恵	2013/3/6	2013/3/11	アメリカ合衆国	学会出席
香川 由美子	2013/3/6	2013/3/11	アメリカ合衆国	学会出席

資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧

1) 著書

氏名	出版年月	分担題名	著者名	書名	出版社名	掲載頁
垣本 和宏	201208	カンボジアにあった医療の原点とは	垣本和宏	月刊 新医療	㈱エム・イー振興協会	53-61
榎木野 裕美	201207	看護実践におけるケアモデルのあり方 / 2~5歳の子どもへの親に対するケアモデル	松森直美, 蝦名美智子, 榎木野裕美, 高橋清子 他	小児看護ケアモデル実践集—看護が行う子ども目線のプレパレーション—	へるす出版	15-17 69-79
上野 昌江	201212	第3章 ニーズの指標 / 第10章 CAREプログラムの評価 / 第11章 まとめ 他	上野昌江, 山田和子	(翻訳) 保健師・助産師による子ども虐待予防CAREプログラム	明石書店	56-83 187-212 219-226 243-255
	201301	小児看護と法律・施策	中野綾美, 上野昌江, 他	ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護	メディカ出版	34-55
田中 京子	201207	脱毛が心配・つらい~脱毛によるボディイメージの変容に寄り添うケア~	新井敏子, 横井麻珠美, 田中京子 他	がん看護—患者・家族に寄り添うがん化学療法看護	南江堂	549-552
堀井 理司	201209	性器クラミジア感染症患者の看護 / 帯状疱疹患者の看護	井上智子, 佐藤千史, 堀井理司 他	病期・病態・重症度から見た疾患別看護過程+病態関連図	医学書院	1398-1406 1648-1657
岡本 双美子	201204	ホスピスケアとは何か—看護と社会福祉—	岡田忠克, 岡本双美子, 他	図表で読み解く社会福祉入門	ミネルヴァ書房	113-121
佐保 美奈子	201303	セクシュアリティと看護	木村涼子, 伊田久美子, 熊安喜美江, 佐保美奈子 他	よくわかるジェンダー・スタディーズ—人文社会科学から自然科学まで	ミネルヴァ書房	176-177
高橋 清子	201207	2~5歳の子どもに対するケアモデル	松森直美, 蝦名美智子, 榎木野裕美, 高橋清子 他	小児看護ケアモデル実践集—看護が行う子ども目線のプレパレーション—	へるす出版	56-68
木村 洋子	201206	うつ病の家族心理教育	木村洋子, 長谷川雅美, 桑名行雄, 上平悦子, 森川知子, 森田公美子	精神科	科学評論社	604-609
佐藤 淑子	201208	多剤耐性菌感染症患者の看護 / 疥癬患者の看護・白癬患者の看護	井上智子, 佐藤千史, 佐藤淑子, 齋野貴史 他	病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程(第2版)	医学書院	1342-1351 1663-1672 1673-1679
中岡 亜希子	201207	海外投稿論文(2)	小笠原知枝, 松木光子, 中岡亜希子, 細田泰子 他	これからの看護研究[第3版]—基礎と応用—	スーヴェルヒロカワ	359-374
	201303	身体の清潔 CASE2 バイタルサインの測定 / 下肢に冷感を訴える患者の足浴	岡崎寿美子, 山本直美, 久米弥寿子, 中岡亜希子 他	カラー写真で学ぶ基礎看護技術1	医歯薬出版	23-35 56-62
細田 泰子	201207	教育評価研究	小笠原知枝, 松木光子, 中岡亜希子, 細田泰子 他	これからの看護研究[第3版]—基礎と応用—	スーヴェルヒロカワ	419-426
齋野 貴史	201208	伝染性単核球症患者の看護	井上智子, 佐藤千史, 佐藤淑子, 齋野貴史 他	病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程(第2版)	医学書院	1385-1392

2) 学会誌・発表論文

氏名	出版年月	著書または発表論文の題名・発表テーマ	著者名	掲載誌名	主催団体名	巻号	掲載頁
垣本 和宏	201206	インドネシア共和国の保健医療の現状	江上由里子, 安川孝志, 廣田光恵, 村越英治郎, 垣本和宏	国際保健医療	日本国際医療学会	27 2	59-70
	201212	Adherence to antiretroviral therapy (ART) during the early months of treatment in rural Zambia: influence of demographic characteristics and social surroundings of patients.	Sasaki Y, Kakimoto K, Dube C, Sikazwe I, Moyo C, Syakantu G, Komada K, Miyano S, Ishikawa N, Kita K, Kai I	Ann Clin Microbiol Antimicrob	Bio Med Central	11	34
	201301	False Beliefs About ART Effectiveness, Side Effects and the Consequences of Non-retention and Non-adherence Among ART Patients in Livingstone, Zambia	Nozaki I, Kuriyama M, Manyepa P, Zyambo MK, Kakimoto K, Barnighausen T	AIDS Behav	Springer	17 1	122-126
中山 美由紀	201211	リプロダクティブヘルスを目指した専門看護領域とコロナレション: 家族看護の立場から	中山美由紀	日本生殖看護学会誌	日本生殖看護学会	19 1	61-62
	201303	新生児集中治療室に子どもが入試多体験をもつ母親の育児に対する思い—NICU入院から退院後1か月まで—	藤野百合, 中山美由紀	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19 1	11-20
榎木野 裕美	201207	小児看護学実習初期における看護学生と子どもとの関係に影響する要因	小代仁美, 榎木野裕美	日本小児看護学会誌	日本小児看護学会	21 3	14-21
	201211	学童前期の小児がんの子どもに闘病仲間の死を尋ねられた看護士の対応	吉田佳代, 山崎祥子, 榎木野裕美	日本小児看護学会誌	日本小児看護学会	21 3	29-36
	201303	病棟看護師が捉える点滴・採血を受ける幼児後期の子どもの自己調整機能能力	吉田美幸, 榎木野裕美	日本小児看護学会誌	日本小児看護学会	21 2	1-8
	201303	すべての看護職が使える子ども虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果測定 第1報	飯田加寿子, 大平肇子, 鈴木敦子, 榎木野裕美	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	6 1	9-17
	201303	すべての看護職が使える子ども虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果測定 第2報	大平肇子, 飯田加寿子, 鈴木敦子, 榎木野裕美	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	6 1	19-28
	201301	月経前症候群の症状を有する女性に対する呼吸法のリラクゼーション効果	大平肇子, 町浦美智子, 斎藤真, 村本順子	母性衛生	日本母性衛生学会	53 4	497-504
町浦 美智子	201301	妊娠前の20~30歳代就労女性の食習慣、やせに関する知識、価値観の実態—やせ体型群と普通体型群の比較—	美甘祥子, 町浦美智子, 佐保美奈子	母性衛生	日本母性衛生学会	53 4	522-529
	201303	妊婦の全席シートベルト着用意識づけを目指したWeb動画教材に対する妊婦による評価	中嶋有加里, 山田加奈子, 椿知恵, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19 1	93-101
	201303	欧米の医療分野における乳幼児用チャイルドシート着用教育とその効果に関する文献検討	椿知恵, 中嶋有加里, 山田加奈子, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19 1	81-86
	201303	妊婦のシートベルト着用に関する文献検討(2006年~2011年)	山田加奈子, 中嶋有加里, 椿知恵, 小山恵実, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19 1	87-92
	201303	オランダにおける助産師活動の視察報告	山田加奈子, 町浦美智子, 中嶋有加里, 椿知恵	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19 1	103-109
	201210	全ての看護職が使える子ども虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果判定 第1報 A県内における子ども虐待に対する看護職の認識と概要	飯田加寿子, 大平肇子, 鈴木敦子, 牛之濱久代, 上野昌江, 他	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	5 1	9-17
	201303	自閉症スペクトラム障害の子どもと家族のためのペアレント・プログラムの実践	柳川敏彦, 平尾恭子, 加藤則子, 上野昌江, 山田和子, 北野尚美, 他	子どもの虐待とネグレクト	日本子ども虐待防止学会	14 2	135-152
上野 昌江	201303	全ての看護職が使える子ども虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果判定 第2報 A県の看護職における子ども虐待のケア経験の違いによる虐待への姿勢と取り組みの現状	大平肇子, 飯田加寿子, 鈴木敦子, 牛之濱久代, 上野昌江, 他	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	5 1	19-28
	201303	乳がん検診・自己触診法の意識を高める啓発活動 年齢差に着目して	大川聡子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江, 他	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19 1	1-10
	201303	サロン参加者の健康状態から見た大学と地域住民の協働による健康支援活動課題の検討	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19 1	53-61
	201303	乳幼児期に死亡した子どもの事例記録の検討	上野昌江, 山田和子, 小林美智子	平成24年度わが国におけるチャイルド・デス・レビューに関する研究分担研究報告書	厚生労働科学研究費補助金事業		178-185
	201303	職場ストレス管理法の検討	垂水公男, 大森昌夫, 塚本利幸, 清水聡, 黒田祐二, 田嶋長子, 川端啓之, 真野元四郎	福井県立大学論集	福井県立大学	39	133-144
	田嶋 長子	201303	職場ストレス管理法の検討	垂水公男, 大森昌夫, 塚本利幸, 清水聡, 黒田祐二, 田嶋長子, 川端啓之, 真野元四郎	福井県立大学論集	福井県立大学	39

長畑 多代	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育プログラムの実施	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子	日本老年看護学会誌「老年看護学」	日本老年看護学会	17	2	58-64
	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育プログラムにより見出された課題と取り組み	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 山地佳代	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	31-40
	201303	特別養護老人ホームにおいてケアを協働することについての看護・介護職の認識: 認知症高齢者への食事ケアに焦点をあてて	笹谷真由美, 松田千登勢, 長畑多代	日本老年看護学会誌「老年看護学」	日本老年看護学会	17	2	38-46
中村 裕美子	201308	高齢者のための認知機能低下予防教室「脳いきいき教室」への経年参加の評価	中村裕美子, 深山華織, 原田清美, 眞壁美香	療養学習支援センター年報	大阪府立大学大学院看護学研究科	9		21-30
高見沢 恵美子	201210	クリティカルケア看護で使用されているevidence-based practice(EBP)プロセス	高見沢恵美子	日本集中治療医学会雑誌	日本集中治療医学会	19	4	595-602
	201303	冠動脈バイパス術後患者が必要と考える情報と情報獲得に関わる看護援助	石田宜子, 稲垣美紀, 高見沢恵美子, 正井崇史, 古谷緑, 松本智晴, 井上奈々, 石澤美保子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	73-80
田中 京子	201303	初めて化学療法を受ける就労がん患者の役割遂行上の困難と対処	田中登美, 田中京子	日本がん看護学会誌	日本がん看護学会	26	2	62-75
	201303	がん看護専門看護師が実践を行う際に必要な能力ーがん看護専門看護師教育家庭担当教員とがん専門看護師の立場からー	林田裕美, 田中京子, 吉田智美, 山口亜希子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	41-51
旗持 知恵子	201209	2型糖尿病に罹患した女性就労者の食事の自己管理行動とその影響要因の関連	桑木由美子, 旗持知恵子	日本糖尿病教育・看護学会誌	日本糖尿病教育・看護学会	16	2	117-124
	201212	インターフェロン療法を提案されたC型肝炎患者の意思決定とその要因	片山泰祐, 旗持知恵子	日本看護研究学会雑誌	日本看護研究学会	35	5	57-66
杉本 吉恵	201301	トランスファーを適切に行うために知っておきたい基礎知識	杉本吉恵, 外村昌子	コミュニティケア	日本看護協会出版会	14	13	24-26
星 和美	2012	看護系大学生の社会人基礎力と看護実践力および日常生活経験の関係	北島洋子, 細田泰子, 星和美	日本看護学教育学会誌	日本看護学教育学会	22	1	1-12
	201207	Evaluating the content of the Nursing Skills Learning Strategies Scale	三吉友美子, 細田泰子, 星和美	医学と生物学	医学と生物学	156	8	602-606
	201208	Development of the Nursing Skills Learning Strategies Scale: A preliminary study	三吉友美子, 細田泰子, 星和美	医学と生物学	医学と生物学	156	9	690-695
	201211	病院看護部における潜在看護師の復職研修と受け入れに関する全国調査	神戸美輪子, 細田泰子, 星和美	畿央大学紀要	畿央大学	9	1	1-12
	201303	本物の共著者は誰だ?ー著者資格(authorship)の倫理ー	勝原裕美子, 前田樹海, 小西恵美子, ウィリアムソン彰子, 星和美, 田中高政	日本看護倫理学会誌	日本看護倫理学会	5	1	47-51
佐保 美奈子	201210	エイズ看護及び教育に対する看護管理者のニーズ	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 飯沼恵子, 澤口智登里, 熊谷祐子, 下司有加	日本看護学会論文集	日本看護学会	42	1	268-271
	201210	エイズ看護及び教育に対する看護職者のニーズ	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 飯沼恵子, 澤口智登里, 熊谷祐子, 下司有加	日本看護学会論文集	日本看護学会	42	1	272-275
	2013	地域HIV看護の質の向上に関する研究	佐保美奈子	平成24年度研究報告書	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業			99-113
	2013	HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究	白阪琢磨, 佐保美奈子, 他	平成24年度エイズ対策研究事業研究成果抄録集	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業			118-121
	201301	妊娠前の20~30歳代就労女性の食習慣, やせに関する知識, 価値観の実態ーよせ体型群と普通体型群の比較ー	美甘祥子, 町浦美智子, 佐保美奈子	母性衛生	日本母性衛生学会	53	4	522-529
	201303	養育期にある母親及び父親が認知する健康な家族機能を支える要因	古山美穂, 佐保美奈子, 西頭知子, 丹治恵実, 才村純	日本子ども家庭福祉学	日本子ども家庭福祉学会	12		45-55
中嶋 有加里	201303	欧米の医療分野における乳幼児用チャイルドシート着用教育とその効果に関する文献検討	椿知恵, 中嶋有加里, 山田加奈子, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	81-86
	201303	妊婦のシートベルト着用に関する文献検討(2006年~2011年)	山田加奈子, 中嶋有加里, 椿知恵, 小山恵実, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	87-92
	201303	妊婦の全席シートベルト着用の意識づけを目指したWeb動画教材に対する妊婦による評価	中嶋有加里, 山田加奈子, 椿知恵, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	93-101
	201303	オランダにおける助産師活動の視察報告	山田加奈子, 町浦美智子, 中嶋有加里, 椿知恵	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	103-109
和泉 京子	201303	Relationship between Cognition and Activities of Daily Living in Elderly Women with Mild Cognitive Impairment in Japan	Miwa YAMAMOTO, Kyoiko IZUMI, Yoko ASO,	International Journal of Clinical Medicine	Scientific Research	3		251-253
	201303	乳がん検診・自己触診法の意識を高める啓発活動・年齢差に着目して-	大川聡子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江, 他	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	1-10
	201303	サロン参加者の健康状態からみた大学と地域住民の協働による健康支援活動課題の検討	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	53-61
松田 千登勢	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育プログラムの実施	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子	日本老年看護学会誌	日本老年看護学会	17	2	58-64
	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育プログラムにより見出された課題と取り組み	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 山地佳代	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	31-40
	201303	特別養護老人ホームにおいてケアを協働することについての看護・介護職の認識: 認知症高齢者への食事ケアに焦点をあてて	笹谷真由美, 松田千登勢, 長畑多代	日本老年看護学会誌「老年看護学」	日本老年看護学会	17	2	38-46
石田 宜子	201303	冠動脈バイパス術後患者が必要と考える情報と情報獲得に関わる看護援助	石田宜子, 稲垣美紀, 高見沢恵美子, 正井崇史, 古谷緑, 松本智晴, 井上奈々, 石澤美保子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	73-80
林田 裕美	201303	がん看護専門看護師が実践を行う際に必要な能力ーがん看護専門看護師教育家庭担当教員とがん専門看護師の立場からー	林田裕美, 田中京子, 吉田智美, 山口亜希子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	41-51
藪下 八重	201209	看護基礎教育における高性能シミュレータを用いた心肺蘇生法演習の学びと課題	堀理江, 藪下八重, 廣坂恵, 藤原史博	ヒューマンケア研究学会誌	ヒューマンケア研究学会	4	1	1-8
中岡 亜希子	201210	レビューをクリティークする	中岡亜希子, 山川みやえ, 内海桃絵, 矢山壮, 九津見雅美, 牧本清子	インターナショナルナーシングレビュー	日本看護協会出版会	35	5	90-99
	201303	パーキンソン病における病いについての他者への「言いづらさ」	中岡亜希子, 黒江ゆり子, 田中結華	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	63-72
細田 泰子	201211	病院看護部における潜在看護師の復職研修と受け入れに関する全国調査	神戸美輪子, 細田泰子, 星和美	畿央大学紀要	畿央大学	9	1	1-12
	2012	看護系大学生の社会人基礎力と看護実践力および日常生活経験の関係	北島洋子, 細田泰子, 星和美	日本看護学教育学会誌	日本看護学教育学会	22	1	1-12
	201207	Evaluating the content validity of the Nursing Skills Learning Strategies Scale	Yumiko Miyoshi, Yasuko Hosoda, Kazumi Hoshi	医学と生物学	財団法人緒方医学化学研究所	156	8	602-606
	201208	Development of the Nursing Skills Learning Strategies Scale: A Preliminary Study	Yumiko Miyoshi, Yasuko Hosoda, Kazumi Hoshi	医学と生物学	財団法人緒方医学化学研究所	156	9	690-695
	201303	米国における看護学教育のインストラクショナルデザインに関するフィールドスタディ	細田泰子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	111-119
古山 美穂	201210	エイズ看護及び教育に対する看護管理者のニーズ	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 飯沼恵子, 澤口智登里, 熊谷祐子, 下司有加	日本看護学会論文集	日本看護学会	42	1	268-271
	201210	エイズ看護及び教育に対する看護職者のニーズ	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 飯沼恵子, 澤口智登里, 熊谷祐子, 下司有加	日本看護学会論文集	日本看護学会	42	1	272-275

	201303	養育期にある母親及び父親が認知する健康な家族機能を支える要因	古山美穂, 佐保美奈子, 西頭知子, 丹治恵実, 才村純	日本子ども家庭福祉学	日本子ども家庭福祉学会	12		45-55
大川 聡子	201212	10代の母という生き方①	大川聡子	対人援助学マガジン	対人援助学会	1	11	205-210
	201303	乳がん検診・自己触診法の意識を高める啓発活動一年齢差に着目して	大川聡子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	53-61
	201303	サロン参加者の健康状態から見た大学と地域住民の協働による健康支援活動課題の検討	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	53-61
	201303	10代の母という生き方②	大川聡子	対人援助学マガジン	対人援助学会	1	12	221-232
山内 加絵	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育とその効果に関する文献検討	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 山地佳代	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	31-40
	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育プログラムの実施	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子	日本老年看護学会誌「老年看護学」	日本老年看護学会	17	2	58-64
樫 知恵	201303	欧米の医療分野における乳幼児用チャイルドシート着用教育とその効果に関する文献検討	樫知恵, 中嶋有加里, 山田加奈子, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	81-86
	201303	妊婦のシートベルト着用に関する文献検討(2006年~2011年)	山田加奈子, 中嶋有加里, 樫知恵, 小山恵実, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	87-92
	201303	妊婦の全席シートベルト着用の意識づけを目指したWeb動画教材に対する妊婦による評価	中嶋有加里, 山田加奈子, 樫知恵, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	93-101
	201303	オランダにおける助産師活動の視察報告	山田加奈子, 町浦美智子, 中嶋有加里, 樫知恵	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	103-109
山田 加奈子	201303	欧米の医療分野における乳幼児用チャイルドシート着用教育とその効果に関する文献検討	樫知恵, 中嶋有加里, 山田加奈子, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	81-86
	201303	妊婦のシートベルト着用に関する文献検討(2006年~2011年)	山田加奈子, 中嶋有加里, 樫知恵, 小山恵実, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	87-92
	201303	妊婦の全席シートベルト着用の意識づけを目指したWeb動画教材に対する妊婦による評価	中嶋有加里, 山田加奈子, 樫知恵, 町浦美智子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	93-101
	201303	オランダにおける助産師活動の視察報告	山田加奈子, 町浦美智子, 中嶋有加里, 樫知恵	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	103-109
江口 恭子	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育プログラムにより見出された課題と取り組み	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 山地佳代	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	31-40
	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育プログラムの実施	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子	日本老年看護学会誌「老年看護学」	日本老年看護学会	17	2	58-64
	201303	認知症カフェのあり方と運営に関する研究	羽山和生, 鈴木和代, 高見国生, 江口恭子, 真下勝行, 藤田登志子, 武地一, 水流涼子, 橋本武也, 牧野史子	認知症カフェのあり方と運営に関する調査研究事業報告書	認知症の人と家族の会			9-20
日下部 祥子	201303	精神科新卒看護師が体験するジレンマとそれへの対処	日下部祥子, 桑名行雄	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	21-29
根来 佐由美	201301	地域女性高齢者の皮膚の乾燥状況と乾燥に関連する生活習慣の実態	根来佐由美, 葉山有香, 井上智子	日本健康医学会誌	日本健康医学会	4	21	237-243
	201303	乳がん検診・自己触診法の意識を高める啓発活動一年齢差に着目して	大川聡子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江, 他	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	1-10
	201303	サロン参加者の健康状態から見た大学と地域住民の協働による健康支援活動課題の検討	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	53-61
深山 華織	201208	高齢者のための認知機能低下予防教室「脳いきいき教室」への経年参加の評価	中村裕美子, 深山華織, 原田清美, 眞壁美香	療養学習支援センター年報	大阪府立大学大学院看護学研究科	9		21-30
山地 佳代	201204	女性からみたパートナーとのジェンダー認知の差異とコンドームネゴシエーションの関連	伊藤美栄, 上垣まどか, 遠藤弘江, 大橋和子, 鈴木希衣子, 菅根真由美, 山地佳代	母性衛生	日本母性衛生学会	53	1	134-141
	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育プログラムにより見出された課題と取り組み	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 山地佳代	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	31-40
	201303	特別養護老人ホームの看護職を対象とした看取りケア教育プログラムの実施	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子	日本老年看護学会誌「老年看護学」	日本老年看護学会	17	2	58-64
井上 奈々	201303	冠状動脈バイパス術後患者が必要と考える情報と情報獲得に関わる看護援助	石田宣子, 稲垣美紀, 高見沢恵美子, 正井崇史, 古谷緑, 松本智晴, 井上奈々, 石澤美保子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	19	1	73-80
松本 智晴	201303	冠状動脈バイパス術後患者が必要と考える情報と情報獲得に関わる看護援助	石田宣子, 稲垣美紀, 高見沢恵美子, 正井崇史, 古谷緑, 松本智晴, 井上奈々, 石澤美保子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部			152-155

3) 学術講演・学会発表

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
垣本 和宏	201211	カンボジアにおける抗HIV薬療法を受けている女性の家族計画行動とその関連要因	第27回日本国際保健医療学会学術集会	中家奈緒美, 野崎威功真, 山口文月, 佐々木由理, 垣本和宏
	201211	女性の避妊行動に関連する要因の変化: 2005年度と2010年度のカンボジア人口保健調査(DHS)より	第27回日本国際保健医療学会学術集会	山口文月, 野崎威功真, 中家奈緒美, 佐々木由理, Sovanna Tuon, 小山田浩子, 垣本和宏
	201211	カンボジア人口保健調査(DHS)を用いた熟練助産師(SBA)による分娩に関連する要因の検討	第27回日本国際保健医療学会学術集会	安丸英理子, 垣本和宏, 野崎威功真
	201211	Female Genital Mutilationの近年の動向について人口保健統計を用いた分析	第27回日本国際保健医療学会学術集会	田中一江, 西谷純, 垣本和宏
	201211	カンボジア人口保健調査(DHS)を用いた配偶者間暴力(DV)の容認意識と避妊行動の関連	第27回日本国際保健医療学会学術集会	福吉美里, 垣本和宏, 野崎威功真
	201211	インドネシア共和国保健分野への日本の支援と今後の展望	第27回日本国際保健医療学会学術集会	江上由里子, 垣本和宏
	201211	サハラ以南アフリカにおけるエイズ・結核研究ネットワーク構築の試み	第27回日本国際保健医療学会学術集会	服部俊夫, 鈴木定彦, 山岡昇司, 井戸栄治, 一瀬休生, 仲宗根正, 久保亨, 臼澤基紀, 垣本和宏, 福本学, 児玉栄一
高辻 功一	201209	ナノミスシャワーによる洗髪と洗浄剤を用いた洗髪との洗浄効果の比較	第11回日本看護技術学会学術集会	横山友子, 杉本吉恵, 田中結華, 中岡亜希子, 高辻功一
	201302	Washing Effects of Nano-mist Shower	16th EAFONS	Tomoko YOKOYAMA, Yoshie SUGIMOTO, Akiko NAKAOKA, Koichi TAKATSUJI, Yuka TANAKA
中山 美由紀	201209	母親の育児不安と父親の育児・家事参加頻度とその満足度との関連について	第19回日本家族看護学会学術集会	黒崎真由, 岡本双美子, 中山美由紀
	201209	一般病棟における終末期がん患者の在宅療養移行に向けての家族支援の阻害要因と促進要因	第19回日本家族看護学会学術集会	久保田千景, 中山美由紀, 岡本双美子
	201211	一般病棟における終末期がん患者の在宅療養移行に向けての家族支援に対する看護師の実践と認識	第32回日本看護科学学会学術集会	久保田千景, 中山美由紀, 岡本双美子
	201211	NICUに子どもが入院した母親の育児に対する自己効力感を高める要因の検討—NICU入院から退院後1か月ま	第53回日本母性衛生学会	藤野百合, 中山美由紀

	201302	Factors increasing parental self-efficacy in mothers with infants hospitalized in NICUs	The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars	Yuri Fujino, <u>Miyuki Nakayama</u>
	201302	The perceptions of home-visit nurses regarding difficulties caring for infants trancaring from NICUs	The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars	Atsuko Inoue, <u>Miyuki Nakayama</u> , Yuri Fujino
	201303	子どもの誕生と家族の発達第7報-生後5歳までの母親の家事・育児負担の変化とその関連要因	日本発達心理学会第24回大会	中山美由紀, 福丸由佳, 小泉智恵, 無藤隆
	201303	子どもの誕生と家族の発達第7報-生後5歳までの仕事と家庭の両立に対する意識の変化の父母比較一	日本発達心理学会第24回大会	福丸由佳, 中山美由紀, 小泉智恵, 無藤隆
榎木野 裕美	201207	エキスパートパネル; プレパレーション	第22回日本小児看護学会	蝦名美智子, 榎木野裕美, 小野智美, 井伊久美子, 岡崎裕子, 長谷川由香, 栗林祐季
	201207	学童前期の小児がんの子どもに闘病中間の死を尋ねられた看護師の対応	第22回日本小児看護学会	吉田佳代, 山崎祥子, 榎木野裕美
	201207	看護師が「この子ならできる」とアセスメントしてプレパレーションを実施している2歳児のすがた	第22回日本小児看護学会	小笠原真織, 榎木野裕美
町浦 美智子	201206	芳香浴による黄体期の精神的症状の変化	第14回日本母性看護学会学術集会	植村桃恵, 町浦美智子
	201206	第2子出産後3か月間の母親の感情の変化	第14回日本母性看護学会学術集会	谷郷智美, 町浦美智子
	201206	月経前症候群の症状を有する女性における黄体期の自律神経活動の様相	日本人間工学会第53回大会	大平肇子, 町浦美智子, 斎藤真, 村本淳子
	201207	Characteritics of menstrual symptoms in Japanese women	The 9th International Conference with the Grobal Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery	Motoko Ohira, <u>Michiko Machiura</u>
	201211	第2子出産後3か月間に母親が2児とのかかわりを会得する経験	第53回日本母性衛生学会総会・学術集会	谷郷智美, 町浦美智子, 佐保美奈子
	201212	妊婦の安全な運転姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	第51回大阪母性衛生学会学術集会	中嶋有加里, 山田加奈子, 椿知恵, 町浦美智子
	201212	在日韓国人・朝鮮人若者の性に関する調査	第51回大阪母性衛生学会学術集会	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子
上野 昌江	201207	新生児訪問時の母親のEPDS及び赤ちゃんへの気持ちと乳幼児健診時の育児不安との関連	第15回日本地域看護学会学術集会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201207	地域で開催されるサロン参加者の健康状態の特徴 参加の継続に着目して	第15回日本地域看護学会学術集会	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江
	201210	中小規模事業所における勤労者の精神的健康状態とその関連要因	第71回日本公衆衛生学会総会	足立安正, 上野昌江, 和泉京子
	201210	A市における乳児早期家庭訪問の実態	第71回日本公衆衛生学会総会	湯原寛子, 蕪谷裕美, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201210	A市における乳児早期家庭訪問から支援が必要な事例の検討	第71回日本公衆衛生学会総会	蕪谷裕美, 湯原寛子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201210	A市における乳児早期家庭訪問から支援が必要な事例の見極め指標の検討	第71回日本公衆衛生学会総会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 湯原寛子, 蕪谷裕美
	201210	虐待発生予防に焦点をあてた産科医療機関と保健機関の支援の実態調査(第1報)	第71回日本公衆衛生学会総会	大川聡子, 能仁悦子, 上野昌江, 西本夕紀
	201210	虐待発生予防に焦点をあてた産科医療機関と保健機関の支援の実態調査(第2報)	第71回日本公衆衛生学会総会	能仁悦子, 大川聡子, 上野昌江, 西本夕紀
	201212	子ども虐待死を予防する保健師の活動	第18回日本こども虐待防止学会学術集会	上野昌江, 山田和子, 西岡律
田嶋 長子	201207	自殺念慮を打ち明ける統合失調症者に対する援助の実態	第43回日本看護学会-精神看護-	齋藤和彦, 黒田道明, 山口達也, 田嶋長子
	201207	精神科隔離室入室による行動制限下での患者体験	第43回日本看護学会-精神看護-	白崎則雄, 山崎郁子, 山口達也, 田嶋長子
	201210	Family Psycho-Education in Major Depressive Disorder	ACMHN 38th International Menatl Health Nursing Conference	Yoko Kimura, Masami Hasegawa, <u>Naragko Taiima</u>
長畑 多代	201207	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムの評価	日本老年看護学会第17回学術集会	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内佳代, 江口恭子
	201207	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムより見出された課題	日本老年看護学会第17回学術集会	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 山地佳代
	201207	特別養護老人ホームで働く看護・介護職による協働の必要性に対する認識-認知症高齢者への食事ケアに焦点をあてて-	日本老年看護学会第17回学術集会	笹谷真由美, 松田千登勢, 長畑多代
	201302	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りの現状と課題	第19回日本死の臨床研究会近畿支部大会	長畑多代
中村 裕美子	201205	医療系分野のeラーニングの実践を活性化する取り組み	教育システム情報学会研究報告	真嶋由貴恵, 中村裕美子, 丹羽雅之, 柴田善幸
	201206	地域看護学におけるブレンド型eラーニングを活用した教育を問う	第15回日本地域看護学会学術集会	中谷久恵, 中村裕美子
	201207	Evaluation of a Training System to Support Re-employment of Non-working Nurses through E-Learning	NI2012	<u>Yumiko Nakamura</u> , Yukie Majima, Yasuko Maekawa, Hiroko Makino, Yukari Nakajima, Yasuko Hosoda, Kazumi Hoshi, Kaori Fukayama
	201208	看護職のための再就職支援研修プログラムにおけるメンター補助機能システムの検証	教育システム情報学会 第37回全国大会	中村裕美子, 真嶋由貴恵, 前川泰子, 深山華織, 星和美
	201208	我が国における医療系eラーニングの状況と課題	教育システム情報学会 第37回全国大会	真嶋由貴恵, 丹羽雅之, 中村裕美子, 柴田善幸, 木下淳博, 金西計英
	201211	病棟看護師の終末期がん患者への退院支援と看護実践能力との関連	第32回日本看護科学学会学術集会	野口忍, 中村裕美子
	201211	在宅における終末期がん患者を看取る家族のためのグリーフケアプログラムの開発とその評価	第32回日本看護科学学会学術集会	岡本双美子, 中村裕美子
	201211	学生の情動知能と在宅看護実習での療養者・家族の心理面に対する理解度との関連	第32回日本看護科学学会学術集会	水谷園子, 中村裕美子
	201211	地域高齢者の認知機能低下予防のための集団プログラムへの参加による認知機能の効果	第32回日本看護科学学会学術集会	中村裕美子, 深山華織, 牧野裕子
	201211	訪問看護師の就労継続に関する看護実践上の困難と対処	第2回日本在宅看護学会学術集会	加茂ふみ子, 中村裕美子
	201211	在宅における終末期がん患者を看取る家族のためのグリーフケアプログラムの評価~家族のインタビューから	第2回日本在宅看護学会学術集会	岡本双美子, 中村裕美子
	201301	電子教科書と電子教材を搭載したタブレット端末の臨床実習への適応	第7回医療系eラーニング全国交流会	中村裕美子, 真嶋由貴恵, 深山華織, 前川泰子
	201302	Evaluation of a web-based mentor functional system for employment support training of nurses who have not been employed	Health INF 2013	<u>Yumiko Nakamura</u> , Yukie Majima, Yasuko Maekawa, Kazumi Hoshi, Kaori Fukayama
高見沢 恵美子	201205	クリティカルケア領域における特徴的な皮膚障害の発生要因の検証	第21回日本創傷オストミ-失禁管理学会学術集会	石澤美保子, 田中結華, 稲垣美紀, 高見沢恵美子

	201207	早期リハビリテーションにおいて救命救急センターの看護師が抱く倫理的ジレンマ	第38回日本看護研究学会	井川梨恵, 高見沢恵美子
	201207	脳低温療法管理に対する看護師の認識および看護実践とその影響要因	第38回日本看護研究学会学術集会	村上香織, 高見沢恵美子
	201207	集中治療部看護師が認識するAMI患者の家族の不安と不安への援助に対する実践及び促進要因と阻害要因	第38回日本看護研究学会	八木彩子, 高見沢恵美子
田中 京子	201211	化学療法による色素沈着を経験しているがん患者の苦痛	第32回日本看護科学学会学術集会	小野寺祐子, 林田裕美, 田中京子
	201212	化学療法中の進行がん患者が家族から受けているサポート	第33回日本看護科学学会学術集会	志方優子, 田中京子, 林田裕美
	201302	緩和的化学療法を受ける造血器がん患者の希望を支える看護援助	第27回日本がん看護学会学術集会	楠岡京, 田中京子, 林田裕美
	201302	終末期がん患者と家族のつながりを支えるための看護援助	第28回日本がん看護学会学術集会	山田理恵, 田中京子, 林田裕美
	201302	外来で経口抗がん剤治療を受けているがん患者の体験	第29回日本がん看護学会学術集会	櫻井真知子, 林田裕美, 田中京子
	201302	術前の化学放射線療法を受けている食道がん患者の困難への対処	第30回日本がん看護学会学術集会	長尾充子, 林田裕美, 田中京子
	201302	化学療法中の進行は胃がん患者が家族から受けているサポートへの思い	第31回日本がん看護学会学術集会	志方優子, 田中京子, 林田裕美
	201302	化学療法による色素沈着を経験しているがん患者の苦痛への対処	第32回日本がん看護学会学術集会	小野寺祐子, 林田裕美, 田中京子
	旗持 知恵子	201206	糖尿病性神経障害患者の徴候, 症状と日常生活の支障との関連	第6回日本慢性看護学会学術集会
201206		包括的心臓リハビリテーションにおける禁煙支援に伴う自己効力感と喫煙状況の変化	第7回日本慢性看護学会学術集会	戸沢智也, 松下由美子, 旗持知恵子
青山 ヒフミ	201208	一般病院に勤務する看護師の職務満足を構成する概念	第16回日本看護管理学会	撫養真紀子, 勝山貴美子, 尾崎フサ子, 青山ヒフミ
	201208	中堅看護師が看護部組織の委員として役割を遂行する上での困難と対処の過程	第16回日本看護管理学会	森迫京子, 撫養真紀子, 青山ヒフミ
	201208	一般病院に勤務する看護師の職務満足測定尺度の信頼性・妥当性の検討	第16回日本看護管理学会	撫養真紀子, 勝山貴美子, 尾崎フサ子, 青山ヒフミ
	201208	看護職における再就職者の組織社会化に関する要因	第16回日本看護管理学会	小西由起子, 撫養真紀子, 青山ヒフミ
	201208	子育て中のパートタイム看護師の働くことへの認識	第16回日本看護管理学会	川北敬美, 撫養真紀子, 青山ヒフミ
	201211	一般病院に勤務する看護師の職業継続意思と自立性及び自己効力感の関連	第32回日本看護学会学術集会	撫養真紀子, 勝山貴美子, 尾崎フサ子, 青山ヒフミ
階堂 武郎	201211	COPD患者の冬期における寝室温度と湿度	第22回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	階堂武郎
杉本 吉恵	201209	ナノミスシャワーによる洗髪と洗浄剤を用いた洗髪との洗浄効果の比較	第11回日本看護技術学会学術集会	横山友子, 杉本吉恵, 田中結華, 中岡亜希子, 高辻功一
	201302	Washing Effects of Nano-mist Shower	16th EAFONS	Tomoko YOKOYAMA, Yoshie SUGIMOTO, Akiko NAKAOKA, Koichi TAKATSUJI, Yuka TANAKA
星 和美	201207	中堅期・新人期の看護師におけるコンピテンシーとその相違に関する検討	第38回日本看護研究学会学術集会	細田泰子, 星和美, 石井京子, 藤原千恵子
	201302	Evaluation of a web-based mentor functional system for employment support training of nurses who have not been employed	HEALTHINF 2013 International Confer	中村裕美子, 真嶋由貴恵, 前川泰子, 深山華織, 星和美
岡本 双美子	201207	ホームホスピス「愛逢の家」の効果に関する調査研究 遺族のインタビューから	第20回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会	兼行栄子, 岡本双美子
	201209	母親の育児不安と父親の育児・家事参加頻度とその満足度との関連について	第19回日本家族看護学会学術集会	黒崎真由, 岡本双美子, 中山美由紀
	201209	一般病棟における終末期がん患者の在宅療養移行に向けての家族支援の阻害要因と促進要因	第19回日本看護学会学術集会	久保田千景, 中山美由紀, 岡本双美子
	201211	ホームホスピス「愛逢の家」の効果に関する調査研究 スタッフのインタビューから	第6回日本死の臨床研究会	岡本双美子
	201211	一般病棟における終末期がん患者の在宅療養移行に向けての家族支援に対する看護師の実践と認識	第32回日本看護科学学会学術集会	久保田千景, 岡本双美子, 中山美由紀
	201211	在宅における終末期がん患者を看取る家族のためのグリーフケアプログラムの開発とその評価	第32回日本看護科学学会学術集会	岡本双美子
	201211	在宅における終末期がん患者を看取る家族のためのグリーフケアプログラムの評価 家族のインタビューから	第2回在宅看護学会	岡本双美子
佐保 美奈子	201207	Satisfaction and difficulties for nurses caring HIV/AIDS patients	The 9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Center (Kobe)	Minako Saho, Miho Furuyama, Kanako Yamada, Chie Tsubaki, Rika Kudo
	201207	Safe-dating workshop for High school students	The 9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Center (Kobe)	Miho Furuyama, Minako Saho, Chie Tsubaki, Kanako Yamada, Rika Kudo
	201207	Illustrated material of sexuality education for teens with congenital disorders or disabilities	The 9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Center (Kobe)	Kanako Yamada, Minako Saho, Miho Furuyama, Rika Kudo, Chie Tsubaki
	201207	思春期の泌尿器科疾患患者・家族へのセクシュアリティ支援イラスト主体の性教育教材『からだところBOOK』を活用して	第21回日本小児泌尿器科学会	佐保美奈子, 島田憲次, 山田加奈子, 工藤里香, 古山美穂, 椿知恵
	201207	HIVサポートリーダー養成研修の試み～価値観・倫理観を涵養する教育を目指して～	第26回近畿エイズ研究会・学術集会	工藤里香, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子, 椿知恵
	201208	Nursing strategies for adolescent females with congenital urological anomalies	The 12th Asia Oceania Congress of Sexology	Minako Saho, Kenji Shimada, Kazuyo Iwami
	201208	Developing an HIV support leader training program for nursing professionals in Japan	The 12th Asia Oceania Congress of Sexology	Rika Kudo, Minako Saho, Miho Furuyama, Kanako Yamada, Chie Tsubaki
	201209	DSDの親子への思春期からのセクシュアリティ支援	第46回日本小児内分泌学会 特別企画 DSDセミナー in 大阪	佐保美奈子
	201211	女性オストメイト用おしゃべり下着の試作	第23回近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	佐保美奈子
	201212	在日韓国・朝鮮人若者の性に関する調査	第51回大阪母性衛生学会学術集会	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子
中嶋 有加里	201211	女子大生の不定愁訴と自律神経系動態の変化	第53回日本母性衛生学会総会	毛受矩子, 佐藤拓代, 中嶋有加里
	201212	おむつなし育児の認知と排泄の自立に対する看護学生の意識調査	第51回大阪母性衛生学会学術集会	山中友理, 中嶋有加里
	201212	妊婦の安全な運転姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	第51回大阪母性衛生学会学術集会	中嶋有加里, 山田加奈子, 椿知恵, 町浦美智子

和泉 京子	201206	社会経済格差をふまえた国保加入者の特定検診受信状況と介護予防事業の利用意向	日本老年社会科学会第54回大会	和泉京子, 阿曾洋子
	201206	社会経済格差をふまえた国保加入者の地域別の健康行動と受療行動	第15回日本地域看護学会学術集会	和泉京子, 阿曾洋子
	201206	新生児訪問時の母親のEPDS及び赤ちゃんへの気持ちと乳幼児健診時の育児不安との関連	第15回日本地域看護学会学術集会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201206	地域で開催されるサロン参加者の健康状態の特徴-参加の継続に着目して-	第15回日本地域看護学会学術集会	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江, 土井有羽子
	201206	地域で生活する女性高齢者の自宅内転倒の実態-家庭訪問による面接調査から-	第15回日本地域看護学会学術集会	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子
	201210	経済的背景をふまえた国保特定健診受診状況と介護保険利用意向・要介護認定の実態	第71回日本公衆衛生学会総会	矢熊恵美子, 舟本美果, 渡辺浩一, 尾久聖子, 和泉京子, 阿曾洋子
	201210	国保の特定健診対象者の自記式質問紙調査回答割合の関連要因と選択バイアス	第71回日本公衆衛生学会総会	和泉京子, 矢熊恵美子, 舟本美果, 渡辺浩一, 尾久聖子, 阿曾洋子
	201210	A市における乳児早期家庭訪問の実態(第1報)	第71回日本公衆衛生学会総会	湯原寛子, 蔦谷裕美, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201210	A市における乳児早期家庭訪問から支援が必要な事例の検討(第2報)	第71回日本公衆衛生学会総会	蔦谷裕美, 湯原寛子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201210	A市における乳児早期家庭訪問から支援が必要な事例の見極め指標の検討(第3報)	第71回日本公衆衛生学会総会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 湯原寛子, 蔦谷裕美
	201211	社会経済格差をふまえた国保加入者の特定健診複数年未受診に関する要因	第32回日本看護科学学会学術集会	和泉京子, 阿曾洋子
木村 洋子	2012年	うつ病者の家族を対象としたプロセスレコードを活用した心理教育プログラムの実施と評価	日本うつ病学会	木村洋子, 長谷川雅美, 桑名行雄
	201210	Family Psycho-Education in Major depressive disorder - Case Report-	ACMHN 38th International Mental Health Conference	Yoko Kimura, Masami Hasegawa, Nagako Tajima
松田 千登勢	201207	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムより見出された課題	日本老年看護学会第17回学術集会	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 山地佳代
	201207	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムの評価	日本老年看護学会第17回学術集会	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子
	201207	特別養護老人ホームで働く看護・介護職による協働の必要性に対する認識-認知症高齢者への食事ケアに焦点をあてて-	日本老年看護学会第17回学術集会	笹谷真由美, 松田千登勢, 長畑多代
石田 宣子	201207	模擬患者参加型演習の教育効果について	第38回日本看護研究学会学術集会	三宅由希子, 石田宣子
	201208	在宅療養者の呼吸管理にアロマテラピーを取り入れた効果の検討	第1回国際アロマテラピー会議	淡海貴子, 増本範子, 小崎洋子, 石田宣子, 牧野裕子
林田 裕美	201211	化学療法による色素沈着を経験しているがん患者の苦痛	第32回日本看護科学学会学術集会	小野寺祐子, 林田裕美, 田中京子
	201211	化学療法中の進行肺がん患者が家族から受けているサポート	第32回日本看護科学学会学術集会	志方優子, 田中京子, 林田裕美
	201302	化学療法による色素沈着を経験しているがん患者の苦痛への対処	第27回日本がん看護学会学術集会	小野寺祐子, 林田裕美, 田中京子
	201302	化学療法中の進行肺がん患者が家族から受けているサポートへの思い	第27回日本がん看護学会学術集会	志方優子, 田中京子, 林田裕美
	201302	緩和的化学療法を受ける造血器がん患者の希望を支える看護援助	第27回日本がん看護学会学術集会	楠岡京, 田中京子, 林田裕美
	201302	終末期がん患者と家族のつながりを支えるための看護援助	第27回日本がん看護学会学術集会	山田理恵, 田中京子, 林田裕美
	201302	外来で経口抗がん剤治療を受けているがん患者の体験	第27回日本がん看護学会学術集会	櫻井真知子, 林田裕美, 田中京子
	201302	術前の化学放射線療法を受けている食道がん患者の困難への対処	第27回日本がん看護学会学術集会	長尾充子, 林田裕美, 田中京子
中岡 亜希子	201206	慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」-看護職者のストーリーから見出される「配慮」について-	日本慢性看護学会第6回学術集会	黒江ゆり子, 寶田穂, 藤澤まこと, 田中結華, 中岡亜希子, 森谷利香
	201208	映画を使ってひと工夫！観る人も観せる人も！クリエーティブシンキング能力を高めるシナマプログラムの開発	日本看護学教育学会第22回学術集会	中岡亜希子, 上杉裕子, 内海桃絵, 九津見雅美, 矢山壮, 樋口明里他
	201209	ナノミストシャワーによる洗髪と洗浄剤を用いた洗髪との洗浄効果の比較	第11回日本看護技術学会学術集会	横山友子, 杉本吉恵, 田中結華, 中岡亜希子
	201211	チーム医療において期待される看護師の専門性~患者が語る看護師の姿から~	第32回日本看護科学学会学術集会	澁谷幸, 中岡亜希子, 山本直美, 三谷理恵
	201302	Washing Effects of Nano-mist Shower	16th EAFONS	Tomoko YOKOYAMA, Yoshie SUGIMOTO, Akiko NAKAOKA, Koichi TAKATSUJI, Yuka TANAKA
細田 泰子	201204	Effects of clinical learning environment on US and Japanese nursing students	2012 Western Institute of Nursing	Mayumi Negishi, Yasuko Hosoda, Paula Gubrud
	201207	中堅期・新人期の看護師におけるコンピテンシーとその相違に関する検討	第38回日本看護研究学会学術集会	細田泰子, 星和美, 石井京子, 藤原千恵子
	201208	看護学実習におけるより豊かな学びに結びつく臨床学習環境の検討	日本看護学教育学会第22回学術集会	池内香織, 細田泰子, 片山由加里
	201211	日米の看護大学生における臨床学習環境に関する比較:メタ認知、看護実践力に及ぼす影響に焦点をあてて	第32回日本看護科学学会学術集会	細田泰子, 根岸まゆみ
古山 美穂	201206	Safe-dating workshop for High school students	The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery	Miho Furuwama, Minako Saho, Chie Tsubaki, Kanako Yamada, Rika Kudo
	201206	Satisfaction and Difficulties for Nurses Caring HIV/AIDS Patients	The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery	Minako Saho, Miho Furuwama, Rika Kudo, Kanako Yamada, Chie Tsubaki
	201206	Illustrated material of sexuality education for teens with congenital disorders or disabilities	The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery	Kanako Yamada, Minako Saho, Miho Furuwama, Rika Kudo, Chie Tsubaki
	201207	思春期の泌尿器科疾患患者・家族へのセクシュアリティ支援イラスト主体の性教育教材『からだところBOOK』を活用して	第21回日本小児泌尿器科学会	佐保美奈子, 島田憲次, 山田加奈子, 工藤里香, 古山美穂, 椿知恵
	201207	HIVサポーター-養成研修の試み~価値観・倫理観を涵養する教育を目指して~	第26回近畿エイズ研究会	工藤里香, 佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 山田加奈子
	201208	Developing an HIV support leader training program for nursing professionals in Japan	The 12th Asia-Oceania Congress of Sexology	Rika Kudo, Minako Saho, Miho Furuwama, Kanako Yamada, Chie Tsubaki
	201212	乳幼児を持つ母親が求める健康な家族機能を支える母親自身の強み	日本子ども虐待防止学会第18回学術集会高知りょうま大会	古山美穂, 才村純
	201212	乳幼児を持つ母親がパートナー・相互関係・家族に求める強み	日本子ども虐待防止学会第18回学術集会高知りょうま大会	古山美穂, 才村純
	201212	市区町村からみた要支援児童等の援助に関する周産期医療への要望	第51回大阪母性衛生学会学術集会	古山美穂, 才村純

	201212	在日韓国・朝鮮人若者の性に関する調査	第51回大阪母性衛生学会学術集会	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子
大川 聡子	201206	地域ボランティアが持つ若年母親への認識の変化	第15回日本地域看護学会	大川聡子
	201206	地域で開催されるサロン参加者の健康状態の特徴ー参加の継続に着目してー	第15回日本地域看護学会	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江, 土井有羽子
	201206	新生児訪問時の母親のEPDS及び赤ちゃんへの気持ちと乳幼児健診時の育児不安との関連	第15回日本地域看護学会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201209	若年母親が妊娠から出産に至るまでの軌跡	第31回日本思春期学会	大川聡子
	201210	虐待発生予防に焦点を当てた産科医療機関と保健機関の支援の実態調査(第1報)	第71回日本公衆衛生学会	大川聡子, 能仁悦子, 西本夕紀, 池田和功, 上野昌江
	201210	虐待発生予防に焦点を当てた産科医療機関と保健機関の支援の実態調査(第2報)	第71回日本公衆衛生学会	能仁悦子, 西本夕紀, 大川聡子, 池田和功, 上野昌江
	201210	A市における乳児早期家庭訪問の実態(第1報)	第71回日本公衆衛生学会	湯原寛子, 葛谷裕美, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201210	A市における乳児早期家庭訪問から支援が必要な事例の検討	第71回日本公衆衛生学会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 湯原寛子, 葛谷裕美
	201210	A市における乳児早期家庭訪問から支援が必要な事例の見極め指標の検討	第71回日本公衆衛生学会	葛谷裕美, 湯原寛子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
別宮 直子	201209	通所療育を始めた自閉症児の行動変容が母親に与える心理的影響	日本健康心理学会	別宮直子
	201212	通所療法を開始した自閉症児の行動が母親の精神面に与える影響	日本看護科学学会	別宮直子
山内 加絵	201207	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムの評価	日本老年看護学会第17回学術集会	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子
	201207	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムにより見出された課題	日本老年看護学会第17回学術集会	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 山地佳代
撫養 真紀子	201208	一般病院に勤務する看護師の職務満足を構成する概念	第16回日本看護管理学会	撫養真紀子, 勝山貴美子, 尾崎フサ子, 青山ヒフミ
	201208	中堅看護師が看護部組織の委員として役割を遂行する上での困難と対処の過程	第16回日本看護管理学会	森迫京子, 撫養真紀子, 青山ヒフミ
	201208	一般病院に勤務する看護師の職務満足測定尺度の信頼性・妥当性の検討	第16回日本看護管理学会	撫養真紀子, 勝山貴美子, 尾崎フサ子, 青山ヒフミ
	201208	看護職における再就職者の組織社会化に関連する要因	第16回日本看護管理学会	小西由起子, 撫養真紀子, 青山ヒフミ
	201208	子育て中のパートタイム看護師の働くことへの認識	第16回日本看護管理学会	川北敬美, 撫養真紀子, 青山ヒフミ
	201211	一般病院に勤務する看護師の職業継続意思と自立性及び自己効力感の関連	第32回日本看護科学学会学術集会	撫養真紀子, 勝山貴美子, 尾崎フサ子, 青山ヒフミ
岡崎 裕子	201207	エキスパートパネル;プレレーション	第22回日本小児看護学会	蝦名美智子, 檜木野裕美, 小野智美, 井伊久美子, 岡崎裕子, 長谷川由香, 栗林祐季
椿 知恵	201207	Safe-dating workshop for High school students	The 9th International conference with the Global Network of WHO	Miho Furuyama, Minako Saho, Chie Tsubaki, Kanako Yamada, Rika Kudo
	201207	Satisfaction and Difficulties for Nurses Caring HIV/AIDS Patients	The 9th International conference with the Global Network of WHO	Minako Saho, Miho Furuyama, Rika Kudo, Kanako Yamada, Chie Tsubaki
	201207	Illustrates material of sexuality education for teens with congenital disorders or disabilities	The 9th International conference with the Global Network of WHO	Knako Yamada, Minako Saho, Miho Furuyama, Rika Kudo, Chie Tsubaki
	201207	思春期の泌尿器科疾患患者・家族へのセクシュアリティ支援ーイラスト主体の性教育教材『からとこBOOK』を活用してー	第21回日本小児泌尿器科学会	佐保美奈子, 島田憲次, 山田加奈子, 工藤里香, 古山美穂, 椿知恵
	201207	HIVサポートリーダー養成研修の試み〜価値観・倫理観を涵養する教育を目指して〜	第26回近畿エイズ研究会	工藤里香, 佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 山田加奈子
	201208	Developing an HIV support leader training program for nursing professionals in Japan	第12回アジア・オセアニア性科学学会	Rika Kudo, Minako Saho, Miho Furuyama, Chie Tsubaki, Knako Yamada
	201211	朝鮮初級学校における学校性教育内容の検討	第35回医協学術報告会	高知恵, 周英姫, 尹佳愛, 洪京華, 高英実
	201212	在日韓国・朝鮮人若者の性に関する調査	第51回大阪母性衛生学会学術集会	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子
	201212	妊婦の安全な運転姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	第51回大阪母性衛生学会学術集会	中嶋有加里, 山田加奈子, 椿知恵, 町浦美智子
	201303	朝鮮初級学校保護者による家庭での性に関する教育と学校性教育へのニーズ	日本国際保健医療学会 第31回西日本地方会	椿知恵
羽畑 正孝	201208	A大学看護学科学学生の半年後の「自己教育力」の特徴とその要因分析	第22回日本看護学教育学会学術集会	羽畑正孝, 谷口由佳, 川崎絵里香, 長尾厚子, 高松邦彦, 関雅幸
	201211	A大学看護学科学学生の「自己教育力」に影響を及ぼす要因の検討	第32回日本看護科学学会学術集会	谷口由佳, 羽畑正孝, 長尾厚子, 高松邦彦, 関雅幸
山田 加奈子	201207	Safe-dating workshop for High school students	The9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery	古山美穂, 佐保美奈子, 椿知恵, 山田加奈子, 工藤里香
	201207	Satisfaction and Difficulties for Nurses Caring HIV/AIDS Patients	The9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery	佐保美奈子, 古山美穂, 工藤里香, 山田加奈子, 椿知恵
	201207	Illustrates material of sexuality education for teens with congenital disorders or disabilities	The9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery	山田加奈子, 佐保美奈子, 古山美穂, 工藤里香, 椿知恵
	201207	思春期の泌尿器科疾患患者・家族へのセクシュアリティ支援ーイラスト主体の性教育教材『からとこBOOK』を活用してー	第21回日本小児泌尿科学会	佐保美奈子, 島田憲次, 山田加奈子, 工藤里香, 古山美穂, 椿知恵
	201207	HIVサポートリーダー養成研修の試み〜価値観・倫理観を涵養する教育を目指して〜	第26回近畿エイズ研究会	工藤里香, 佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 山田加奈子
	201208	Developing an HIV support leader training program for nursing professions in Japan	第12回アジア・オセアニア性科学学会	工藤里香, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子, 椿知恵
	201212	妊婦の安全な運転姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	第51回大阪母性衛生学会学術集会	中嶋有加里, 山田加奈子, 椿知恵, 町浦美智子
	201212	在日韓国・朝鮮人の性に関する調査	第51回大阪母性衛生学会学術集会	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子
	201303	カンポジアスタディーツアーとその意義	日本国際保健医療学会第31回西日本地方会	安丸英理子, 福吉美里, 奥瑞穂, 松園梨代, 山田加奈子, 垣本和宏
	江口 恭子	201207	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムにより見出された課題	日本老年看護学会第17回学術集会
201207		生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムの評価	日本老年看護学会第17回学術集会	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子

日下部 祥子	201208	新たな看護介入枠組み導入とその運用に際して-ある統合失調症患者への介入を通して	日本精神科看護学会	日下部祥子
根来 佐由美	201206	新生児訪問時の母親のEPDS及び赤ちゃんへの気持ちと乳幼児健診時の育児不安との関連	第15回日本地域看護学会学術集会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201206	地域で開催されるサロン参加者の健康状態の特徴-参加の継続に着目して-	第15回日本地域看護学会学術集会	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江, 土井有羽子
	201209	角層水分量からみた高齢者の皮膚乾燥度評価	第11回 コ・メディカル形態機能学会学術集会	根来佐由美, 葉山有香, 井上智子
	201210	A市における乳児早期家庭訪問の実態(第1報)	第71回日本公衆衛生学会総会	湯原寛子, 髙谷裕美, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201210	A市における乳児早期家庭訪問から支援が必要な事例の検討(第2報)	第71回日本公衆衛生学会総会	髙谷裕美, 湯原寛子, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201210	A市における乳児早期家庭訪問から支援が必要な事例の見極め指標の検討(第3報)	第71回日本公衆衛生学会総会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 湯原寛子, 髙谷裕美
	201211	水中運動後のケアに弱酸性水を連用使用した場合の効果	第22回日本健康医学会総会	根来佐由美, 井上智子
深山 華織	201207	Evaluation of a Training System to Support Re-employment of Non-working Nurses through E-Learning	NI2012	Yumiko Nakamura, Yukie Majima, Yasuko Maekawa, Hiroko Makino, Yukari Nakajima, Yasuko Hosoda, Kazumi Hoshi, Kaori Fukayama
	201208	看護職のための再就職支援研修プログラムにおけるメンター補助機能システムの検証	教育システム情報学会 第37回全国大会	中村裕美子, 真嶋由貴恵, 前川 泰子, 深山華織, 星和美
	201212	地域高齢者の認知機能低下予防のための集団プログラムへの参加による認知機能の効果	第32回日本看護科学学会学術集会	中村裕美子, 深山華織, 牧野裕子
	201301	電子教科書と電子教材を搭載したタブレット端末の臨床実習への適応	第7回医療系eラーニング全国交流会	中村裕美子, 真嶋 由貴恵, 深山華織, 前川泰子
	201302	Evaluation of a web-based mentor functional system for employment support training of nurses who have not been employed	Health INF 2013	Yumiko Nakamura, Yukie Majima, Yasuko Maekawa, Kazumi Hoshi, Kaori Fukayama
山地 佳代	201207	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムにより見出された課題	日本老年看護学会第17回学術集会	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 山地佳代
	201207	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職に向けた教育プログラムの評価	日本老年看護学会第17回学術集会	山地佳代, 長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子
松本 智晴	201206	An Investigation of the Relationship between Nursing Care and Hospital Tarm Using DPC	11th International Congress on Nursing Informatics	松本智晴, 宇都由美子, 熊本一朗
	201208	看護必要度3票からみた患者分類の特徴と臨床指標としての精度に関する研究	第13回日本医療情報学会看護学大会	山本むつみ, 松本智晴, 信太圭一, 宇都由美子, 熊本一朗
	201208	決定木を用いた看護ケア量に影響を及ぼす患者の特性分析に関する研究	第13回日本医療情報学会看護学大会	松本智晴, 山本むつみ, 信太圭一, 佐々木雅史, 宇都由美子, 熊本一朗
	201211	看護必要度3票DPCコードを用いた患者分類と臨床指標としての精度に関する研究	第32回医療情報学連合大会	山本むつみ, 松本智晴, 信太圭一, 宇都由美子, 熊本一朗
	201211	2025年問題が及ぼす画像診断検査の需要の予測	第32回医療情報学連合大会	信太圭一, 松本智晴, 山本むつみ, 佐々木雅史, 宇都由美子, 熊本一朗
	201211	看護ケア量に影響を及ぼす患者の特性分析によるマネジメントツールの研究	第32回医療情報学連合大会	松本智晴, 山本むつみ, 信太圭一, 佐々木雅史, 宇都由美子, 熊本一朗
池内 香織	201208	看護学実習におけるより豊かな学びに結びつく臨床学習環境の検討	日本看護学会学術集会第22回学術集会	池内香織, 細田泰子, 片山由加里
山口 舞子	201209	人工膝関節全置換術を受けた患者の退院後の生活調査からみた患者参加型看護計画の実践と評価	日本看護協会学術集会老年看護	白田聖子, 徳井真雄, 山本和代, 山口舞子, 庄野史代, 渡部幹子

4) その他の外部資金(代表者)

氏名	研究課題名	研究種目	申請先	獲得金額(円)
垣本 和宏	開発途上国におけるHIV対策の評価及びその改善に向けた研究	国立国際医療研究センター	国立国際医療研究センター	900,000
青山 ヒフミ	急性期病院に勤務する中堅看護師の職務満足に関連する要因の分析	看護実践の基礎となる研究助成	日本看護協会出版会	25,000
岡本 双美子	終末期がん患者とその家族への在宅療養移行における支援内容とその評価	研究助成	日本死の臨床研究会	300,000
徳岡 良恵	がん看護外来における高度看護実践と成果に関する基礎研究	がん看護研究助成金	公益財団法人安田記念医学財団	50,000

5) 講演会・シンポジウム・研究会等の講演

氏名	講演会・シンポジウム・研究会等の講演	題名	会場等	日時
垣本 和宏	アジア経済研究所 途上国のHIV/AIDS感染を止めるには	Operational Researches on PMTCT: Cases of Cambodia and Zimbabwe	アジア経済研究所	2012年11月30日
	2nd Asia HIV/AIDS Research Network Meeting	PMTCT and Reproductive Health	国立国際医療研究センター	2013年1月19日
檜木野 裕美	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	小児看護学実習	大阪府看護協会ナーシングアート大阪	2012年7月9日
町浦 美智子	平成24年度看護研究研修会	看護研究におけるクリティクスの視点	大阪府立母子保健総合医療センター	2012年7月31日
	平成24年度教育担当者研修	看護基礎教育の現状	愛染橋病院	2012年8月10日
上野 昌江	平成24年度児童虐待防止協会オープン講座実践編	地域における子ども虐待の予防・早期発見・支援のあり方 親に寄り添う支援	大阪社会福祉指導センター	2012年8月4日
	平成24年度母子保健対策研修会	産科医療機関・助産院と市町村保健機関の連携に関する調査報告 奈良県の現状と課題	奈良県桜井総合庁舎	2012年8月24日
	泉大津市周産期虐待予防ネットアワー実務者会議	産科医療機関と市町村保健機関の連携の重要性	泉大津市立病院	2012年9月20日
	大阪府保健師児童虐待予防研修事業	子どもの虐待死の現状と妊娠から乳幼児における保健師の活動	大阪社会福祉会館	2012年9月21日
	平成24年度山城保健所管内母子保健従事者研修会	子育てのしにくさを感じている母に寄り添い支援する活動とは	山城保健所	2012年10月16日
	放課後児童クラブ指導員研修	子ども虐待とは 親子支援の第一歩	精華町役場	2012年11月19日

	平成24年度厚生労働科学研究我が国におけるチャイルド・デス・レビューに関する研究班 第3回公開シンポジウム	自治体の児童虐待死亡検証から見る実態と今後の課題 保健師の役割と課題	東京女子医科大学 弥生記念講堂	2012年12月24日
	児童虐待防止のための早期支援体制・対応強化研修	保健師活動の見える記録 子ども虐待予防に向けて	伊丹健康福祉事務所	2013年1月11日
	岡山県備前保健所 子育て支援者研修会	子ども虐待による死亡事例等の検証結果からみえてきたもの	岡山県三光荘	2013年2月1日
	中芸広域連合子育て支援研修会	1歳までの家庭訪問活動CAREプログラムから	高知県田野町中芸広域連合	2013年3月16日
長畑 多代	大阪府看護協会研修会 老年看護Ⅰ	高齢者の理解と老年看護 認知症の正しい知識	大阪府看護協会	2012年6月12日、10月24日、 2013年2月20日
	羽曳野市いきいき介護フォーラム	地域で支える認知症	LICはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)	2013年1月19日
中村 裕美子	看護導入研修	フィリピン人看護師候補者に対する看護導入研修	大阪市	2012年9月15日
	大阪府保健師2年目研修	保健師の地区活動の展開	大阪市	2012年10月30日
田中 京子	がん性疼痛看護認定看護師教育課程 講師	ストレスコーピング理論 / 危機理論	大阪府看護協会	2012年7月18日
旗持 知恵子	職員研修会 (看護研究研修)	看護研究とは-プロセスから知る量的研究-	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	2012年5月16日
	職員研修会 (看護研究研修)	看護研修(計画書指導) 1~4回	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	2012年9月11日、9月24日 10月17日、11月13日
堀井 理司	第12回日本感染看護学会学術集会会長講演	CNS教育の充実に向けて	大阪社会福祉指導センター	2012年7月28日
佐保 美奈子	大阪府委託看護教員養成研修	母性看護学教育課程	大阪府看護協会	2012年7月20日、7月27日
	第2回母子センターCAHの会	からだの変化(第2次性徴と月経)	大阪府立母子保健総合医療センター	2012年7月28日
	HIV研修 ベーシックコース 講演	性の多様性	大阪医療センター	2012年9月10日、10月15日
	大阪府助産師会堺支部交流会	それぞれの性教育	えると会館	2012年10月8日
	大阪府委託実習指導者講習会	母性看護学実習	大阪府看護協会	2012年10月17日
	第11回全国ヤングDMカンファレンスin大阪	妊娠・出産(思春期以後)	大阪アカデミア	2012年11月23日
	大阪府看護協会主催 HIV研修	HIV看護から学ぶこと	大阪府看護協会	2012年12月15日
	枚方市民病院 職員研修	HIVの予防とケア	枚方市民病院	2013年1月28日
	大阪府教育委員会 研修	性に関する指導について	大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)	2013年1月30日
北川 末幾子	特別支援学校 養護教諭キャリアアップ研修会	特別支援学校における保健室経営	国立オリンピック記念青少年総合センター	2012年8月20日
松田 千登勢	日本認知症ケア学会 事例検討会	学会の関西2地位部会主催の事例検討会	京都みやこめっせ	2012年12月18日
	日本認知症ケア学会 事例検討会	学会の関西2地位部会主催の事例検討会	和歌山県地域地場産業振興センター	2013年1月12日
林田 裕美	臨床実習指導者会 講師	学生の特徴と臨床指導場面への活用	大阪府立成人病センター	2012年10月11日
藪下 八重	職員研修会 (看護研究研修)	質的研究:ケーススタディ	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	2012年6月6日
中岡 亜希子	認定看護師キャリア支援講習会	クリティカルシンキングを看護過程にどう活かすか	愛知医科大学	2013年2月9日
	大阪府看護協会府南支部看護研究発表会	看護研究発表会の講評	四天王寺大学	2013年2月23日
細田 泰子	大阪府専任教員養成講習会	看護教育評価論	大阪府看護協会	2012年5~7月
	職員研修会 (看護研究研修)	研究クリティーク	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	2012年7月12日
	府立5医療センター新人看護職員教育担当者研修	成人学習論とインストラクショナルデザイン	大阪府立急性期総合医療センター	2012年11月9日
	府立5医療センター新人看護職員実地指導者研修	教育目標、教育方法(指導的かかわり)、教育評価	大阪府立急性期総合医療センター	2013年2月22日
	奈良県立医科大学附属病院サポーター研修Ⅰ	教育プログラムと成人学習の理論	奈良県立医科大学病院	2013年3月11日
古山 美穂	エイズ予防教育リーダー養成研修	セクシュアリティ概論	大阪府看護協会桃谷センター	2012年5月31日
	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師	母性看護学実習	大阪府看護協会ナーシングアート大阪	2012年7月23日
	第69回院内看護研究発表会	看護研究発表会の講評	大阪府立母子保健総合医療センター	2012年10月5日
山内 加絵	保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師	老年看護学実習指導の実態Ⅰ	近畿厚生局	2012年10月23日
撫養 真紀子	リーダーシップマネジメントⅡ 研修	リーダーシップとマネジメント理論の理解とその活用	大阪府立母子保健総合医療センター	2012年7月27日、12月27日
	府立5医療センター看護師長研修 講師	看護職員の職務満足の上向上につながるマネジメント	大阪府立母子保健総合医療センター	2012年8月29日 2013年1月29日
	教育担当者研修 講師	教育担当者への院内教育	愛染橋病院	2012年10月12日 2013年1月25日
椿 知恵	平成24年度 HIVサポーターリーダー養成研修	セクシュアリティ概論・早春期のセクシュアリティ	大阪府看護協会桃谷センター	2012年5月31日、10月25日
	第8回セクシュアリティ教育研究会	在日韓国・朝鮮人の子どもたちへのセクシュアリティ教育支援からみえること	療養学習支援センター	2012年8月20日
山田 加奈子	HIVサポーターリーダー養成研修	コンドーム達人講座(知識と技術)	大阪府看護協会桃谷センター	2012年6月2日
	HIVサポーターリーダー養成研修	セクシュアリティ概論	大阪府看護協会桃谷センター	2012年10月25日

石橋 千夏	東大阪市保健所 難病患者講習会	クローン病患者の災害時の備えについて	東大阪市保健所	2013年3月29日
池内 香織	ケーススタディ 講師	2年目看護師へのケーススタディ指導	大阪南医療センター	2012年9～12月
伊藤 良子	一歩セミナーシリーズⅢ	素敵な人間関係のつくり方—人付き合い、楽しくラクにしませんか？	東大阪市男女共同参画センターイコーラム	2012年10月13日
	ケーススタディ 講師	2年目看護師へのケーススタディ指導	大阪南医療センター	2012年9月～2013年2月
山口 舞子	看護管理者研修	統計学入門	阪和第二泉北病院	2012年12月25日

6) 公開講座

氏名	公開講座名	題名	会場等
町浦 美智子	平成24年度大阪府立大学公開講座 消費者子育てセミナー	女性のライフサイクルと課題	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
堀井 理司	平成24年度大阪府立大学公開講座 ころろ×からだの健康づくり	小児期ウイルス感染症に対する健康管理—看護学の視点から—	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
高橋 清子	平成24年度はびきの市民大学	快適な人生(QOL)をめざして～ちいさなワクワクみつけた～	LICはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)
和泉 京子	平成24年度はびきの市民大学	日々の健康づくりは介護予防の第一歩	LICはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)
中岡 亜希子	平成24年度羽曳野キャンパス公開講座	ライフストーリーから健康を考えてみよう	大阪府立大学羽曳野キャンパス

7) 出張講義・出前講義

氏名	出張・出前先	講義名	日時
旗持 知恵子	大阪市立生涯学習センター	成人期にある人の生活習慣病の予防と管理	2012年10月26日
杉本 吉恵	大阪府立狭山高等学校	看護の魅力	2012年11月8日
佐保 美奈子	ベルランド看護助産専門学校	セクシュアリティとケアリング	2012年6月8日
	堺市立堺高等学校	DV防止教育	2012年6月26日、27日
	大阪府立堺東高等学校	HIV/AIDS 予防教育	2012年11月22日
	大阪商業大学附属高等学校	デートバイオレンスの予防とおしゃれ障害	2013年1月10日
	千里金欄大学	セクシュアリティと看護	2013年1月24日
	大阪府立成美高等学校	デートバイオレンスの予防ワークショップ	2013年1月24日、25日
	大阪商業大学附属高等学校	デートバイオレンスの予防とおしゃれ障害予防	2013年2月7日
	大阪府立今宮工科高等学校	デートバイオレンスの予防とおしゃれ障害予防	2013年2月26日
中嶋 有加里	大阪府立懐風館高等学校	懐風館セミナー 看護のごと	2012年11月22日
	四天王寺大学	妊娠・分娩から見た女性の健康づくりの重要性	2012年12月17日
古山 美穂	羽曳野市立子育て支援センターふるいち	大丈夫のおまじない—自分にも、子どもにも、優しいまじいで—	2012年6月12日
	大阪府立天王寺高等学校	これからの自分探し	2012年6月21日
	堺市立堺高等学校	生と性の授業	2012年6月26日、27日
	大阪府教育センター附属高等学校	保健講話「これからの自分探し」	2012年10月4日
	大阪府立成美高等学校	生と性の授業	2013年1月24日、25日
	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	これからの自分探し	2013年1月31日
撫養 真紀子	大阪府立岡高等学校	看護職の仕事とは	2012年6月21日
樺 知恵	大阪府立今宮高等学校	お付き合いのマナーとおしゃれ障害について	2012年5月17日
	福島朝鮮初級学校	思春期のころとからだ	2012年6月6日
	東大阪朝鮮初級学校	思春期のころとからだ	2012年6月22日
	堺市立堺高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2012年6月26日、27日
	京都朝鮮初級学校	思春期のころとからだ	2012年7月4日
	北大阪朝鮮初級学校	思春期のころとからだ	2012年7月21日
	大阪府立阪南高等学校	これからの自分探し	2012年10月18日
	大阪府立桜塚高等学校	大切な私を守るために	2012年11月22日
	大阪府立成美高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2013年1月24日、25日

	城南学園小学校	自分も相手も大切にしよう	2013年2月13日
山田 加奈子	堺市立堺高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2012年6月26日、27日
	大阪府立堺東高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2012年10月11日
	大阪府立桜塚高等学校(定時制)	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2012年11月22日
	大阪府立成美高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2013年1月24日、25日
	大阪府立今宮工科高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2013年2月26日
	大阪府立大手前高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2013年2月27日
	伊藤 良子	大阪府立東百舌鳥高等学校	性暴力とデートDV
大東学園高等学校		性暴力被害者に寄りそう	2013年2月1日

8) 公的な委員会など

氏名	委嘱先・参画委員会名	職務内容	役職名
垣本 和宏	国際協力機構青年海外協力隊 技術支援委員会	エイズ対策隊員に係る技術的支援	委員
	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター治験審査委員会	外部委員	委員
	WHO HIV研究ネットワーク	アジア地域でのHIV研究成果の共有	メンバー
	アジア太平洋大学交流機構日本国内委員会	アジア太平洋地域の学生交流の促進	専門家委員
	大阪府おおさかグローバル奨学金選考委員会	留学奨学金の審査	委員長
	大阪府高校生留学支援金選考委員会	公募された留学支援金の支援先の選考	委員長
中山 美由紀	大阪府看護協会 訪問看護ステーションにおける小児訪問看護推進事業運営委員会	小児訪問看護の推進事業	委員
楳木野 裕美	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 小児看護専門分科会	小児看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議	委員
	日本小児看護学会	専任査読	委員
	日本看護研究学会	査読委員	委員
	日本看護科学学会	和文査読	委員
	大阪府看護協会 調査研究倫理審査会	調査研究倫理審査	委員
町浦 美智子	保健師助産師看護師国家試験委員会	既存の助産師国家試験問題および公募にて提出された問題の見直し等を行い、問題の精選化を図る	委員
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 母性看護専門分科会	母性看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議	委員長
上野 昌江	厚生労働省社会保障審議会	子ども虐待による死亡事例の検証結果の取りまとめと報告書作成	委員
	藤原九十郎顕彰委員会	大阪府内保健師功労者の選定と表彰	委員
	泉大津市健康泉大津21計画推進委員会	泉大津市の健康づくりを目指し、各団体の健康づくり活動の推進・支援	委員長
	羽曳野市健康づくり推進協議会	羽曳野市の健康づくり事業について検討	委員
	日本看護協会専門看護師認定委員会	専門看護師の認定について審議する	委員
	奈良県母子保健運営協議会	母子保健の課題を検討、医療機関と保健機関の連携を促進する	委員
	大阪市保健師人材育成評価検討会	保健師人材育成の現況から新任期保健師・中堅期保健師の課題について検討する	委員
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 地域看護専門分科会	地域看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議	委員長
	京都府児童虐待防止アドバイザー	児童虐待防止について専門職へのアドバイスを行う	委員(アドバイザー)
長畑 多代	大阪府介護保険審査会	介護保険制度における不服申立の審理	委員
	大阪府准看護師試験委員会	試験問題の作成、審議	委員
	堺市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	藤井寺市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	藤井寺市地域密着型サービス運営委員会	事業者の選定	委員
	藤井寺市地域包括支援センター運営協議会	センターの運営に関する協議	委員
	藤井寺市保健福祉推進協議会	いきいき長寿プラン策定の協議	委員
中村 裕美子	大阪府介護保険審査会	介護保険制度における不服申立の審理	委員
	日本学術振興会 科学研究費委員会	科学研究費の審査	専門委員

高見沢 恵美子	文部科学省大学設置・学校法人審議会	設置計画履行状況の調査	専門委員
	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター研究倫理委員会	研究倫理審査	委員
	堺市立病院機構評価委員会	堺市立病院機構の評価	委員
	日本看護協会専門看護師認定委員会(重症患者看護)	重症患者看護専門看護師の認定について審議	委員
	日本看護協会専門看護師制度委員会	専門看護師認定制度について審議	委員
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 クリティカルケア看護専門分科会	クリティカルケア看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議	委員長
	大阪府看護協会 教育・学会担当理事	大阪府看護協会の認定看護師教育、研修、学会を担当	理事
	大阪府医療審議会	大阪府の医療行政についての審議	委員
田中 京子	日本看護協会専門看護師認定実行委員会(がん看護)	がん看護専門看護師の認定審査	委員
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 がん看護専門分科会	がん看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議	副委員長
	日本がん看護学会	学会誌研究論文の査読	専任査読
	文部科学省 大学設置・学校法人審議会	大学設置に関する審査	専門委員
旗持 知恵子	第9回日本循環器看護学会	学会の企画運営(企画委員)	委員
	第7回日本慢性看護学会学術集会	学会の企画運営(企画委員)	委員
	日本看護研究学会	学会誌研究論文の査読	専任査読
	公益社団法人兵庫県看護協会認定看護師教育課程委員会	認定看護師教育課程の受講決定、修了にかんすることの審議と決定	委員長
	日本糖尿病教育・看護学会編集委員会	学会誌研究論文の査読	専任査読
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 慢性看護専門分科会	慢性看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議	委員
杉本 吉恵	保健師助産師看護師国家試験委員会	既存の看護師国家試験問題および公募にて提出された問題の見直し等を行い、問題の精選化を図る	委員
岡本 双美子	羽曳野市介護認定審査会	介護保健の要介護認定の二次判定	委員
佐保 美奈子	大阪府教育委員会 大阪府立成美高等学校学校協議会	学校協議会での司会進行	会長
中嶋 有加里	日本母性看護学会	研究助成選考委員、査読委員	委員
	第14回日本母性看護学会学術集会	査読委員	委員
	大阪母性衛生学会	学会運営	幹事
和泉 京子	高石市保健医療福祉審議会	保健福祉医療計画の策定	委員
	高石市老人保健福祉介護保険部会	介護保険第5期計画の策定	委員長
	高石市指定管理者候補者選定委員会	高石市立老人保健施設等選定委員長	委員長
	高石市庁舎及び庁舎別館清掃管理業務委託総合評価指名競争入札評価委員会	入札評価の検討	委員
	堺市健康福祉局長寿社会部 堺市地域密着型サービス事業者選定審査会	事業者の選定	委員
	堺市健康福祉局福祉施設等施設整備審査会	福祉施設等の施設整備の審査	委員
	羽曳野市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	羽曳野市介護保険等推進協議会	羽曳野市の介護保険等の推進	委員
	茨木市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	摂津市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
松田 千登勢	認知症ケア専門士試験委員会	認知症ケア専門士試験の面接審査	委員
	羽曳野市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
佐藤 淑子	第12回日本感染看護学会学術集会	企画委員	委員
林田 裕美	大阪府看護協会認定看護師教育課程教員会	カリキュラム作成、成績評価など	委員
	日本がん看護学会	研究論文の査読	専任査読
藪下 八重	日本慢性看護学会特別委員会B	慢性看護専門看護師教育課程設置に関する検討、調査	委員
	第7回日本慢性看護学会学術集会	企画委員(プログラム担当)	委員
細田 泰子	大阪府専任教員養成講習会運営委員会	大阪府専任教員養成講習会の運営に関する検討	委員
古山 美穂	第50回大阪体育学会	実行委員	委員

	第23回大阪府看護研究学会	査読委員	委員
山内 加絵	藤井寺市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
撫養 真紀子	大阪府看護協会 認定看護管理者制度教育課運営委員会	看護管理者教育プログラムの検討、受講者選考 実行委員	委員
	大阪府看護協会 社会経済福祉委員会	ワークライフバランス、中堅看護師のキャリア成熟度についての実態調査を分析	委員
大川 聡子	羽曳野市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	第1回日本公衆衛生看護学会学術集会	学術集会の運営 実行委員	委員
江口 恭子	認知症カフェのあり方と運営に関する調査検討委員会	調査・研究および報告書の作成	委員
根来 佐由美	大阪府看護協会 保健師職能委員会	保健師職能として人材育成等の研究会等の企画・運営、支部の意見集約	委員
	大阪府看護協会 府南支部	府南地区における看護協会の活動の企画・運営	委員
	第1回日本公衆衛生看護学会学術集会	学術集会の運営 実行委員	委員
角野 雅春	第6回日本慢性看護学会	実行委員	委員
	第7回日本慢性看護学会	企画委員(プログラム担当)	委員
齋野 貴史	第12回日本感染看護学会学術集会	企画委員	委員
池内 香織	日本音楽療法学会近畿支部学術大会	実行委員	委員
伊藤 良子	堺市男女共同参画市民懇話会	市民談話会委員、市民を対象としたシンポジウム、ワークショップの企画・運営	委員

9) 国際交流活動

氏名	関係機関名	活動の概要	相手国
垣本 和宏	国立母子保健センター	研究・交流事業打ち合わせ	カンボジア王国
	マヒドン大学	外国人招へい教員事業 教員受入れ	タイ王国

10) その他の社会貢献

氏名	社会活動先	職務内容
垣本 和宏	国立国際医療研究センター	客員研究員
	経済産業省 東アジアASEAN経済研究センター	研究プロジェクトへの参画
佐保 美奈子	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業	平成24年度第1回HIVサポートリーダー養成研修(DVDを使用した出前講義)
	有馬臨床教育学研究会	青少年の性とセクシュアリティに関する臨床教育学的研究経過 研修講師
	大阪府立高津高等学校	高大連携 高校生の研究室訪問
伊藤 良子	NPO法人 しあわせなみだ	性暴力被害にあわれた女性・セクシャルマイノリティ(LBTI)の方のためのピア・サポートグループの運営

編集後記

大阪府立大学看護学部の年報第8巻を、看護学部（看護学類）各委員会、羽曳野キャンパス事務所の皆様のご協力により、作成することができましたことを厚くお礼申し上げます。

本報の掲載内容は、平成24年4月から平成25年3月までの1年間の教育・研究等の内容に関するものです。

編集作業を通して、より一層、本大学看護学部（看護学類）・看護学研究科の充実のために教職員、学生らとともに改善に向け一歩ずつ積み上げる努力が必要であることを痛感いたしました。さらに大阪の社会風土に根ざす開かれた公立大学としての役割を担う、社会に貢献する意義ある教育・学術研究の府としての実績を評価される様今後も益々活動していきたいと考えております。

評価・企画実施委員会

委員長	中山 美由紀	学部長	高見沢 恵美子
委員	青山 ヒフミ	委員	籀持 知恵子
委員	細田 泰子	委員	石田 宜子
委員	木村 洋子	委員	深山 華織